



朝陽



No.67
2018 May

東京都立新宿高等学校〔府立第六中学校〕朝陽同窓会

CHEZ MATSUO

シェ松尾のお食事・ご宴会・ご婚礼



シェ松尾・青山サロン

東京都渋谷区渋谷 1-2-5 アライブ美竹 B1F

シェ松尾・松濤レストラン

東京都渋谷区松濤 1-23-15



グランファミリーユ・シェ松尾

東京都世田谷区成城 6-5-34 成城コルティ4F

シェ松尾のご予約承ります。

朝陽同窓会の会員並びにご家族には優待制度がございます。

(但し、直接店舗にご予約された場合を除きます。)

株式会社ボンサンテ

代表取締役 梅澤博 (23 回)

TEL : 03(6868)6759 FAX : 03(6868)6021

E-mail : umezawa@bonnesante.co.jp

朝陽六七号 目次

会長ご挨拶……………17 田中俊郎 ……2
周年記念特集記事

卒業二十周年……………五十回生 ……3
 卒業三十周年……………四十回生 ……10
 卒業四十周年……………三十回生 ……16
 卒業五十周年……………二十回生 ……22
 卒業六十周年……………十回生 ……30

同窓会員寄稿随筆

子供の虐待を防ぐ……………24 酒井邦彦 ……32
 世に「草落語」こそ愉しけれ……………6 山岸哲男 ……34
 強さ、やさしさ、たくましさ……………33 国沢真弓 ……37

新宿高校とその後の私……………15 堀内(松下)直代 ……38

支部便り

北海道朝陽会支部便り……………38 小川一雄 ……41
 宮城朝陽会支部便り……………38 小田島肇 ……41
 群馬朝陽会支部便り……………25 浅原寛人 ……42
 第十五回多摩朝陽会総会ご報告……………33 大内 哲 ……42

関西支部便り……………44 西島健太郎 ……43
 九州支部便り……………29 山下美智恵 ……44
 朝陽USA支部便り……………34 横田康子 ……45

サークル活動・同期会便り・ニュース

かんらん会……………32 鈴木正美 ……46
 朝陽硬式テニス部会……………25 吉安俊介 ……46
 求む岳友「朝陽山岳会デナリチャレ
 ンジ二〇二二」……………25 渡辺康隆 ……47
 第二五回東京校歌祭……………事務局 ……47

「卒業三十年の会」……………39 吉田 元 ……48
 卒業45周年
 記念イベント……………25 渡辺康隆 ……48
 卒寿を迎えた

「朝陽十九会」……………中19 星野順吉 ……49
 七回生の傘寿を祝う会……………7 吉村悟 ……50
 全寿記念同期会……………6 山岸哲男 ……50
 「六新会」……………2 回生幹事 ……51
 中村光男さん文化功労賞
 (インドネシア)受賞……………事務局 ……52

母校便り

戸山交流戦報告……………事務局 ……53
 学校長所感……………加藤隆校長 ……55
 母校便り……………中川徹副校長 ……55
 部活動紹介……………硬式テニス部(辻井伸江) ……59
 ……華道部(菊池 愛) ……59
 ……松永 学 ……60
 ……小竹泰雄 ……61

離任恩師ご挨拶……………小竹泰雄 ……61

追悼文・訃報

和田彰男先生……………35 鎌田邦広 ……62

新宿高校旧教職員懇親会便り

……………旧職員 菅 豊 ……63

創立百周年記念事業特集

懐かしさ満載のホームカミングデー
 に参加……………岩尾史生 ……65
 「集いの場」から卒後のつながり
 新たに……………佐元光子 ……66

ホームカミングデーでお待ちしてい
 ます……………24 大池克幸 ……67
 心を一つに！ロゴマークが決定
 ……24 大池克幸 ……67
 集おう！創立百周年記念音楽会へ

同窓会活動の見える化「活動マップ
 の作成」……………7 吉村 悟 ……68

事務局便り

平成二九年度総会報告……………15 西出紀久 ……72
 母校支援活動……………15 西出紀久 ……72
 寄贈著書紹介……………事務局 ……74
 平成二九年度総会記念講演……………19 芥川喜好 ……75
 卒業回別同窓会費納入状況……………事務局 ……76

告知記事

三十年度事業計画……………7 吉村 悟 ……77
 予算・決算報告……………7 吉村 悟 ……78
 朝陽六六号正誤表……………編集部 ……80
 ゼロ会案内……………吉江新一・吉江麗子二人展 ……53
 朝陽合唱団団員募集……………六声合唱団団員募集 ……71

広告目次

ボンサンテ……………表2
 有限会社アキテック……………15
 カフェ・ジェルボー東京……………29
 ぐるるシャトー……………40
 クルーズ・クルーズ新宿……………40
 焼肉酒家李苑……………40
 立山の花めぐり(増田恭次郎)……………52
 新宿のみや呑……………54
 京王プラザホテル……………54
 エフアンドビー・プロジェクト……………64
 名刺広告……………69
 株式会社ゼンショーHD……………表3

会長ご挨拶

朝陽同窓会をお預かりして

—より積極的な参加とご協力を—

朝陽同窓会会長 田中俊郎（一七回）



朝陽同窓会をお預かりして、二年近くになりました。役員、代表幹事、事務局、そして同窓会会員の皆様のご

協力を得て、なんとか任を務めてきました。私の仕事は、会員の親睦と向上を図り、母校と緊密な関係を保つことです。同窓会の基礎は、同期会です。各卒業年度の周年行事などには可能ながら出席し、先輩から後輩まで、六中、新宿高校が輩出してきた多士多才の方々にお会いすることができました。

さらに横の関係を上下縦につなぐ組織である地域支部のうち、これまで多摩、九州、群馬、宮城、関西の総会に出席させていただきました。

さらに五月末の「同窓会総会」、年三回の「朝陽クラブ」に加えて、二年前から十一月中旬には「ホームカミングデー」を新設し、会員の親睦だけでなく、旧恩師との出会いや異業種交流に務めています。

母校との関係については、如何に母校の教育環境を一層充実させることが

できるかが重要です。ご案内のように、母校は二〇二二年に、府立六中創立から百年を迎えます。その記念事業の一環として、給付型の朝陽奨学金の支給を開始し、館山寮（旧塩見寮）の改修を一部補助しました。

それらの原資として二〇一五年四月以来、百周年記念募金が始まり、多くの皆様のご協力を得て、目標金額一億円の半分近くが集まりました。ご協力に厚く感謝申し上げます。しかし、目標の半分にも達していません。後輩たちを育てるため、さらなるご支援・ご協力をいただければ幸いです。

もう一つの心配事は、同窓会費の納入率が下がっていることです。納入率が高い方々が八〇歳・寿会員（会費免除）となり、若い方々ほど納入していただけていないからです。募金状況とは別に、初めて卒業年度別会費納入者分布表を掲載しました。現職で、若い方々の参加とご協力をお願いします。

皆様の力で、同期の緊密な横のつながりと多様な縦のつながりを育て、かつては「大家族主義」、最近では「チーム新宿」と言われる「自由で」、「暖かな」校風をさらに発展させていきたいと思います。

是非、定期的に更新されている朝陽同窓会のホームページをご覧ください。

事務局より会費納入のお願い

☆会費の種類

- ① 年会費… 2,000円
- ② 長期会費…10,000円（6年間有効）

①、②のいずれかをお選びいただけます。毎年の納入が煩わしい方には長期会費をお勧めいたします。いずれも本誌に同封の振込用紙をご利用下さい。

☆会費納入の免除

- ・卒業時又は入学時に入会された会員は入会金を納めていますので、卒業後5年間は納入免除です。今年は66～70回生の方々が該当いたします。
- ・現・旧職員〔名誉会員〕と80歳以上〔寿

会員〕は納入免除です。今年の寿会員は中1～新9回生の方々です。

☆期間

- ・会計年度は4月～翌年3月で、会費は納入した年度から起算いたします。
- ・重複した期間があった場合には、有効期間が重ならないよう連続期間として扱います。
- ・寿会員から会費納入された場合は、寄付扱いとさせていただきます。

☆寄付金

- ・昨年も寿会員はじめ多くの方々からご寄付を頂きました。今後ともよろしく願いいたします。

（事務局長 15 西出 紀久）

卒業二十周年

新宿高校の同窓会

50回

「新宿高校とは」

F組 姜 在根

もう二十年も経った。まだ二十年しか経っていない。どっちも同じ二十年であるが捉え方は様々である。このような話を在学時代に仲間としようものならば、一週間に渡り議論をしながら半ば喧嘩のようなやりとりをしていただろう。どうでも良いことであっても、自分の意思が何なのかをはっきりさせることにおいてはどんな些細なことでも貫き通す異人がたくさん集まっていた。全く不思議な高校である。二十年経ってわかったことは、社会に出るとそんな人はあまりいない。なんで高校時代はあんなに自由にモノを言う人がいたんだろう！って、本当に素晴らしいことだと今は思う。そして、私はこのような原稿を書かせていただく身分ではない。新宿高校といえ、都内でも優秀な生徒が揃う由緒正しい学校だからだ。私は高校時代、桁外れの出来損ないだった。成績は下からTOPを争い、放課後は遊び惚け、卒業と同時にフリーターになるという落ちこぼれの人生を歩んでいたからだ。

しかしそんな私は卒業後、新宿高校の恩恵をフルに生かしている。仕事で年配の方にお会いすると新宿高校卒業が非常にウケが良い。「君、新宿高校卒業なのか？すごいね〜！」と、その時点では何もすごくないのに、さも私がすごいように受け取ってもらい、様々な意見や提案が通ることが多かった。明らかに、新宿高校というブランドのおかげである。使わない手はない！新宿高校を卒業したのだから自由だ！と、新宿高校卒業を謳歌している。本当に誇り高いのである。

新五十回生の同窓会は、ある男の一言から始まりまった。「そろそろ同窓会やらね？」よくあるセリフ、よくある飲み会の場だった。幹事として私に白羽の矢が立った。というより、無茶振りだった！しかしながら当時は三十歳の節目でみんな久しぶりに会いたいんじゃないかな？と勝手に解釈し、やるなら女性幹事も必要だ！と、仲良くしていた三浦さんをお願いし、全てが動き出したのである。結果的に参加者は恩師を含め百名近く集まり、参加してくれた人たちも楽しんでくれた。高校時代にあまり話さなかった人も、後にお礼を言われた

り、同窓会を機に仲良くなった人もいた。時を経て道は違っても、新宿高校生であるという誇りが繋がりを創るのだなと素直に嬉しく思えた。恩師から「姜がこんな素晴らしい会を開いてくれるなんて思ってもいなかったよ！ありがとう！」とおっしゃっ



ていただいた時、とても嬉しく、また同窓会をやるう！と思えた瞬間だった。
新宿高校とは、人生に多くの仲間と生きる喜びを与えてくれる、かけがえのない母校なのだ。



「新宿高校への思い」

A組 三浦 由衣

年の瀬に実家の自室を掃除していたら、高校時代に受け取った大量の手紙が現れた。肝心の掃除は全く手につかぬまま私は当時の思い出を読み漁り、忘れかけていた母校の情景を思い起こしていた。

入学当初の朝礼で先輩達の自由な服装を見た時の衝撃。

登校する生徒たちの様子を上から眺めていた廊下の窓。

冬のマラソンと縄跳びで浴びた校庭の砂埃。

文化祭の劇で新撰組の衣装を着て集合写真撮った世田谷区民会館前。

球技大会の決勝で敗れ一人悔し泣きした女子更衣室前のトイレ。

〇〇が化粧を始めた！とまるで事件が起きたかの様に本人を追及する昼休みの他愛もない教室でのお喋り。

今思い返しても笑顔になる幸せな高校生活だったと思う。

卒業前、担任の先生の何気ない一言で代表幹事に決まった。現在数回の同期会開催を経て、大変な役回りだと思う一方、多く

の同期と連絡を取り合える口実があるのは有り難いとも思う。

また、恩師の方々との葉書やメールでのやり取りでは、卒業して二十年経った今も尚「先生と生徒」として温かい言葉を掛けて下さるご厚意に心を救われている。青春時代を共に過ごした仲間や恩師にかけてもらう言葉というのは一生自分を支え続けてくれるものだと思う。

【新宿高校生】という同じ立場だった同期が、今は各々異なる道を歩んでいる人生の中途だが、これからも新宿高校の仲間が変わらぬ同期として、恩師とはいつまでも先生と生徒として、また次の二十年、三十年と繋がっていったらと今思う。

「将来の夢」

E組 深堀 愛子



大きくなったら何になる？そんなことを高校時代に話していたことを時々思い出す。みんなそれぞれ思いを語っていたが、私の夢は「日銀総裁」だった。「私は女性初の日銀総裁になるんだ！」と、当時の仲間達によく、意気込んで話していた記憶がある。

いま思えば、日銀総裁になることが夢だ

なんて、ずいぶん大きくてたな、と自分でも笑ってしまふ。大人になると、そう冷静になることもあるが、高校時代は、どんな大きな夢でも、みんな当たり前のように、それができると思っていた。

そして、仲間達が「お前ならできるよ!」と、あたかもそれが簡単なことのように、当たり前前に応援してくれたからこそ、自分への自信につながり、前を向き続けて、歩んで来られたのだと思う。

一昨年、同窓会があった。卒業してからもずっと会っている人も、久しぶりの人も、あの時と全く変わっていない人も、なんだかすごくオジサンになっている人もいた。歩んでいる人生は、それぞれだ。でも、もし、私があの時と同じように、大きな目標を掲げたとしても、みんな当たり前のように「おーがんばれ!」と応援の声をかけてくれたと思う。あの時と同じように。

当時、思い思いに語った夢は、無防備な若さによって肯定されていたのではなく、六中健児の魂、自主自律の精神、つまり一人ひとりの持つ『自分自身の未来を切り開く原動力』によって肯定されていたのだと、あの同窓会で気が付いた。

そして、それは切磋琢磨できる相手がいなくてこそ、光り輝くことなのだと思った。自主自律とは、自分自身で考え、自分を律し

て行動し責任を持つことだが、自分で決めたことに責任を持てる人は、他者に対して、誠実さを持つて受け入れることもできる。そして、その相手から受け入れられたことが自信となって、自分の決断にも自信が持てる。

そんなことを新宿高校では、皆と一緒に学んでいたのだ。当時は気が付かなかったけれど。

高校卒業後は、大学で経済学を学び、中央銀行の金融政策についての卒業論文を書き、銀行に就職して、金利や為替を扱うマーケットの世界へ飛び込んだ。

そして、現在も銀行員として金融業に従事している。

当時の『夢』から二十年ほど経ち、現在地はあの目標からほど遠いものの、ふとその夢を思い出すことができる場所で働いていられることは、とても幸せなことだ。

そして、それは仲間の後押しがあったからこそだと確信している。

そのようにして、友だちに恵まれ、自信にあふれ、自由気ままに過ごした高校時代だったけれど、いま、一つだけ後悔がある。高校一年の時、数学の佐藤先生に「一緒に数学をもっと勉強してみないか?」と数学への道にお誘いを受けたことがある。けれど私は「数学なんかよりも、もっと現実に

密着した社会・経済について学びたいです」とお断りしてしまった。金利や為替を相手に仕事をしていると、数学は必須だ。微分積分ももっと深く学んでいればもっと仕事に役立つアイデアが、ポンポン生まれていただろうに。嗚呼、佐藤先生!あの時、生意気なこと言ってごめんさい。先生の言うことは聞くもんだと、この歳になって痛感している。



「卒業から二十年経った新宿高校プライドの実感」

C組 鈴木 健

まずは卒業二十周年で同窓会を企画してくれた三浦由衣さんと姜在根くんには本当に感謝を申し上げます。由衣さんと姜くんは高校時代から学年の中心的存在で、今回の同窓会企画も二人でなければここまで集まらなかったと思います。本当にありがとうございました。

さて同窓会なのですが、私自身昔から人前に立って人を楽しませたり、喜ばせたりする事が自分の喜びであり、在学中もクラスを盛り上げたり、学園祭で催しをするのが本当に好きでした。今回も司会進行を担当させていただき、当時は思い出しながら

全体を拜見しておりました。クラスのみんなは本当に変わっていかなくて、顔と名前はほぼ一致しました。キャラクターもみんな変わっていかなくて、近況の仕事や家庭の話や聞くと、確かに彼ならこういう仕事するだろうなあとか、彼女ならそういうお母さんになるだろうなあと納得する事が多かったです。そして何より嬉しかったことはC組担任の松本勝洋先生と再会できた事です。私は高校三年間担任していただき、バレーボール部の顧問の先生でもありました。感覚的には当時と変わらないコミュニケーションが取れて非常に感激しました。

私は部活やイベントには本気で臨んでいたのですが、勉強に関しては全くもって成績が悪く劣等感がありました。その為、授業態度も悪く、松本先生にはご迷惑をお掛けしました。しかし、見限ること無く、いつも守ってくれたことを改めて思い出しました。先生、ありがとうございます。またお酒飲みにいきましょう。

そんな同窓会の中で一つ大きく気づいた事がありました。みんな違う道を進んでいるのですが、それぞれが意志を持って生活や行動をしていると強く実感いたしました。幹事の姜在根くんは経営者として様々な事業展開しており、個人のビジョンを持って活躍しています。そんな姜くんは人を大事

にします。関わる人たちに敬意を持っており、それは周囲にも伝わり人が集まる経営者だと感じています。他にも某スポーツ紙の日本人メジャーリーガー記者、言語聴覚士、エンジニア、フォトグラファー、地域に積極的に参加する主婦など、仲間として誇れる人たちがばかりだと改めて認識しました。二十年前の卒業してすぐは、有名大学に入学する事が一つのステータスでしたが、今ではそういった表面的な進路ではなく、本質的に個々が意志を持って活躍する事で、内面からその人らしさが出てくるという人生のフェーズなのだと実感しました。

そこで思い出したのは自主自律の精神です。当時、この言葉の理解は所詮高校生の認識なので、自分で考えて行動しなくちゃいけないんだなといった程度でした。しかし、同級生の活躍や自分自身を振り返っても、今では人生や社会と向き合い自由と責任をしっかりと認識し、自らの人生を歩んでいくものだという確信を持っております。

そんな私は現在二児の父で、株式会社LITALICOという会社で働いています。仕事内容は障がい者の就労移行支援や発達障害や発達に特性があるお子さんの教育支援や家族支援を行なっているのですが、自らの意志が反映される場面が多々あると感

じます。多様な人たちと関わり、一人一人がどうすればもっと生きやすくなれるか、意志と責任を持って関わらせていただいております。こういった精神は紛れもなく高校で身につけた自主自律の精神から来ているのだと確信しています。これからもこの新宿高校プライド (HipHopで言うレペゼン新宿高校) を大事に生きていきたいと思っています。

改めて、先生方、五十回生の皆さん、C組の皆さん、個人的には五十回生から前後三年年くらいの先輩後輩の皆さん、また機会があれば是非お会いしましょう。



新宿高校「二十年後の僕ら」

A組 北中 知巳

新宿高校 卒業したのが二十年前？ 気付かされてゾツとする。勿論意識していないし、五十回生の仲間とは今でもよく会っているし、ましてや高校時代の話をあたかも昨日の事のように話しているからだ。

このような機会がなければちゃんと振り返る事も無いだろうし、二十年経ったという自覚も芽生えなかつただろう。自分は卒業後の二十年、何をして来たのだろう。少し振り返ってみたい。

私は硬式野球部で投手で部長を務めていたが、エースになれた訳でもなく、野球部もすぐに負けてしまい、未練と挫折が残り、大学に入り教員免許を取得しようと思った。高校教師となり、母校新館を監督として甲子園に連れていきたいと思ったからだ。

大学でも、未練があり体育会で野球をしていたが、部活以外は大学生活は全体的に希薄で、卒業して教員免許を取得するという目的が無ければ、大学は卒業出来ていないと思う。

その目標は目標として、私には大学在学中にラジオDJになるという目標が出来ていた。

思えば中学の時放送部、高校最後の学園祭では校内ラジオを担当し、大学では各種イベントの幹事や司会を務め、自分に向いていると感じていたのだ。

外国のゲストを呼びたいと思った私は大学を卒業後、資金を貯めカナダへ一年留学し、ラジオの世界を目指した。

ここでまたも挫折した。ラジオの世界で人脈と資金を増やし、将来自分のお店を出そうと構想を練っていたが、思ったような仕事内容でも給料でも無く、思い描いた理想とはほど遠いものだった。

そんな私の転機は、学生時代からお世話になっていたアルバイト先の飲食店だ。

「知己、接客業向いてると思うんだけどなあ」そういつもボヤいてくれる店長に救われ、今に至る飲食業へ本格的に足を踏み入れた。

ビル一棟で八店舗ある会社だが、入社後最初の営業会議で、「五年でお金を貯め、統括になって自分の店を出す為に辞める」と宣言し、結果七年半在籍したので、余分に貯まったお金で世界一周をし、約一年前銀座に念願のダイニングバーをオープンした。

目下、個人経営者として日々奮闘中だが、改めて自分の今に至るまでの道のりを考える。

最初に述べたように、本当に高校時代の事は、昨日の事のように思い出せる。今では問題になるのかもしれないが、水も飲みず意識朦朧としながら常に蜃気楼が見えていた一年の夏合宿の地獄のお陰で、仕事で辛いと思った事がない。

レギュラーに成れなかった事が、大学でも野球をやり、教員免許を取るやる気くられ、その後の挫折をプラスに変える知恵くれた。

そして何より、部活やクラス関係なくピロティーや中央公園に集まり、今に至るまで何一つ変わらない仲間たちに出会えた事が、自分に表れる、根拠のない自信であり、

宝だと言える。

地位や安定した生活を捨て、世界一周や独立といった思い切った事が出来たのも、先に世界一周や独立をしている仲間がいたからだ。

一言で言えば自分にとって高校時代が特別で、五十回生の多くがその共有した気持ちを持っていて、だから今でも会うとすぐに昔の気持ちがフラッシュバック出来るし、みんな集まる。大好きだった証拠だ。

大人になってから、「新宿高校だったんだ、すごいね」と言われる事がたまにあるが、学力としては新宿高校史上、底辺に近しいところにいた代なのだと承知している。

ただ、まだまだ発展途上の卒業二十年後の我々は、当時の先生たちも含め、一番良い高校生活を送り、誰よりも六中健児であり、生涯自慢し続けられる、そんな代だったと言える。



セゾンカードのテレビCMでは「夏の日の1993」が流れていた。

F組 清水 耕司

今から約二五年前。第七五回全国高等学校野球選手権東京大会。東海大高輪台が三回戦で第一シードの二松学舎大付属高校

を撃破する。同校は第一シードを倒した勢いでそのまま勝ち上がっていくと思われた。東海大高輪台の次の相手は新宿高校だった。

数日後。神宮球場。

新宿高校vs東海大高輪台。

スコア 7―2。

雨天による再試合を含め2日間に渡る熱戦を制したのは新宿高校だった。

『都立の星』高校野球の熱戦を伝える新聞紙面で新宿高校はそう称えられた。

新宿高校はその後の準々決勝で目黒高校に2―3で敗れ、準決勝進出とはならなかった。同大会は後にプロ野球の舞台へ進むことになる高橋尚成、玉木朋孝を擁する修徳高校が優勝し甲子園への切符を獲得する。

私は当時中学二年生だった。それから約一年後。

一九九五年 私達の学年（一九七九年度生まれ）は高校受験を迎えた。

都立高の入試は一九九三年まで施行されていたグループ合同選抜制度が廃止され、隣接学区を受験することが可能となっていた。板橋区在住であった私の学区は第四学区だったが、第四学区には硬式野球部がある都立高校があまりなかった。

進学したい高校の基準が「野球」だった私

は、高校野球 東京大会での過去年間（九一年―九四年）の都立高校の成績を調べた。

私が受験可能な都立高校の中で一番、夏の大会の勝率が高かったのが新宿高校だった。（十五戦で十一勝）

また 敗れた試合はどれも僅差の試合だった。

九一年 四回戦vs雪谷 9―10（四回戦）

九二年 三回戦vs城西大城西 1―2（四回戦）

九三年 順々決勝vs目黒 2―3（四回戦）

九四年 三回戦vs岩倉 6―8（四回戦）

新宿高校に意識が向きグラウンドへ足を運ぶ。新宿駅の南口の改札を出て、甲州街道を四谷方面に進んでいくと右手に広大なグラウンドが姿を現した。グラウンドの向こうには新宿御苑の緑が広がっていた。私にとって最高の環境がそこにあった。

一月十七日 阪神・淡路大震災の惨状をブラウン管越しに目撃した。

三月二十日 中学校の卒業式から帰宅すると地下鉄サリン事件のニュースが報じられていた。

一九九五年四月。高校入学。

私は希望通り新宿高校の門を叩いた。五回生になった。

上履きの色は黄色だった。それだけとはつともなく嫌だった。

校風は「自主自立」ではなく「自主自律」。入学時に「学生が自らを律する」という校風であると説明を受けたことを覚えている。校風に偽りなし。校則はほとんど無く自由だった。

入学後すぐに野球部への入部希望者は教室に集まるよう上級生から案内があった。指定の教室に入り席に座ると、続々とこれからチームメイトになる仲間達が入室してきた。「一体、何人の同級生が野球部に入るのでろうか」定刻を迎え、周りを見渡す。

『都立の星』という名の元を集った同士は、四十名は入る教室を埋め尽くしていた。中学時代に各区の大会で優勝等の成績を収め、チームの主力選手だった者ばかり。中にはメンバーの大半が野球の強豪校へ進む新宿シニアで活躍した者もいた。体格のいい者が多く、上背が一八〇センチを越す者も数名いた。希望と期待に胸が高鳴る。

体育会、高校野球特有の上下関係はあるものの、先輩は優しく、OBは熱があり活気があった。監督は新宿高校OB（二五回生）で野球部のエースだった鈴木裕太先生だった。

連日、試合、練習にOBの方々が駆けつけてくれた。届かなかった想いを私達に繋いで応援してくれた。

学校行事は 遠足、運動会、館山の臨海学校、球技大会、文化祭、合唱コンクール、スキー教室、修学旅行など 一般的なものではあるが、そこにはやらなければいけないという義務感のような空気はなかった。熱が高く集中するときは集中しみんながひとつの目標に向かって進む。その時を全力で楽しんでいた。

当時、インターネットはなく、社会全体が他者を受け入れる おおらかな時代だったように思う。

大都会 新宿の そんな土壌のもとで 多感な時期を過ごすことができた私達は イベントがあるごとに 自然と集まった。笑い 助け合い、時には共に涙を流し 濃密な時間を共有した。

高校一年生の頃はポケベル、二年生でPHS、三年生で携帯電話が普及し始めた。高校二年の秋の開校記念日には 校舎の前に高島屋がオープンした。高島屋にはマライアキャリーも訪れていた。

五十回生のみんな、諸先輩方、後輩達と共に歩みを進めた時間は集大成を迎える。

三年生の夏。九七年七月十五日 大田スタジアム。東東京大会二回戦。

新宿高校 vs 江戸川高校。1-2で敗れた。私達の想いは その時 実を結ぶことはなかった。

それから。

九八年に長野オリンピック

二〇〇二年には日韓共催でサッカーのワールドカップが開催された。

大江戸線が開通した。新宿駅周辺は新たな商業施設が続々と誕生した。

新宿高校は校舎が改築され、新校舎になった。

二〇一〇年秋 高校野球のOBの大会 マスターズ甲子園東京大会で新宿高校は優勝し 東京代表として甲子園で徳島県代表の鳴門高校と対戦した。新宿高校のユニフォームが初めて甲子園の舞台に足を踏み入れた瞬間だった。

二〇一一年 東日本大震災が発生した。未曾有の災害に言葉を失った。新宿高校が 新宿駅 から交通手段のない人々の緊急避難所となり 夜明けを待つ人々の姿がTVで報じられた。

仲間達が続々と自身の、私達のお店をオープンした。

歌舞伎町にゴジラが誕生した。副都心線が開通した。

新宿駅は日々進化し バスタ

新宿が整備されニューマンが完成した。

二〇一六年五十回生の同窓会が開催された。高校時代と何も変わらないエネルギーがあった。お世話になった先生方も駆けつけてくれた。

恩師であり友人である 河野一郎先生が天国に旅立った。

私が 誰に対しても誇れること。

それは新宿高校に入って 仲間と出会えたこと。卒業してから二十年の時が経った今もその仲間達と青春時代を過ごしている。これからも みんなで描いた夢は続き広がっていく

新宿高校 ありがとう



卒業三十周年

……三十年経ってから見えたもの

40回

四十回生卒業三十周年

記念同期会

二〇一八年二月十一日（日）、我々四十回生が卒業して三十年を迎えるにあたり、五年ぶり三回目の同期会を新宿御苑の緑を望める小田急ホテルセンチュリーサザンタワーで開催しました。三連休の中日ということもあり出席を少々心配しましたが、蓋を開けてみると前回とほぼ同数の同期生八十名程が参集し、また恩師の目良先生、井村先生、菊池先生、吉田先生、早乙女先生、金沢先生にもご臨席賜りました。会は瀧野哲史君、牧（波多野）伸子さんの司会で学年毎のクラス歓談を中心に進行していきました。三回目の同期会ですが初めて参加された同期生もいて、三十年ぶりの再会を喜び合うシーンあり、現役当時お互い話をしたことがなかった者同士で仲良く盛り上がるシーンあり、あの頃が蘇ったのでしょうか、四十代終盤の我々は皆十代のように？！生き生きとしておりました。合間には金沢先生のクラリネット

演奏や、ミュージシャン塩谷達也君の生歌披露が会に華を添えてくださり、あつという間に二時間半という時は流れていきました。

一次会の余韻をそのままに二次会は一寸洒落てダーツバーに移し、ここから参加の同期生も交え、話に花を咲かせました。皆、話に夢中のあまりダーツに興じている人は誰一人いませんでした。話が尽きることがなかったのでしようか、これだけでは名残惜しく日付が変わろうとするまで三次会、ましてや四次会まで行つたとか行かなかったとか……。こうしてこの会で改めてお互いを知り、別れ際にまた近々会おうといったような声も聞こえてきたので今後の交流のきっかけになったのではないかと思います。

最後に同窓会が開催できたのも、偏にご臨席賜りました先生方、参集してくれた同期生のご協力があったことです。この場を借りて改めて御礼申し上げます。また、幹事の藤原テケラ君、加藤且実さん、齋藤パンチ一郎君もご苦勞様でした。同期会は次回五年後に



2018年2月11日卒業30周年記念同期会 小田急ホテルセンチュリーサザンタワー

開催しますので今回残念ながらご臨席叶わなかった先生方、参加叶わなかった同期生にもお会いできることを心待ちにし、より盛大な会になることを願いながら筆を擱きたいと思えます。

(A組 藤井 樹維)



退く勇氣と数学の美しさ

秋山先生に教わったこと

C組 畑中 千晶

四十回生同窓会幹事の「かつちゃん」こと加藤且実さんから「ねえ作文お願い」との依頼が舞い込んできた。且実さんに私は頭が上がらない。その卓越した鍼術で肩を治してもらったからである。このような次第でしばらくこの文章にお付き合い頂ければと思う。

現在、私は敬愛大学の教員で、江戸時代の文学と比較文学を主たる研究分野としている。高校時代の私がいかなる道筋を経て今の職業にたどりついたかについては、実はすでに新宿高校進路指導部のニューズレターで披露させて頂いたことがある(『進路部通信』

新宿進化』第7号、Web上で閲覧可能)。最も影響を受けた高校時代の恩師が窪谷徹先生であることも、そこで詳しく記した。それゆえこの文章では、もう一人の大切な先生について記すことにする。それは秋山小南先生である。秋山先生が新宿高校の同窓生であることは周知の事実であろう。そして現在、私も教員という立場にある者として、母校で教鞭を執ることのある種の特別な感慨というものは、十分に推し量ることができ(実は私も非常勤講師として、ごく短期間ながら新宿高校の教壇に立たったことがある。生徒たちは実に可愛くて、そこで過ごした時間の心楽しさと言ったら)。それゆえ、秋山先生が大変な情熱を傾けて我々の指導に当たってくださったのも、先生のお人柄に加えて、やはり母校ということが大きな力になっていたものと拝察する。

秋山先生と言えば水上である。当時、二年生の希望者のみ、尾瀬と谷川岳の両方がいちどきに経験できる、なんと贅沢な林間学校に参加することができた(ちなみにこの時に滞在した水上寮は、今はもう存在しない)。その引率を橋本晃和先生とともに長年担当し

ておられたのが秋山先生である。私が参加したのは、いささか天候不順な年であった。尾瀬は予定通り散策できたものの、谷川岳は歩き始めてまもなくシトシト降り出し、やがて本降りとなった。その時、秋山先生は眼に涙を浮かべつつ、どうしても谷川岳にと粘る生徒らに、勇氣ある撤退の大切さを説かれたのである。先生の涙は忘れがたく記憶に刻まれた。あるいは、涙と想ったのは私の思い込みで、単に雨に打たれただけだったのかもしれない。今となってはわからない。ただ、勇氣というのは前に進む時ばかり必要だと思っていた当時の私に、適切な判断と共に退くことこそ、真の勇氣なのだと秋山先生である。

秋山先生とえば数学である、もちろん。はやばやと理系進学を諦めていた私だが、共通一次だけは避けては通れず、三年次も数学の授業を受けていた。その最後の授業で秋山先生は「君たちはおそらくこの先、数学の授業を受ける機会はずまないだろう。でも、そうした文系の君たちだからこそ、数学の美しさや豊かさを知っていてほしい」という旨の話をされたのち、北斎

の描いた巨大な波のなかに、数学的に描くことのできる図形が隠されていることや、カラフルなタイルの色が、決して同じ色同士で隣り合わないように並べるための数学的な考え方等々をレクチャーしてくださったのである。根っからの文系頭である私にとつて、その数式の深い構造まで理解することは到底叶わなかったけれども、我々の生きている世界と数学とがどのように繋がっているのかということについて初めて想像力をめぐらせてみることでできたことを覚えている。秋山先生の最大のプレゼントであったと思う。

私が日々接する学生たちの多くは、小学校教員を目指している。教育というのは、時を超え、人を超えて繋がっていくものである。私もまた、秋山先生のような印象深い授業がいつの日かできるようにと願うものの、なんだかせわしない日常に埋没していて、いつかいつかと思うばかりである。



今につながる出会いの数々

F組 加藤 且実

高校を卒業して三十年になった。劣

等生であった私は一浪してもなお、中学からの希望のところには入れず、しかしながら楽しんで前向きに進もうとした矢先、それまでには思ってもみなかった範囲の方との出会いにより、方針を大きく変更し、今の鍼灸師の道が始まり、資格を取ってから二五年になる。その二五年にも関わるたくさんの新宿高校の先生方・先輩方・友人たちとの出会いは、現在の自分の基礎となっていることは確かである。

中学受験をして、そのときも高望み過ぎて公立中学へ行き、なんにも勉強しなくても優等生の三年間を過ごし、その流れで新宿高校に進学。勉強の仕方がわからないので、とか言っただけで、まったくビククリするほど勉強のできない劣等生のまま、高校卒業を果たすことになっていった。そんな私をかわいがって下さった先生方には、「推薦枠なんてのは、出来る奴は受ければ受かるんだから、ギリギリの微妙だなんてヤツにこそ振り分けてやった方がたくさんの生徒が進学できるのにな」と推薦に漏れた私を慰めて下さった国語の先生、「キミのためだよ」と言いながら、職員室の印刷機の横の台にパイプ椅子を持って来てくれて、英

単語がなかなか覚えられなくて追試まみれだった私に特設デスクを設けて下さった英語の先生、「だいじょうぶ、キミはやればできるんだよ」といつも私を待っていてくれた数学の先生、「キミはおもしろいことに気がつく子だね」と、思いつきをすぐ口にしてしまつて、他の方々には困った人だと思われていた私を大きく認めてくれた化学の先生、「今日の体育祭はホントに大活躍だったね、七つも出ていたじゃない」と大暴れを見守って下さった生物の先生、「いつもきちんと自分の行動に責任を持ちなさいよ！いいことも悪いことも、天網恢々疎にして漏らさず、だよ」と、管弦楽部の打ち上げあとの盛り上がりの結果、おこしてしまつたトラブルを戒めて下さった音楽の先生：

そんな中でも、もつとも忘れられないのは、今はもう時効だと思つたのでここに記すと、管弦楽部の五月の引退演奏会のあと、歌舞伎町で打ち上げをして、お店を出て、駅に向かっていると、ここで、現代国語の佐藤喜一先生にばつたり遭遇！後にも引けず、固まるのみの私たちをじっと見つめた先生は、次の日の1限が現代国語だった私とす

れ違いざま、「1限、遅刻するなよ」とだけ。あのときは泣きそうなくらいドキドキしたが、こんなに認められていることはないと自覚できた一件であった。

悲しいこともあった。テストの順位付けなどほとんどなかった当時としては珍しく、自由参加の業者テストにおいて、順位表が担任の先生から渡され、驚くことに、三年間で初めて数学で9番という記載があった。山が当たったとは思っていたが、思いがけない数字に私自身もビックリして、「私もやれはできるんじゃないか！がんばるぞ！」と思っていたら、数学の先生から教員室に来るようにと呼び出しがかり、喜び勇んでニコニコしながらその先生のところに向うと、ものすごく不機嫌そうな顔をなさっていて、あれ？と思っていたら、「何やったんだ」とだけ言われた。つまり、カンニングを疑われたわけである。ものすごいショックで、思わずその場で動けずグダグダ泣いてしまった：そんなこともあった。

現在、鍼灸師として治療院で患者さんたちに関わらせて頂いている傍ら、鍼灸師を養成する学校や盲学校で講義をさせていただく機会がある。思った

ことがすぐに口をついてしまう私ではあるが、これは、この対応は、この発言は、この患者さんに、生徒に、どう感じてもらえるかな？気がついてもらえるかな？と振り返ることがよくある。

あのときの先生方のような大きなところでこれからもまだまだ様々な方々に出会っていききたいな、と思っている。



A組 ↑
B組 →
C組 ↓



D組 →



← E組

F組 →



G組 →



← H組

◆地下水調査・数値解析 ◆広域水収支 ◆土壌・地下水汚染 ◆土木計測のことは...



有限会社 **アキテック**
Aquitech Engineering Co.,Ltd

代表取締役 芳野 裕(24回)

〒164-0003 東京都中野区東中野1-54-7 田嶋ビル301

TEL:03-5330-9171 FAX:03-5330-9172



卒業四十周年

忘れぬ思い出、今に生きる

30回

一昨年そろそろ卒業40周年同期会の準備を始めようと、前回幹事団メンバーのメールアドレスを確認しました。3クラスの幹事の方々としか連絡が取れずじまいで、出端をくじかれた感じになり準備作業は中断してしまいました。月日が流れ同窓会誌への投稿話を頂き、卒業40周年同期会幹事団を結成するとともに各クラスに高校時代の思い出などの寄稿をお願いしました。



同期生

A組 山崎 篤司

高校を卒業して、早40年が経とうとしています。月日の経つのは本当に早いものです。この前、同期会の幹事会がありました。僕自身は、他のクラスの人たちとはクラブ活動を除いては、あまり交流がなかったのですが、幹事会の食事を終え、2次会へ行ったとき、同期生という事だけで、すぐ打ち解けて会話が弾み、つくづく同期はいいな

と思いました。

A組はというと2〜3名の人を除き連絡が取れますので、毎年1回程度の間隔でクラス会を行っています。家庭や仕事の事、子供や親の事、趣味の話などで話が盛り上がり、いつもあつという間に終わってしまいます。友の話をすることで、同世代の持つ悩みや現状を共有でき、心が癒されます。そんな中、仲間が1人2人と天国へ旅立つ事実を目のあたりにすると癒えぬ悲しみが湧いてきます。A組も中野先生や栗原氏が向こうの世界に旅立ちました。

高校時代のアルバムを開くとそこには18歳の僕達がいます。笑顔と若さではち切れんばかりのその姿を見てその当時は思い出すとともに、全体写真から1人2人とその姿が消えるのを見て、今という時間を大切にしていかなうと思えます。この時期60歳という節目の年齢が近いこともあって、中学・高校・大学・職場の同期と席を共にする機会が増えました。中学の友達とは家庭的な雰囲気でお互いをあだ名で呼び

合うことで少年期の思い出が蘇ります。大学の友達とは僕が薬剤師という職業柄、専門性の高い話が中心になります。高校の友達はその中間になります。同期の新宿高校の卒業生はその分野の1線で活躍している人も多く、様々な業界の話が聞けて興味深く大変参考になります。

僕たちサラリーマンはあと暫くすると仕事の一線から徐々に身を引くことになります。そんな時、同期生と旅行でもして過去の思い出を振り返られるといいなとしみじみ思う今日この頃です。



管弦? 軽音?

B組 萩田(木村) 桂子

新宿高校に在学中、私はどちらかというと優等生とはほど遠いところになりました。でもなぜか部活動は管弦楽部所属、そこだけはちょっと真面目風に高校時代はヴァイオリンを弾きオーケストラで演奏をするという一面を見せていたのです。きっかけは、新入生歓迎の演奏会が音楽室で開催されたのを聴きに行き、「ヴィヴァルディの春」

を高校生が演奏している姿を見たこと。中学を卒業したばかりの私にはすごい刺激で、「今までヴァイオリンを弾いたことがなくても弾けるようになりませんか？」とすぐに部員に尋ねました。それから3年間、腕前はさておいて、毎年学園祭などオケの一員として出演し、聴いたことしかなかった「未完成交響曲」「運命」などなど、演奏をしているときの高揚感はいまでも忘れません。

卒業後は恥ずかしげもなく結婚式で演奏したのを最後に、ヴァイオリンを人前で弾くことはなくなりました。30周年の同窓会のように、管弦？軽音じゃなかったっけ？と言われたのですが、その血も流れていて、以前いた会社の仲間とバンドを組んだり、現在も音楽活動は継続中です。

ここ数年は「JAZZ」にも触れるようになり、あちこちのライブに顔を出すうちに、驚いたことに管弦楽部でヴァイオリンの先輩であった小島のり子さんが、プロのJAZZフルーティストとして活躍されていることを知ることになりました。フルート？ヴァイオリンの間違えじゃ？？と思いながらもまずは聴きに行ってみよう！と思いいライブに伺った

のは何年前でしょう。このフルートの演奏が、格好いいのですよ！その後もライブは何度かおじゃましていますが、日本酒をテーマにした曲を作曲していたり、私と縁のある南魚沼でも演奏してください！高校時代は一つ上でも先輩となるとハハーという感じですので、その感覚は変わらないのですが、こんな形で再会できたのをうれしく思いました。

これも管弦楽部にいたおかげですね。オケとは違う形になりましたけど、いつか一緒に演奏できるといいなあ！

音楽の思い出

C組 難波 直樹



今回の寄稿にあたり、はて何をテーマにしようかと考えあぐねた結果、自分の高校生活において音楽が欠かせない存在だったという想いに至り、記憶をたどってみることにした。印象深い事の一つにこんな事があった。

音楽の時間に、野村先生から一人ひとりに「何でもいいから声を発してみて」（合唱コンの担当決めのため？）と言われ声を出すと、「君はテノール、

君はバス」と振り分けていくのだ。たった一声を聞いただけで適性がわかるんだと感心しているうちに自分の番が来たので声を発すると「君、いい声してるね。バリトンだ」と言われた。他の人へのコメントには無かった「いい声してるね」の一言が、ホメられて伸びる（おだてに乗りやすい？）性格と相まって、歌好きに拍車がかかり、現在活動中の「ハモれる親父バンド」へと繋がっているように思う。

心が癒される時、隣にいたのはいつも音楽だ。ある時我が家に同級生が数名泊りがけで来たことがあった。誰かの恋愛話について、皆が自分の意見や考えを友人として伝えあおうというものだった。誰の誰に対する恋の話で、どんな気持ちも伝えあったかはほとんど覚えていないが、狭い四畳半の薄暗い部屋の中で寝ころび語り合いながら聞いた、サイモン&ガーファングルのミセスロビンソンの軽快なアコースティックギターと小気味よいヴォーカルは、今でも鮮明に記憶に残っている。一年生の文化祭の時に制作した映画「白い階段」の主題曲を担当した事もあった。音楽も自前でやろうと自分で宣言して、作曲と多重録音（ベース担

のI君の協力に感謝)を繰り返して創り上げた曲の、出来栄えは別として一つの作品として仕上げられた事が嬉しかった。

「歌は世につれ、世は歌につれ」と言う。還暦を間近に迎えた今、高校時代いつも隣にいてくれた音楽と、これからも仲の良い友人として一緒に過ごしていきたいと思っっている。



昭和50年入学の私達

D組 中村 嘉智

「おまえに今さら『がんばれ』とは言わないからな」……当時D組のグループメールで私が悪性リンパ腫を発症したことを知った桑原君から届いた一文です。40半ばで死の恐怖よりもまだ小学生であった娘のことなど家族の今後に対しての不安に襲われながら情報収集や検査に追われる日々の中でこの言葉は私を落ち着かせ、楽にしてくれました。

私は、新宿区のはずれ、千代田区と文京区に境を接した地域で育ちました。出版産業が盛んな地域で、海軍を皮切りに職を転々とした父が選んだのも製

本業でした。事業が順調に伸びていく一方で慢性的な人手不足にも悩まされていたことから小学4年になると私も毎日工場に駆り出される始末。アルバイトも募集しましたが時はまさに学生運動真っ盛り、近隣の各大学の学生が次々とやってくるものの勤まらない。今の「ブラックバイト」がメルヘンとしか思えないほど過酷な労働環境ではあったものの、「打倒××!」「○○粉砕!」とキャンパスでは勇ましい割に現場での彼らはひ弱で子供の私や女子従業員が持ち運ぶ荷物にも音をあげ半日で「脱走」したりする者が続出しました。その彼らが卒業して何食わぬ顔でスーツを着て社会の中枢を担おうとする無責任さを見てきた経験からどこかシラケたまま始まった高校生活でした。

入学すると折に触れ「栄光の時代」の先輩と比較されるばかりでなく時にはあの学園紛争時代を懐かしんで「それに引きかえ君たちは」と小言を戴くことが度々ありましたが正直それには反発を覚えました。島田先生率いるD組は特に運動部に所属するクラスメートが多く、部活のつらい練習に耐えながらも授業を疎かにしない。見習

うことの多い友人たちは時には全力でバカなことをする柔軟さも持ち合わせていたことからちゃんぽらんぽらん私とも馬が合い、今日に至っています。経験を通じて人の痛みを知り共に喜べる彼らだからこそ、の言葉と感謝している次第です。



卒業30周年を境に……

E組 松本 博充

「ちよつと待って……。思い出せないなあ」恐る恐る出席した卒業30周年の同窓会で、30年振りにお会いした卒業時の担任・関先生の笑顔の第一声だ。高校時代は何事にも自信がなく、静かに目立たないように過ごしていた。部活もやってはいたが、ほぼ帰宅部。

そのためか、当時の記憶はあまり無い思い浮かぶのは、朝遅刻して正門で生徒証を没収され、休み時間に職員室へ取りに行ったことや授業中、窓越しに新宿御苑をぼーっと眺めていたところを注意され立たされたことなど、苦しい思い出だ。卒業後も遊ぶのは中学や大学時代の友人。就職先に30回卒が自分以外にもいたため、たまに話をするこ

とはあったが、新宿高校との関わりは数えるほどであった。

そんな状況が10年前に一変した。わずかながら？面影が残るE組卒の級友に再会。それから、有志で時折集まったり、SNSで近況を報告したりしている。

再会後まもない頃、同じE組卒で現役バリバリのミュージシャン山石君のライブに行ったときには、彼のエネルギーギッシュに歌う（叫ぶに近い？）姿に驚いたものだ。最近では温泉旅行やハイキングと、まさにシニアの領域に足を踏み入れて遊んでいる。高校生活ではクラスの女子と話すことがあまりなかったため、今になって「この人、こんなキャラだったのか」と新たな発見があつて面白い。

40年前を思い返すと今の状況は不思議な感さもあるが、これも声をかけてくれる仲間がいたから。一時期同じ時間を過ごしたというだけで仲間に入れてもらっているというのが正直な気持ちであり、本当に感謝している。40周年を機に、そんな関係がさらに広がり、長く続くことを願っている。

唯一残念なのは、関先生にお会いできないこと。いつか天国に行けたらご

挨拶したいと思う。先生の第一声は想像できる。

「うーん、思い出せないなあ」



宿題

F組 元木 明

前中昭先生から宿題が出ました。みんな、一生懸命に取り組んでいます。「『高校時代に得たこと』について、記述し、提出せよ。なお当方は相当老眼が進んでいるので、フォントの大きさが字体的見やすさも採点の対象となるであろう。また、締め切りは平昌五輪終了までとする。早すぎるなどと言わないこと。世の中とはそういうものである。」

・私は英語講師と自宅マンション経営をしている。私の宝物は高校の友人達だ。仕事面でも友人の税理士から経営上のアドバイスを頂いたり、飲み会では各方面トップで活躍中の友人の様々な経験談を聞いて楽しい。新宿高校のパワー、培った明るく前向きな仲間との絆に感謝だ。

・泳げない私は、知らずに遠泳付き

臨海教室のある本校へ入学し地獄を見る。勉強のできる仲間たちを尊敬しつつ劣等感とお友達になる。おかげで六中健児魂は大切にしつつ、「人生は甘くない！」と生徒に豪語する中学教師になれた。

・私は石川先生の戦争の話80%の授業で「生物」に対する興味と、関先生の鉛筆を持つと怒られる「数I」の授業で、苦手な科目も予習すれば解るという自信を得ました。もし駒場に行っていたら私は高校の生物の教員にはなっていなかったと断言できます。卒業30周年の会場の片隅で両先生にお礼を言えたのが想い出になっています。

・私は、某大手カメラメーカーに勤めている会社員です。得たものはやはり「体力と自信」でしょうか。遠泳、マラソン、縄跳び、雨の日の土屋先生の体操（ゲリラ体操？）といった体育の授業や、ハンドボール部で鍛えられて自信も付きました。その甲斐あつて、大学や仕事でつらい時も乗り越えることができ、今でも山登りなどの趣味を楽しんでいます。

・「ひねもす」は、「沖の方」でなく、「二日中」という意味であること。サッカーをやるには根性が必要である

こと。お陰様で、高校で国語の教員とサッカー部顧問をやっています。というところで、目が覚めました。授業中にまた寝ちゃったのかと思ったら、クラス会の帰りの電車の中でした。10年後も、夢を見ているのかなあ。



先輩に会った話

G組 柳澤 健

2003年7月、私は足かけ20年お世話になった文藝春秋を退社してノンフィクションライターになった。

10年後、集英社の『小説すばる』で『1974年のサマークリスマス〜林美雄とパッケインミュージックの時代』という連載を始めた私は、TBSアナウンサー林美雄とかかわりのあった上柳昌彦アナウンサー（ニッポン放送）にインタビューを行った。

話を伺ううちに、上柳アナが新宿高校出身であることが明らかに、私は仕事そっちのけで2年先輩の昔話に夢中になった。

「僕らは学生運動とか全共闘から遅れてきた世代で、新宿高校に入学する

前の年にはピロティでストをやっていたと聞きました。『轍』という生徒会誌があつて、白地に赤の表紙をめくると『相模原闘争に直面する新宿高校生』と書かれていた。立て看板の名残もあつて、字が完全に学生運動の書体でした。すごい高校に入っちゃったと思いましたね（笑）」

学園祭の時に、映研の連中が『燃えよドラゴン』のパロディ映画を作り、音がないので、上柳さんが弁士をやり、面白いナレーションで観客に笑ってもらった。

それを見た国語の有元秀文先生が「お前、何かしゃべる仕事をやればいいじゃないか」と言ってくれたことがきっかけとなり、立教大学では放送研究会に所属し、ついにアナウンサーになったのだという。

生物の石川太郎先生、地学の豊澤弘正先生、体育の島田房二先生、といった強烈な印象を残す先生方の印象。駄菓子店「ねーちゃん屋」の思い出。新宿南口は違法の買春窟であった旧青線地帯であり、菓物の売買も戦後長く行われたこと。南口の階段ではよく「傷だらけの天使」や「太陽にほえろ！」の撮影があつた。

勉強ができず、学校をサボって映画ばかりを見ていた。ハンドボール部も途中で止めた。

先輩の苦い回想を、私は自分に重ね合わせて聞いた。

原点

H組 要田 徹也



新宿高校では、自由な雰囲気になりながら伸び伸びと過ごしたことが思ひ出深い。学問だけでなく多くの行事があり、行事を通して自分たちで考え自立する心を教えられた気がする。ただ、伸び伸びしすぎて、勉強をした記憶があまりない。だから、毎年見事に成績順位が落ちていった。部活も幽霊部員で、その間何をやっていたかというところ、「シバの女王」が流れるまでトランプをし、夏は草野球、冬はスケートに熱中していた。写真は、良き仲間（悪友？）たちと野球を終えて撮った一枚である。

また、個性的な先生方のことも忘れられない。1年の時の担任は、国語の中野先生だった。授業で音読するときはとても緊張した覚えがあるが、休み

の日には我々を自宅に招いてくださり、和やかにみんなと談笑し、何だか嬉しかった。生物の石川先生の戦争の体験談や3年の時の担任の木暮先生のチャイナ服から連想し作った教具の話等、何故か授業よりそうした話ばかりが記憶に残っている。その後教員になってからは、自分も毎年子どもたちを家に呼んでは大勢でたこ焼きを作ったりして、教え子達との交流を図った。自分の教え子からは、やはり授業を脱線したどうでも良い自分の話ばかりがでてくるので、どうやらルーツは、教師を目指すことにした新宿高校時代にあるらしい。

高校卒業後は、実家も何度か住所が変わったため、みんなとの連絡も途絶えていたが、職場でホームページを作成していたことをきっかけに、13年ぐらい前に高橋から連絡が来て、忘年会やゴルフで再びみんなと再会することができた。卒業30周年の同窓会でも多くの友に再会できた。ただ、親友だった甚野とはまだ会えておらず、是非再会したいものだ。



卒業40周年同期会の準備状況

H組 石川 裕 (代表幹事)

第30回卒業生同期会を今年10月20日土曜日開催で調整中です。本原稿提出までに会場決めようとしていたのですが、まだ決まっていません。30周年の時は174名の卒業生が出席者しました。今回も同規模を目指して、昨年暮れから2月までに2回幹事会を開催し



鋭意準備しています。とは言っても飲みながらの幹事会なので、プレ同期会をしているような感じですよ。同期の皆さんもお時間があつたら幹事会に出席しませんか？各クラスの幹事にお問い合わせてください。

卒業五十年目の春に寄せて

一九六八年（昭和四十三年）

卒業 二十回生（楡の木会）

20回

高校を卒業してから50年

A組 楠瀬勤一郎

高校を卒業し、一浪して入った田舎の大学は、数年のタイムラグで、学生運動が都会から飛び火をし、大学は開店休業。デジャブ感のある田舎の学生運動にはしらけるだけ。大学がシャットアウトされていた間に、勝手に覚えた湿式分析や、図書館での独習、押しかけで参加した他大学のセミナーなど、系統立てずのため込んだわずかな知識習得だけの4年間。

工業の発展が高度成長の牽引になるという科学技術神話が崩れ、公害問題など、負の影響が顕著になり、環境問題への関心が広がり、既存の権威の信頼が失われ、今までの価値観の延長に安易に身をゆだねることができなくなった時代。肌感覚としては、大きな変化が起こっていることがわかっていても、その深層までは思いがいたらず、この流れがどのように進むのか、とても予想することはできずに、自分の勘

を頼りに、身の処し方を判断するしかなかった。

大学院を出て、地震学を専門に職についたが、中国での地震予知の成功が喧伝されていた時代。日夜、観測を続けていけば、前兆現象がつかめられ、地震が予知できるはずという、観測地震学が主流だった時代に、現象の仕組みがわからなくては、観測をしても前兆を判断することはむづかしく、予知には結びつくまいと、実験室で、もっぱらぶきつちよに石を壊し、石の材料力学をしていた。世は科学立国時代。

目標としていた先進国に追いつき、さて、自国でその先をどう切り開こうか戸惑い、基礎科学に思いがけず陽が当たっていたおかげで、意固地な異端者にもお目溢しが受けられていた。しかし、神戸地震を機に、さらに地震観測が大きく膨れるのに違和感を覚え、この世界からも疎遠になった。

実社会では、バブルがはじけ、山一證券、拓銀、長銀と、金融大手の倒産が相次ぎ、エリート社員の突然の挫折。

これからの世に安定などないという証に思えた。同期は40代後半、これから実力を発揮しようという時期に重なっている。

職場では、火山・地震活動の長期的変動も調査していた。これが、放射性廃棄物処分の基盤の一つとしてあつかわれ、世紀を挟み、放射性廃棄物処分の方策を決める仕事に組み込まれ、原子炉を撤去するために必要な広範囲の放射性廃棄物に対する処分体系の整備にかかわった。退職後は、同じく、エネルギー生産に伴う廃棄物の処分である温暖化ガスの地中処分技術にかかわっている。グローバルな環境問題について、課題解決の道筋をつける努力が、科学技術の社会復権につながるかも、という期待を込めて。

今、社会が求めるものと科学技術の知識の限界、確率はごく小さいが影響の大きな事象に対するリスクの受容、数万年を超えた先の生態系への人間活動の影響への責任、少数者の不利益と全体の利益など、さまざま悩んでいる。振り返ってみると、大きなパラダイムの変革にあつて、否応なく既存の権威への盲従ができなくなり、それに代わるよりどころを不器用に模索して

いったのがこの50年なのかなと思う。



タイムマシンに乗って50年前へ：

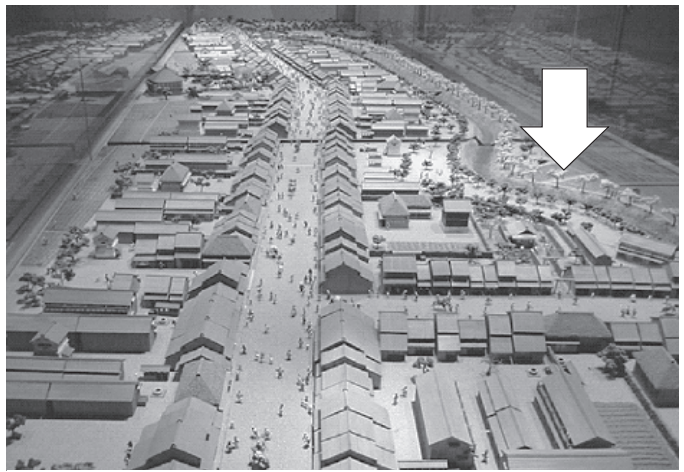
B組 松川昭久

ボケました。ブレーキとアクセルを間違え、加藤信吾先生（古文）の頭上を通過して江戸時代までタイムスリップ。

新宿高校が矢印、右端の信濃国高遠藩内藤家下屋敷（大名が接待などに使った庭園）の一角、玉川上水が湾曲したところ。ちゃんと敷地が確保されていますね（？）。

昔家康の「お友達」に内藤清成というオッサンがいました。どこかの首相のお友達より「お友達」。なんせ鷹狩中の狸親父家康から「馬で駆け回ったところをやるでえ」と冗談半分に言われたのを真に受けて、本当に駆け回って20万坪（四谷・代々木・千駄ヶ谷・大久保）をゲットしたんですから。このオッサンが「ははは、面白い御冗談を」なんて謙虚に断っていたら今の高校（の敷地）はなかった。

この高遠藩、歴史にあまり登場しま



内藤新宿（Wikipedia『内藤新宿』より）

せんが、江島生島事件（大奥権力闘争）で大奥御年寄（お婆さまではありません）の江島が信濃国高遠藩の座敷牢に死ぬまで27年間も幽閉されました（コワ〜！）。

画面右の川は玉川上水（今は正門前の道路）。玉川兄弟が多摩川の羽村から四谷大木戸（今の四谷四丁目交差点。写真上端）まで43kmをたった8か月で開削した上水（飲み水）用水路です。一部今も利用されています。四谷大木

戸から先は？これが何と、地下に導水管（石や木製）を埋設して江戸の町に飲み水を供給。時代劇の長屋の井戸、あれは地下水ではなく、この玉川上水（や井之頭池からの神田川を利用した神田上水）の水を井戸の底から汲み上げているんですよ。

中央のT字路（今の新宿三丁目交差点）が新宿追分。甲州街道（縦↓T字路を右横へ）と青梅街道（T字路から下へ）の分岐点。街道沿いが内藤新宿。甲州街道一番目の宿場として栄えていますが当初は無かったんです。一番目は高井戸でした。遠すぎるという浅草商人の陳情で内藤家下屋敷の一部に新しく宿場を作ったから「新」宿です。栄えた理由は私娼。実はこれが「新」宿を作った理由とも。戊辰戦争では近藤勇が甲府へ行く途中ここで総遊女を揚げてドンチャン騒ぎ。そのせいか勝沼で新政府軍板垣退助に2時間で負け、新宿の名を高めてくれました（！）。

甲州街道は下諏訪までですが、これ軍用道路！ 江戸城陥落の際將軍は本丸の「穴道」から「大脱走」！ 半蔵門から甲府（甲府藩は親藩）までの避難路になるそうですよ。そのため沿道に砦用に寺院が多く置かれ、その裏には

同心（警備兵）屋敷が連なっています。短い街道（200km少々）なのに小仏・鶴瀬に関所もあります。また四谷には鉄砲百人組が配置されています（画面左上の長屋？）が、これは將軍を護衛して甲府まで一旦避難した後、江戸城奪還を図る兵力とするためといわれています。

タイムマシンの出発時刻です。帰りはボケずに運転できますように！



人生100年時代

C組 島田 生徳

卒業して50年、結婚して42年が経った。巷では、ロンドンビジネススクール教授リンダ・グラットン氏の「ライフ・シフト」がベストセラーとなり、「100年時代の人生戦略」が叫ばれている。政府でも2017年9月、「人生100年時代構想会議」なるものが発足した。我々が幼少のころは、「人生60年」と言われていたと記憶している。昨今、人が生きていく環境が様変わりし長寿化していく中、老け込んではいられないとの思いでいっ

ぱいである。

さて、これまでの人生を振り返ってみたい。当時は学園紛争の真ただ中、一浪しての大学受験となった。が、突然東大入学中止となったため予備校生としては進路先に迷い、大変な思いをしておの大学の門がバリエードで閉鎖されていたために授業ができず、前期は自宅学習となった。とは言っても、学習することも少なく、自動車会社の工場、製紙会社の物流センター、居酒屋の洗い場、等アルバイト三昧の日々。親が心配することしきりであった。ようやく後期からは大学構内に入ることができ授業がスタート。その後、あつという間に4年間が過ぎ卒業。

社会人として、海洋開発専門のエンジニアリング会社に就職。海底石油開発向けの巨大な海洋構造物を設計、調達、建造、契約内容によっては運用まで含めた各種業務に関わる。その関係で、石油が取れる海外拠点を転々としてプロジェクトマネジメント（PM）業務に従事。例えば、アラブ首長国連邦（UAE）のドバイやアジマン、USレイジアナ州のラローズ、イラクのバグダッド等に赴任。その後、外資系の

PM会社に移り、更にPMのコンサルティング会社に転職、現在もフルタイム勤務の現役老人。所属先や立場は異なるが、45年以上に渡りPMをキーワードとして一貫した業務に携わってきた。教訓として、結局ひとりでは何も成し遂げられないこと、周囲の協力を得ながら業務を遂行することで道が開けることを学んだ。家族の協力にも助けられた。利他のスタンスが重要と言ったことか。

先日、「生きていくあなたへ 105歳 どうしても遺したかった言葉」と言う本を読んだ。元聖路加国際病院名誉院長の日野原重明先生の著書で良く売れたもの。105歳10ヶ月で亡くなる直前のほぼ1ヶ月間に渡る自宅でのインタビューで語られた内容を記載した、正に先生の最期の著書。その中で、「先生の次の目標は何ですか？」の問いに対して、先生は「……人のために捧げることです。……その過程で、未知なる自分と向き合い、自己を発見すること。それを最期のその時まで絶えず間なく続けていくということです」、そして「ただただ、ありのままに、あるがままに、キープオンゴーイングです」と答えている。

先生は「人生100年」を自ら実践した、偉大なる先人。まだまだ若造の凡人には真似のできない、何と前向きな生き方か。長いこれからの自らの人生、このまま、のほほんとしていては身も心も衰え、進化が止まってしまふ。「人生100年」に向け、新たな「自己発見」をすることでいろいろなことにはチャレンジし、先人に学びたい。因みに、60歳からは毎朝5時起きでストレッチを30分間行い、心身ともに絶好調！ 100歳まで続けたいと思う。



ロボット研究開発の現場で

D組 水川 真

卒業時から一年を経て、早稲田大学理工学部機械工学科に入學したところ、例によって大学紛争のまっただ中で、休講・クラス討論の毎日であった。形の見えるものがわかりやすいと言うことで、機械工学科に入ったのだが、当時NHK教育TVでFORTRANの講座があり、コンピュータプログラムにも興味を持つようになり、学生ストで、幸い？時間も充分あったので商

学部のIBM System370を使えるというところで、MIS (Management Information Systems) 研究会にも顔を出すようになった。

幸い、学部ではロボットや義肢・義足の研究をしていた加藤一郎研究室に所属でき、機械とコンピュータシステム、情報処理、電気・電子などを統合したロボットの研究開発することとなった。当時、加藤研では世界最初のヒューマノイドロボット WABOTI を複数の学科の研究室と共同で研究開発しており、ちょうどプログラム経験が少しある私が、腕部分のソフトを担当した。制御用コンピュータは、ミニコン(マイクロプロセッサはようやく電卓用が始めた頃でまだ使用できず)で、クロック 0.7MHz (現在の五十分の一のスピード)、メモリ 4k (後に 8k、現在の二万分之一) ワード、入出力は紙テープ(ディスプレイなし)であった。WABOTIは、上体は電気制御、二足の下肢は油圧で四〇秒/歩程度、コントローラは基本的なロジックICを組み合わせてシーケンサを自作していた。情報処理系では、音声認識・合成で音声命令を聞いて、復唱し、胴体に内蔵した工業用カメラ二台で操

作物体までのステレオ距離計測を行い、機械系に作業を実行させることなど、プリミティブだが一体のロボットで人と同じ作業を実行できた(一九七三年)。当時から四十五年が経とうとしており、当時、ヒューマノイドロボットに期待した、身体・作業能力、認識能力、学習能力は、モータや制御方式、AI、ディープラーニング、計算資源の潤沢な利用、IC製造プロセスの応用によるマイクロセンサの充実、により、大幅に向上している。しかしながら、人が何気なく簡単に実行している「ものをとってくる」、「片付ける」といったことも、現在のロボットには、環境と対象をかなり限定しなければ、人を代替できる能力と速度、適応性を持って実行することができない。これは、RoboCup (ロボットサッカーなど実世界人工知能の競技会) 経験者が立ち上げ、現在 Amazon Robotics として提供する倉庫内搬送管理システムが倉庫内移動と搬送に限定して実用に供されているのを見てもわかる。

私は、企業での研究開発業務を経て、二〇〇〇年から大学に移り、(我々が子孫の負担にならず、尊厳を持って自律して生活できる環境をロボット技術

で構築するために)人の日常生活をサポートする、家庭空間を知能化する研究を行ってきた。このために、ロボットの常識を持たせるシステムの研究を続けてきたが、三〇五歳程度の行動知能を支えることすら、なかなか困難であった。いわゆる、人並みの常識を生成する「強いAI」の実現と、実世界情報のシンボル化「シンボルグラウンディング」がホットな話題だが、我々の生活に間に合うか、注視し・期待している。



愛憎半ば+友のことば

E組 菅原和孝

半世紀経ってわかったこと。自我の骨格ができるのは一七歳である。現在の私の思考と感受性の根っこには高校二年生の「僕」がいる。母校に対する感情は愛憎半ば：両価感情^{アンビヴァレンス}。それは父に対する感情と似ている。母校の思い出の幾つかは私立男子高校の国語教師だった父の記憶と結びついている。

父に「特考(特別考査)で巻紙に名前が載った」と告げたとき、彼はそれを「特高」と聞き間違え、その誤解に

自ら失笑した。父が体育祭を見物に来たことがあった。帰宅すると「良い時代になったものだ」と上機嫌で言った。女子がブルマの上に男子から借りた学ランを着て応援合戦をやったのだが、それがミニスカートのミリタリー룩のようで妙に色っぽく見えたのだ。小林光は坂口安吾の「墮落論」に傾倒していた。年賀状に「墮落の問題も広がってきました」と書いてあったのが父の目にとまり、彼は「面白いやつがいるもんだ」と笑った。

久米大二郎はゴダールの『気狂いピエロ』の切符が二枚あると言って、試写会に誘ってくれた(GFの都合が悪くなったのだろう)。帰りの電車で彼がカミュの『異邦人』の冒頭の文をフランス語で暗誦し始めたのには度肝をぬかれた。彼の影響で大江健三郎に夢中になった。久米が卒業文集で書いた精液の匂いがぶんぶんするような短文を読んだ父が「これは大江の模倣だ」と喝破したことにちよつと感心した。竹内直樹は休み時間によくおどけていたが、ふと「おれはピエロを演じているのさ」と洩らして、僕を驚かせた。その印象をもとにして短編SF「博物館・ピエロ考・あるいは郷愁について」

て」を書いて、竹内に読ませた。

僕は吉江先生が大好きだったので、高三になってからも美術を選択し、校庭でシャガール風の稚拙な油絵を描いていた。通りかかった内海和昭はそれを覗きこんで「お化け屋敷だ」と苦笑した。ちなみに内海の画才は一流で、ユトリロのような白が美しかった。

一浪を経て今田洋と共に京都へ遊学した。彼は下鴨神社の境内で、僕に自転車の特訓をしてくれた。その後、「秩序派」の彼と疎遠になった。帰省してその話をすると父は「おまえに自転車を教えてくれた恩人をそんなツマランことで切り捨てるな」と言って怒った。その今田がちょうど四年前にあっけなく他界したことは、痛恨の極みである。

最後に、F組から松崎勝が寄稿すると知り、以下の逸話を記す気になった。松崎とは一年E組で同級生だった。僕たちは体育の授業の空き時間で校庭の片隅にいた。松崎の母が女学生するとき、教師が大東亜共栄圏の地図に標をつけた。「ここも帝国の領土になった」と教えた。松崎の母は「それじゃ、その土地の人たちはどんなに悲しいだろう」と思ったという。松崎はにっと笑った。

「それ聞いたとき、おれ、かあちゃん
のことがすごく好きになった。」僕は
感動し、背すじが震えた。一七歳そこ
その少年が校庭の片隅でこんな本質
的な会話を交わしていた。それは稀有
なことであった。新宿高校は、そのよ
うな瞬間を可能にする特異な社会空間
だったのだろう。Mよ、君の頭の傷は
今でもまだ痛むか(鮎川信夫の。パクリ)。



五十年前と五十年

G組 大瀧由美子

卒後五十年と一言で言っても、私に
とって半世紀は長いような短いような
時間です。現在も元気で過ごせている
こと、高校の同期の仲間たちと今も交
流を続けていられることの有難さを
日々感じています。あの三年間、あれ
から過ごしてきた五十年は、アルバム
をめくってみても、思い出せないこと
も多くあります。

私はこのお話しを受けて、高校時代
のいろいろなことを思い出そうと努力
しましたが、スポットライトのように
切れ切れの記憶ばかりで、つなぎ合わ

せても一連のストーリーになりません。
古ぼけた校舎の裏の一年D組の教室は
覚えていても、三年G組の教室の場所
はうる覚えです。

第一グラウンドと第二グラウンドを結ぶ
細い道、第二グラウンドの一番奥にある
わが硬式庭球部のコート。その横には
第三グラウンド(新宿御苑)の塀があり
ました。入学してすぐに硬式庭球部に
入部し、最初にやったことはコート造
りでした。一年に一度コートを掘り起
こし、土の塊を手でほぐし、新しい荒
木田という土を加え、その上からロー
ラーをかけるという農作業のような
コート造りでした。私にとっては、も
の珍しく初めての経験でインパクトが
強かったのです。私たちがコートに入
れたのはいつ頃だったのかさえ思い出
せませんが、コート造りは鮮明に覚え
ているのです。

古いアルバムに文化祭の演劇出し物
のクラスメイトの楽屋の写真を見つけ
ました。G組は『陽気な手品師』とい
うタイトルだったように思います。そ
のころの教室の様子、後ろの黒板、机
など、ああこんなだったなと思い、写
真を見ているとタイムスリップしそ
うです。



私自身は、大学卒業後しばらく大学
で研究生を送りましたが、その後製
薬会社で新薬の開発に携わってしま
した。ちよどバブル真っ盛りで、美味
しい思いもさせていただきました。あ
る時、さる高名な先生を食事でご接待
した席で偶然その先生が六中の卒業生
だということを知りました。先生も
びっくりされ、思わず二人で六中健児
の歌を歌ったのを覚えています。高校

の校歌は実はすぐには出てこないのですが、六中健児の歌はすぐに歌えるんです。先生とはその後も先輩後輩という絆で繋がっています。

その頃私が開発に携わっていた薬は世の中に出ませんでした。隣のグループが開発していた薬は、私が名付け親になりました。また六五歳の定年間で携わっていた開発中の薬が、先日私の勤める薬局に新しい薬として納品された時は、本当に嬉しくて、長年薬に携わってきたことを大変誇らしく思いました。今も、薬局で薬剤師を勤めながら、臨床試験のお手伝いをして現役（半分現役？）で頑張っている毎日です。

卒業後五十年が経ちましたが、新宿高校の仲間たちは、私の心の中で大切なつながりを持った特別な人たちです。同期の方々とテニスにゴルフに飲み会にと、お誘いを受けるとホイホイと出かけていって、ワイワイと騒ぐのが大好きです。皆さんの仲間でよかったことを実感しています。



五十年を振り返る

H組 中野公世

高校を卒業して50年、私立高校の教諭を退職して2年。退職後引きこもらないように、依頼があれば原則引き受けている。おかげで、色々と高校時代のことを思い出し、半生を振り返り、考える機会を得たことに感謝している。

運動に長けているわけでもなく、芸術的センスもなく、頭脳明晰でもなく、社交的でもなく、ちよっぴり劣等感を持ちながら、過ごしていた、まじめな高校生だったと思う。漠然と大学生活に憧れをもち、なにか焦っていた。振り返ると何か暖かい気持ちになるのが新宿高校の良さ。とにかく行事が多かった。体育祭、文化祭だけでなく、クラス対抗の校長杯で、水泳、バレー、陸上、マラソン大会等年中何かがあり、その後の打ち上げもした。一年生の塩見合宿、合唱コンクール、二年生の希望者の水上林間学校、サイドリダー試験、成績優秀者のみが貼りだされる特別考査。勿論定期試験。部活、戸山戦。どれかで目立ちたかったけど、いつもその他大勢にまぎれて、活躍する人、授業を抜け出す人を眺めていた。

楽しかった自由な高校時代に比べ、最近、段々規制が厳しく、うるさくなった。厳しくすると、規則に引っかからなければ良いと、自分で考えないし、自分で責任を取らなくなる。せめて学校現場は、もっと自由でありたい。教員になってみると、それらの多くの行事は誰がどのように運営していたか気になる。当時の先生達は、週休2日で、好き勝手に授業を楽しんでいたように思えた。興味深い雑談を沢山聞いた。それでも学校がうまく回っていたのは、生徒も教師もみんなすばらしく優秀な人の集まりだったからに違いない。大学には一浪して行くのが普通だった。（なのに、我々の学年には、一年後の東大入試がなかった。）

女性であることで、高校時代気になったことは、出席番号が男子の後に女子が続いた。今思うとおかしいけれど、当時は、なんで男子が先なんだ！と思っていた。大学に入って性別に関係ない出席番号になってほっとしたのを覚えている。最近、理系女、○○女、○○ガールという言葉が、やたら目につく。なんで殊更「女」、「ガール」とつけたがるのでしょうか。どうも気になる。当時、理工学部の女子学生は

1%だった。老若男女特別に差別しないで、もっと個人々人を見るべきだと思う。

我々団塊の世代は人数が多く、常に走らされてきた気がする。仕事をしながらの子育て、我々の時代には育休もなかった。まだまだ女性の社会参加の少ない時代、男性と同じに働こうと肩肘はって来た。やっと子育てが終わり、やっと退職したら、今度は親の介護と共に、のんびりしていたら、認知症になりますよ！とささやかかれ、認知症予防の書籍やテレビが氾濫していて、またあくせくとしている。そこで、大学時代の山仲間と一緒にヒマラヤのトレッキングに行ってきた。昔あこがれていた8000m級の山々を、富士山頂ぐらゐの高さから真近に見た眺めはすばらしかった。

山に行っても、海外に行っても、我々団塊の世代だらけ。認知症にならないように大いに楽しもうと思っ



二十回生代表幹事より一言

宇賀神博

今回の特集では各クラスから一名ずつご寄稿いただく予定でしたが、残念ながら叶いませんでした。今年左記のとおり記念同期会を予定していますので、同期生のみなさんにはその折にでも、全クラスがそろった形でお読みいただけるようにしたいと思います。なお、文中にある「文化祭」「体育祭」は、当時それぞれ「学園祭」「大運動会」と称されていたことを、念のため勝手ながら付け加えさせていただきます。

●楡の木会 卒業50年同期会

日時 二〇一八年一〇月二七日(土)

午後二時より

場所 京王プラザホテル(新宿)

その他詳細は後日お知らせします。

お問い合わせ等はEメールで左記までお願いします。

メールアドレス office@nire.dojin.com



TOKYO <http://www.gerbeaud.jp>



BUDAPEST <http://www.gerbeaud.hu>

パナッシュジャパン(株) 代表取締役社長 宇井 雅人 (新22回生)

卒業六十周年

新樹会（十回生）

「戦後」でなくなった時代の申し子たち

10回

もはや「戦後」ではない―第二次世界大戦の荒廃から立直り、経済白書は私たちが入学した一九五五年（度）の経済をこう宣言した。政治では、左右社会党の統一と保守合同が成り、五五年体制がスタート。五六年には国連に加盟して国際社会にも復帰。五七年には売春防止法が施行され、ソ連がスプートニクを打ち上げて米ソの宇宙競争時代が開幕した。

私たちは、そんな時代の下、それぞれの青春を謳歌し、受験勉強にも励んだ。あれから六十年、長かったのか短かったのか、以下何人かの仲間の回想。

長距離ランナーとビジネスの世界

興津 誠

中学から新宿高校、東大と陸上部に入り長距離を走っていて、社会人になって役に立ったことがひとつある。長い時間苦しみ続けて走る自分を客観視することを覚えた。もう一人の自分が走っている自分を笑ったり励ましたりするのだ。これによって大抵の苦労

は乗り越えることができる。世阿弥の言う「離見の見」に近い。

四十歳代初めに上場企業とは言え売り上げ四百億円ほぼ毎年赤字の企業に移籍。合理化、企業統合を経て、まともな会社にして六七歳で引退することが出来た。陸上部のお蔭かな。（元帝人）

福祉の仕事に携わって

片岡 玲子

「お姉さん、銀シャリおごつてよ！」活きのよい非行少女たちとの出会いから都庁勤務が始まった。児童相談所である。以来、障害児通園施設長、福祉事務所や児童会館長など務め、大学に移って福祉や心理を学ぶ学生を育てた。虐待予防の子育て支援、震災や犯罪・DVの被害者支援、高齢社会問題など福祉のテーマは多様であり誰にでも支援が必要になる可能性はある。

行政として臨床心理士として多くのテーマに携わった。今年は長く関わってきた念願の国家資格・公認心理師が誕生する。（立正大学）

書道国際交流

鴨田（茜竹）恒子

日中国交正常化直後の訪中を皮切に私の書道国際交流歴も四五年、今日この交流は世界的に評価されている。訪日観光客も二千万をこえ、ITの普及等に伴って、書道文化のユネスコ無形文化遺産への登録も近い。これは偏に我が国の書家たちの広範な日本文化学習に基づいた努力の賜だ。

書道国際交流に臨み、書家の一人一人が民間外交官の自負を持ち、訪問国の人々との交流により、国と国との相互理解が深まることを再認識し、感慨深い昨今である。（書道家）

早実戦と野球ボール

笹本 国夫

昭和三十一年七月二三日。高校時代において最も記憶に鮮明な一日だ。球場は神宮、グリーン一色の内外野フェンスが学生野球の聖地にふさわしい佇まいであった。王貞治選手ほか後にプロや大学で活躍する選手が多くいた強豪早実を慌てさせた試合。

社会人として海外での事業に長く係わったが、赴任先には必ずボールを一

個携えて机の中に忍ばせていた。そして、要所における判断の場面では、事前にボールを取り出し手の平の内側で叩いて気持ち落ち着かせて臨んだ。高校ではじめて手にした硬球。異文化下における仕事の成就に役立ったと信じている。

(元ブリヂストン)

長寿

多田 宏

小学五年生の時、先生の感化もあり、福祉国家の建設に貢献しようという決意。高校時代は、この目標に向かって倶楽部活動も自治会活動も辞退。大学卒業時には、未来を担う子供たちの育成に魅力を感じたが、初心忘るべからずと、厚生省へ。

間もなく公害問題への対処がメインテーマに浮上。さらにオイルショックを契機に、経済は低迷、急速な人口の高齢化で社会保障、特に医療費の増大への風当たりが顕著に。また、介護問題が急浮上。

人生一〇〇歳時代が近づいてくる。長寿が幸せをもたらすか、が問われる時代だ。

(元厚生省)



振り返れば、必然……

中村 敦夫

政界に入ったのは、政治家になりたかった。政治家になかった。「木枯し紋次郎」がヒットし、その後、多くの作品で主演を務めた。その間、国際問題をテーマにした企画をプレゼンしたが、ことごとくハネられた。仕方がないので、映画のような小説「チェンマイの首」をはじめ、東南アジア三部作を出版した。

テレビが情報番組時代に入ると、「外国に強い」ということでキャスターに抜擢された。世界を取材し、政治的発言を続けたら、政界に引き込まれた。振り返れば、すべて必然だった。

(俳優・作家)

性同一性障害者との出会い

原科 孝雄

形成外科医である私は専門のマイクロサージャリーの技術で当時まだ珍しかった乳がん切除後の乳房再建を始め、ある地方大学外科教室へその講義に行き、そこで陰茎欠損患者を紹介された。その再建陰茎で二人の子供ができたことがマスコミで紹介され、ある性同

一性障害者が陰茎の形成を希望して私を訪れた。性転換手術の倫理申請に始まり、その後それぞれの機会になされた報道は、性同一性障害のみならず、同性愛など性的少数者への理解を広げ、彼ら、彼女らの人権の向上に貢献した。

(元埼玉医大)

テレビと五五年

村上 光一

いまは昔。私がテレビ局への就職を決めたとき、母親が「そんな水商売みたいな仕事につくのはやめてくれ」と本気で泣いて止めたものだ。テレビはまだそんな認識をされた時代だった。

その制止も振り返って入社し、最初にやらされた仕事は、クレイジー・キャッツの生本番での使い走り。その現場の血がわき立つような活気に一気にはまってしまった。それから五五年。その青春の絶頂期から衰えを言われる現在まで、日本のテレビの歴史が、自分の人生と重ね合わされて感無量。

(元フジテレビ)

卒業六十周年記念記事編集委員会

石井 格、小田切 由美子
片岡 玲子、高橋 一修

子供の虐待を防ぐ

酒井 邦彦（二四回）



一 最も心の痛む
犯罪―児童虐待

私は、三八年間
検事をしました。
その間、よど号ハ
イジャック事件、

日本赤軍によるテロ事件、ロス疑惑事
件、日航ジャンボ機墜落事件、自民党
金丸副総裁の脱税事件、北朝鮮による
日本人拉致事件など日本の犯罪史に残
るような大きな事件の捜査や公判に携
わってきました。また、窃盗、詐欺、
殺人、覚せい剤の事件など一般の事件
も数多く扱ってきました。

でもそれらの犯罪の中で、最も心が
痛んだ犯罪は児童虐待事件です。それ
というのも、乳幼児や子どもは、外か
らの攻撃に無力ですので、親が子ども
の安全を守ってあげなければ生きてい
けないのですが、その親から暴力を振
るわれるという理不尽、まさに逃げ場
のない犯罪です。しかも、子どもにとつ

て、そんな親でも唯一の親で、他に頼
る人はいませんので、親から乱暴され
ても「お父ちゃん、お母ちゃん」と泣
いてしがみついていきますし、事情聴
取をするとそんな親をかばう子どもは
少なくありません。私たちの孫や子ど
もが幸せにしている一方で、親からひ
どい暴力を受け、あるいはご飯を食べ
させてもらえないような子どもを見る
につけ、胸が締め付けられるような思
いになりました。

しかも、子どもの虐待は立証が最も
難しい犯罪の一つです。それは、密室
で行われることが多く、体を揺すった
り、殴ったりと素手で行われるために、
目撃者がおらず、物証が残らず、しか
も多くの親は犯行を否認します。また、
子どもは、乳幼児はもちろん小学生で
も被害状況を正確に記憶して正確に供
述することができません。そのような
子ども虐待が、激増しています。
二〇一五年に全国の児童相談所が対応
した虐待通告件数が一〇万件を超えま
したが、これは二〇〇〇年の五倍以上、
一九九〇年のなんと一〇〇倍です。こ

の激増は、のちに述べるように社会の
変化に深く根ざしており、その速やか
な改善は期待できないことから、子ど
もの虐待はこれからも増加し続けるも
のと思われれます。

二 子ども虐待防止に向けての提言

私は、子どもを虐待から守りたいと
考え、高松高等検察庁で検事長をして
いたときに、プロジェクトチームを
作って「児童虐待防止と検察の在り方」
という提言を取りまとめ実施すると
ともに全国に公表しました。

提言の一つは、「チャイルド・ファースト」へのパラダイムシフトです。こ
れまで検察は、親の処罰の方に力を注
ぎがちでしたが、まず、子どもの幸せ
を第一に考えようということです。子
どもは基本的には両親の下で育てられ
るのが一番幸せですから、捜査を通じ
て、この家庭で健全な親子関係を築い
ていけるかどうかを見極め、親の刑事
処分を決めて行こうと考えました。虐
待による怪我は重いけど親子の絆は
しっかりしていて、この子はこの親の
下で育てられた方が幸せというケース
がある一方で、怪我は軽いけど、親の
子どもへの愛情が無く、日常的に虐待

が繰り返されて、今後さらにエスカレートする恐れがあるという場合もあります。過去に怪我が軽かったので起訴猶予としたところ、釈放後に子どもを殺してしまったという痛恨の事件もありました。

そのように検察の処分にあたつて子どもの幸せを第一にすえようとしても、検察は、捜査の専門家ですが、親子の関係とか福祉や心理の専門家ではありませんので、十分な知識はなく、判断には不安が残ります。そこで、ほかの機関から教えてもらおうと考えました。子どもを守り、育てる機関としては、児童相談所、市町村、保育園、幼稚園、学校、警察、病院、検察など多くありますが、実情を見ると、それぞれが別々に情報と専門知識を持ち、自分たちの領域の範囲内にとどまって職務を行っている場合が多いことが分かりました。そこで、検察庁では、事件が起きた際にカンファレンスを開いて、関係機関に一堂に集まってもらい、それぞれが持っている情報を共有し、専門的知識を出し合つて、その子の将来を話し合ひ、その上で最良の処分を決めることにしました。そのようなカンファレンスを通じ関係機関のネットワークはよ

り強く、きめ細やかなものとなりました。

また、前述のように、児童虐待事件は、目撃者も物証も乏しいことから、立証に困難を生じることが少なくないため、医学的な鑑定によつて虐待を立証するために医療関係者と研究会を開きました。例えば「揺さぶられっ子症候群」(編集部註)で脳に傷を負わせた親の多くは、「自分は何もしていない、ベッドから自分で落ちた」などと弁解しますが、医学的に、ベッドから落ちた程度で、脳に致命的な損傷を負う可能性はほとんどないことがわかっていきます。

三 子ども虐待激増の深層とこれから
これだけ右肩上がりで激増するには、単なる一過性のトレンドでは片づけられない社会に深く根ざした原因があるはずで、そこで、いろいろ調べたところ、原因として、こんなことが分かっています。

一つは家族・地域コミュニティの衰退です。グローバルゼーションの進展に伴い、日本のような先進国は、金融、IT、サービスなどの付加価値の高い産業にシフトした結果、若者は故郷を

離れ、大都市を目指します。その結果、地方のコミュニティは崩壊し、大都市は「隣は何をする人ぞ」という人の集まりになります。しかし、「ヒト」は本来、大家族とコミュニティで子どもを育てる動物ですので、今社会で起きていることは、自然の摂理にも反することです。

次に、貧困です。貧困が虐待の温床になることは明らかですし、生きるために昼夜を分かたず働かなければならない生活は、子育てに欠くことができない周囲の人達との人間関係の貧困を招きます。そして、グローバルゼーションにより貧富の差は拡大しており、さらに貧困は世代間で連鎖していきます。最後にコミュニケーションの質の劣化です。IT技術の発達により、フェイスブックなどで、一度に多くの人とつながることができますが、そこで築かれる人間関係は底の浅いもので、ここでは、子育てに悩んだときなどに何でも相談できる親友は作れません。

このような現代社会の病理が子ども虐待の原因となっています。にわかには信じられないと思いますが、つぶさに分析してみると、英国のEU離脱の原因とも通底していることが分かりまし

た。これは、グローバルゼーションの負の側面であり、今世界が抱える最も大きな問題だと思えます。

したがって、子どもの虐待を防ぐには、日本の社会の在り方そのものを再構築する必要があると思えます。そこで、私は、検事を定年で辞めて弁護士になった今も、子ども虐待の防止のための講演などを行う一方で、地域において、虐待を受け、あるいはご飯を満足に食べられない子どもたちが、いつ行っても、話を聞いてもらえ、ご飯もお腹一杯食べさせてもらえる場所を提供するコミュニティの活動を応援しています。

子どもに優しい社会は、高齢者にとっても障害者にとっても誰にとっても住みやすい社会です。日本人は、お互い助け合う優しい心をまだ失っていません。日本は、少子高齢化の最先端を走る国であり、これからさらに経済的に豊かになれるかは疑問ですが、もともと大切な、人々が優しさにあふれる豊かな社会は築き上げることはできるはずですし、高齢化社会の理想的な在り方として世界の手本になることはきつとできると思えます。

そのため、これからも微力を捧げ

ていきたいと思えます。

(前検事長、現弁護士)

(編集部註)揺さぶられっ子症候群

人間の頭蓋骨と脳の間には架橋静脈が通っていますが、小児(特に赤ん坊)の頭は、大人に比べて頭蓋骨と脳の間の隙間が広く空いていてその血管がぶらぶらしているため、頭を揺さぶられるとその血管が切れやすく、切れると「硬膜下血腫(こうまくかけっしゅ)」などの出血が起き、それが脳を損傷してしまいます。このため、死に至り、あるいは視力障害、言語障害、知能障害、重度心身障害など深刻な後遺症を残すことがあります。



世に「草落語」こそ愉しけれ

山岸 哲男(六回)

「シニア大楽」とい

うNPO法人主催の「第四回全日本シニア社会人落語会」が昨年四月に開催され、私は前回に続いて二回目の出場をしました。会場



は東京の文京シビック小ホールで三七一席。満員のお客様を前にした高座は私を高揚させます。落語を習ってホントに良かったと感じる瞬間です。

私は小学生の時にラジオで初めて落語を知りました。私にとって長い間、落語は観る物ではなく聴く物でした。

母校の近くに新宿末広亭があるのに、寄席の木戸銭は高校生には手が出ないので行かず仕舞い。テレビの無い時代ですから相変わらず落語はラジオ頼りでした。新聞部に入ったら先輩も同輩も落語ファン。高校三年間はとても楽しくて卒業したくないほどでした。

一九五四年、卒業してすぐに早稲田大学落語研究会に入会。落語は観る物だということを初めて知りました。

早大落研は大学落研の嚆矢で、四八年頃に故小沢昭一先輩たちが創ったものです。因みに私たちは落研をラッケンと読み、今でもオチケンとは絶対に読みません。落研では落語を演る学生はほんの数人で、研究派と称する無精者が多数派で私もその内の一人。

ここで落研によく遊びに来ていた「柳家小ゑん」というプロに逢います。とにかく噺が滅法うまい。私と同年で、大学からの帰りも途中まで一緒。

やがて「小ゑんチャン」「哲つあん」と呼び合う仲になります。卒業後の六三年に有楽町でバツタリ。「オレ今度ね、襲名して真打になるんだぜ」「へえー何てんだい?」「談志：立川談志」。後にこの国は、名人の噺家を失うことになりました。

社会人になってからは落語とは遠ざかるばかりで、落語の世界とは無縁になりました。隠居の身となり無聊を託っていた十四年の夏、遊びに来ていた息子に「落研にいたんだから落語の稽古でもしてみたら」と勧められて、すぐにネットで「なまらく落語教室」に入会して現在に至ります。最初に稽古を付けてくださった講師は桂文雀という真打でした。真打ですから私たちは師匠と呼びします。現在は柳家小んぶという二つ目なので、師匠とは言わずに「小んぶさん」です。

私はこの教室で「すば楼」という高座名を名乗ることにしました。高座では「雀(ジャク)すば楼」という。ご存知「カリブ海の子」ジャック・スパロウをパロっています。J・デップが怒るかも。

この教室も年々大きくなり、首都圏に十五か所を数える大成長ぶり。一ク

ラスが十人前後で八二歳の私が全生徒の中で最年長者です。仲間の三割は女性。お勤めの男女が多く私の息子や孫くらいの方たちが、勤めを終えてから稽古に駆けつける姿を見ると頭が下がります。泰平の遊民はラクですね。一年が三学期、一学期が三カ月。一

カ月に二回、一学期六回の稽古で月謝が三万円です。年に三つの噺を習得します。学期の初回後の飲み会と発表会後の打上げ。若い男女の級友と酒間にもみえて談論風発。これまた無上の喜びで愉しみなのです。

教室では当日の入室順に講師の前で自分の噺を演るのですが、覚えて来る人もいればそうでない人もいます。生徒の演題は重複しないように申込時に調整されています。講師は模範演技をすることは無く、噺の終わりに講評と演技指導です。演者以外の生徒たちはこの一部始終を我が事のように見て勉強するという按排です。勤めの加減で途中で入室する人、自分の番が終わりで途中で退室する人、いろいろです。

素人が演る落語を世間では「素人」「アマチュア」「社会人」落語などと呼んでいますが、私は「草落語」です。草野球や草競馬があるんだから草落語

だって…という理屈です。さあ、その修行の仕方です。

初回のガイダンスで訊ねてみました。「どうやって習うんですか?」。主催者曰く「キスはしません」。エッと驚く私に「口移しではおせえないでえことです」。まあザッとこんな調子です。

先ず与えられた前座噺の中から「千早振る」を選び、臍の緒切って初めて「落語のお稽古」に臨みました。真正面を向いて只管に覚えて来た噺を声にする。師匠からは「落語にはカミ・シモがあります」と言われる始末です。

落語は一人芝居ですから、歌舞伎芝居のように上手下手(カミテシモテ)があります。高座に向かって左側が常に入口でシモです。殿様・武士・大家・隠居・男性などはカミにいて、右(客席から見ると左)を向いて話します。位の低い方はシモにいて左を向いて話すわけです。それが判らなかつたのです。それでも三カ月後の発表会では何とか無事に一席を終えることができました。新しい噺に取組むとします。ネットで目指す落語の動画を探し出して、それをテープに録音してから、少しずつ紙に書き起こすのです。私は、ここまでは今でも実行しています。

以前は書いた落語の丸暗記でしたが暗記した噺は何か所忘れると後が続かない。落語に空白が生まれ、最悪の場合立ち往生です。そこで今の自習では、端は暗記ですが、筋と登場人物の役割を覚えたら、あとは噺の中の人物、横町のご隠居や熊さん、八つぁんに筋に沿って好きにしゃべらせる、という按排で稽古の回数を重ねます。当たり前ですが、同じ噺でも一回毎にセリフが違ってしまふ。でも兎に角、忘れることだけはなくなりました。

知らずにセリフを飛ばしてしまふ、というのも悩みの種です。高座で二度もやってしまいました。似たような段落やセリフが続くと、飛ばしても気づかずに進んでしまふ。聴いている方も気づかないのです。高座を降りてから、予定より早く終わったことで、ようやく気付く次第です。対策が必要と、考え付いたのが、似たような段落・セリフの結びに、次のセリフを自然と引つける「鉤」のような言葉を付けることでした。これからも失敗を繰り返す度に、何とかして解決策を考え出さないといけないでしょうね。気の重い仕事ですが楽しみでもあります。プロには及びもつきませぬが、草落



語では場数を踏むのが一番でしょう。と言っても草落語家にはその機会は多くない。私は場数を増やすために、地域の公

民館での落語会や、養護施設やデイホームなどへの慰問落語に精を出しています。私は地域の素人演芸サークルの会員になっていて、そこが各種の施設への慰問の仕事を受けてきて会員に割り振るのです。たまに都内に出張りますが大抵は千葉県内です。もちろん口ハです。昨年の実績は左の如し。

いろいろな落語会

慰問落語

二四

一〇 昨年は一ヶ月に二から三回の割で落語を口演している勘定になります。今年もこの調子が続けるつもりです。

本寸法の落語会ではウマイ方々に混じると、思わず肩に力が入ってしまう。一方、慰問では「先ず落語という物を持ってもらおう」という「謙虚」な料簡を「おチ」を「丁

寧に説明」するとか苦心して、一所懸命いろいろ工面いたします。そして、この事が自分を落ち着かせてくれるという趣向です。多少は世間様のお役に立つ上に、己の為にもなるわけで、こんな間尺に合う話しはありません。

落語を演るのに声が遠くまで届かない、聞こえないとか、言葉が不明瞭というのは頂けません。私も大勢の方から指摘されて悩みました。発声練習の教室へ通ったりと、色々試しました。その結果、幾つかの基本的発声訓練法を組み合わせた自己流を編み出して、自分のルーティーンにしました。朝食・昼食後と就寝前、一日三回、洗面鏡に向かつての滑舌・発声訓練を毎日続けて二年近くになります。鏡を使うのは、口を大きく開けているか、舌を早く廻しているかなど、己の顔を見て確認するためです。その甲斐あってか、近頃は落語ではなく「声」を褒められることが多くなりました。

大きな声で落語を演るようになって健康になったという自覚はありませんが、記憶力の維持には役立っているような気はいたします。

「臆面も無く」という響感を買うこととは覚悟の上で、自分の落語口演をで

きるだけビデオ撮影して動画を残すようにしています。ネットで「すば楼の落語集 YouTube」で検索しますと、拙が現れて一席お笑いを申し上げます。体力に自信のある向きは、ぜひ一度お試しあれ。

(草落語に夢中な 雀 すば楼)



強さ、やさしさ、たくましさ

国沢 真弓 (三三回)



「強さ」と「たくましさ」は、高校時代に育まれたかもしれない。人生で初めて、自分で行きたいと選び、挑戦

した、高校受験。念願かなって「新宿高校」に入学。私が入学した当時は、男子が女子の二倍いた。男子だらけの教室の中で、少ない女子は結束し、たくましくなっていた。ただではなく、新宿高校には、脈々と続いている「遠泳」「マラソン」「縄跳び」「水泳メドレー」等々がある。それが、得意とか苦手とか関係なく、挑戦せざるを得ず、「二キロ泳ぐなんて、絶対ムリでしょ

う。二五メートルしか泳げないのに」と言っていた私も、みんなと声をかけあつて泳いだら、泳げてしまったからビックリ。その他、「マラソン」も「縄跳び」も「水泳メドレー」も、よく考えると「身体を動かす系」ばかりで、新宿高校らしい(笑)けれど、多感な時期に、そのような体験を出来た事が、どんなに「贅沢な事」だったか…、どんなに「底力」をつけてくれたか…、五十歳を過ぎた今、実感できる。

高校卒業後、進学した聖心女子大学も「高校とは全く違った環境を覗いてみたい」という挑戦心からだった。大学卒業後、コンピュータ会社に入社した時も、「男女雇用機会均等法」施行前だった為、三年後、転職に挑戦した。「手に職を持って、一生続けられる仕事につこう!」と。目指したのは、なんと「アナウンサー」。理由は、①人と話すのが好き②声を褒められる事が多い…という二点。たったそれだけの理由で挑戦する、「無謀」さ!

それでも、何とか夢が叶い、ラジオ短波の経済ニュースキャスターに採用された。その後、「フリーアナウンサー」になった私は、NHK「きょうの料理」婦



人百科」等の司会を十年程担当した他、ラジオ・テレビ番組の進行、企画構成、レポート、ナレーション…など、依頼されれば、何でも引き受け、キャリアと度胸をつけていった。

女の子と男の子、二児の母となった後、仕事はずっと続けていた。そんな中、息子が三歳の時、「自閉症」という障害がある事が判明。「自閉症」は治らない障害と知り、私は二ヶ月程泣いてばかりいた。けれど、メンメンしてばかりは、いられなかった。なぜなら、子どもは日々成長しているから…。「息子をありのまま受け止め、良いところを大切に育てよう」…そう決意した私は、同じ障害の子どもを持つお母さん達と、三鷹市発達障害児親の会「モンブランの会」を立ち上げた。

更に、「自閉症スペクトラム支援士」の資格も取得した。

今は、二〇一三年に設立した、一般社団法人「発達障がいファミリィサポートマール」の代表理事を務めている。

業務内容は、

①見た目に障害と判りづらい自閉症など発達障害の事を伝える「講演」の仕事、②家族を支える「相談支援」の仕事、③家族・本人が安心して参加できる「イベントの企画・開催」等が、メインである。

実は、一割近く居るとも言われている「発達障害」の人達のことを知る事は、すべての人間関係・コミュニケーションの取り方に通じるヒントが、ギュッと詰まっているのである。企業の方々に講演をすると、「えっ、この接し方・伝え方は、部下や同僚に活用できる！」というご感想を、よく頂く。そう…、知る事で、変わる事は、たくさんあるのだ。

かつて、息子の障害が分かって、泣き暮らしていた時期もあった私が、今、その障害の事を伝え、悩める家族を支え、安心できる居場所作りをしている。なんと「たくましさ」！ 根底には、新宿高校の「遠泳」があるのかな（笑）

そして、「やさしさ」。…と、自分と言うのは、はばかられるが「どんな人も尊重したい」という想いが芽生えたのは、障害のある息子のおかげ。いろ

いろな人が居ると認め合える世界は、きっと、誰にとっても「やさしい世界」だから…。

そんな社会の実現に向けて、これからも、一歩一歩、出来る事をやっていきたい。…新宿高校に感謝しながら…。

★一般社団法人「発達障害ファミリーサポートマール」HP

(ファミリースポーツマールで検索可)
<http://marble-family.org/>

(フリーアナウンサー、
法人代表、自閉症スペクトラム支援士)



新宿高校とその後の私

堀内（松下）直代（十五回）



私は本来新宿高校の校区ではなかった。私の住所は調布市で行ける学校は立川高校であった。体があまり丈夫でなかったの、母親が京王多摩川駅から最も通いやすい京王線の終点から終点である、新宿高校を選んだ。今だから時効ということ、白状すると、

中学二年の時に世田谷の千歳中学校に転校した。おかげで、私にとっては通学の困難には全く出会わないで済んだ。高校一年の時には全く自由気ままな生活を送った。

高二の時に知合いの伝で、夏休み殆どすべてを伊勢丹の呉服売り場のレジのアルバイトをした。後で考えると無駄な夏休みであったと同時に少し世の中のことを知ったような気がする。同時に学園祭で、「真間の手古奈」というOperaの主人公、手古奈の役をした。舞台の写真を地学の豊沢先生が沢山撮って全部頂いたことは強く印象に残っている。高校一年の時にはコーラス部に所属していた。それと新宿管弦楽部でバイオリンのパートを演奏した。私は子供の時から、いろいろなものに興味を持つが、残念なことにそれらのどれも真剣に取り組めず、また長続きがしなかった。それらの中で、続いたものはバイオリンである。私が小学校三年の時近所で、大人の人がバイオリンを弾いていた。それを毎日のように聴きに行き、母親を説得して、習うことができた。六年の時に、もしもバイオリンのプロになるためには一日十時間弾かないとなれない。といわれ、

さつさと諦めた。しかしバイオリンはそれ以後もずっと続けた。中学校の時にはなんの苦勞もなかった科目に好き嫌いが生じた。数学や物理は大好きだったが、社会科は覚えることが嫌いな私には苦手意識が生じ、母親が高校で歴史の教師であったにも関わらず。しかもなんと、高三の時の担任が日本史の教師であった。

クラブもいろいろ挑戦したがどれも長続きしなかった。でもどのクラブも楽しかった。大学進学は好きな物理へと進んだ、どの授業もとても興味があり、充実していたが、やはり怠けグセが出て、修士課程までは行けたが、当時私の大学には博士課程がなかったの、そこで、あきらめればよいのに物理の研究者と結婚し、いつまでも引きずっていた。関西に引越し、京都大学の研究生になり、核理論の研究をした。折角、教授に大学への就職を世話してくれたのに、専門とずれているということ、断ってしまった。更に、京大に籍を置きながら阪大の森田先生のところ、 β -decayの研究をしていた。再び、森田先生が物理数学の講師のお世話をしてくださったが、分野が違くと断ってしまった。今から考える

と結婚しているの、食べるのに困らないという甘えがあったために少ないチャンスすら失っていったのだ。なんと傲慢だったと、後悔している。

四年ほどしてから、京大の広報で、ある高校が数学、物理の教えられる教師を募集していたので、奈良の私立のそこに就職した。週一回だけ、許されたので、阪大の研究室に通っていた。学会では高三の時同じクラスであった、今は亡き宇野さんとは時々、会った。彼と私は院の時に一年間彼の大学の先生の授業と一緒に聞かせてもらった思い出がある。

もう学会に顔を出すことがなくなった後、益川先生のノーベル賞受賞祝賀パーティーに参加した時、そこで、宇野さんの訃報を聞いた。とてもびっくりした。お元氣だとばかり思っていたのに。とても残念でした。

その高校ではクラブ顧問は勿論、弦楽部であったがしばらくして、バイオリンが専門の音楽教師が入ってきたので、その先生に譲り、かねてから憧れていた、華道部の顧問になった。この学校の流派は昨年創流百年という奈良派である。この花は東京では見ること

のできなかった、山や野の自然の景色を身近に持つてきたもので、他流派とは全く異なる魅力的な生花である。華道部の正顧問の先生が定年でやめられ、私が正顧問になった。花展が年に二回あったが、どんなに忙しくても必ず、見に行つた。そのうち、教えに来てくださった先生から家に習いに来ないかと言われ、習い始めた。師範の免状も取り、今では私自身が教えている。花展には必ず出店をしている。

バイオリンは年二回の奈良県立医大の定期演奏会に参加していた。

物理ではその学校が受験校なので、受験指導を主にしている、Z会の添削をして、利用したり、問題集や物理小辞典を共著で書いたり、あんなにこだわっていた原子物理とは授業以外には関わりがなかったが、物理教育学会で五十周年として『基礎物理』の本を会員である、高校教師、大学教授たちと出版した。その時にやっと、保存則及び原子、原子核のパートを書かせてもらったことは満足している。このように、いろいろなことに手を出すくせは新宿高校の時に培ったものだと思う。

(元帝塚山高校教師物理担当、

大和未生流師範)

南欧料理、パリの居酒屋風レストラン

ぐる シヤトー

“新宿高校”と言えば特別サービス

アド街ック天国、日曜ビッグバラエティその他テレビで何度もオンエア
東京駅八重洲北口から歩いて2分

創業56年と
なりました。

日曜・祝日の貸切大歓迎。
(場所代無し)是非ご相談ください。
土曜日も昼夜とも通常通り営業
しております。

15回生の池上がやっています。

JR東京駅	
八重洲北口	
外堀通り	
ぐるシヤトー	本間ゴルフ
東京都中央区八重洲 1-6-14 電話 03-3271-7665	牛丼松屋
★★★ 営業時間	丸善
昼 11:30 ~ 2:30	
夜 17:00 ~ 22:00	高島屋
(ラストオーダー)	

新宿三丁目駅E4出口直結
新宿高校から徒歩5分

レストランクルーズ・クルーズ新宿

TEL 03-5485-3900

パーティ

チーム新宿同窓会プラン ¥6,000 (税別) ※フリードリンク付き/6名様~/3時間制

スペシャル特典

こちらのプランご利用の場合「100周年記念事業委員会」募金PJにお一人様100円が募金されます

ランチ

朝陽ランチプラン ¥4,300 (税別) ※フリードリンク付き/2名様~(6名様~個室利用可) /3時間制

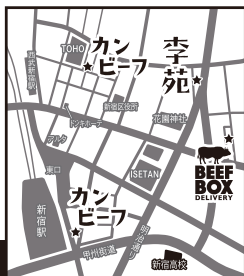
パーティー
最大
200名まで



詳しくはこちら
<http://www.ginza-cruise.co.jp/fair/shcy.pdf>

新宿高校OBの 焼肉店

新宿高校関係者御用達の新宿高校から
徒歩9分にある、新宿生まれの焼肉店
が美味しいんですが、



焼肉酒家 和牛専門
李苑 カンビーフ

新宿区新宿 5-18-16B1F
TEL:03-5292-9211

新宿区新宿 3-36-2
B2F
歌舞伎町店 新宿区歌舞伎町 1-12-1
KTビル 2F

[BEEF BOX] UBER EATS に出店中!

アプリをダウンロードして [eats-uvk96nd9ue] の
プロモコードを入力し1,000円分のチケットをゲットしよう!



食べますか?

株式会社ファクト 代表取締役 姜在根 新50回卒業

支部便り

北海道朝陽会 支部便り

二〇一七年の北海道朝陽会は七月一日土曜日に札幌グランドホテルで開催され、十三名のご参加をいただきました。

また、朝陽同窓会からは大池様(二四回)にご参加いただき、新宿高校の現況についてお話を聞かせていただきました。毎年、今の高校のお話を聞く機会があると、北海道に住む私たちにも新宿高校が身近に感じられます。たまたに東京に行き、現在の母校を見ると、時代の移り変わりを感じる昨今です。例年通り午後五時から八時までゆっくり参加者皆様の近況をお聞きしながら時を過ごし、二八回生の先輩のパーにて二次会という流れで楽しいひと時を過ごすことができました。

今年の北海道朝陽会は七月七日土曜日、札幌グランドホテルにて開催されます。道内にお住いの方だけでなく、出張やご旅行などで札幌にお越しの方も、お気軽にご参加いただけますよう、幹事一同心からお待ちしております。

ご連絡・お問い合わせは小川一雄(三八回生)までお願いいたします。

Kazuo.ogawa@sapporo-ced.jp

(小川 一雄)



宮城朝陽会支部便り

―田上新会長就任!―

当会は、宮城県内に在住する府立六中・都立新宿高校出身者の集いであり、実業界をすでに卒業されたOBのほか、現役社会人や学生からも広く参加を募り、活動しています。年代を問わない交流とアットホームな雰囲気が創立以来のDNAとして引き継がれています。昨年は九月三十日、例年よりやや少な目の十一名が参集し、和気藹々と愉しく懇親会を開催しました(於・ホテル法華クラブ仙台)。

本部からは、小野副会長が駆けつけて下さり、母校での現役後輩諸氏の奮闘振りや新宿界限の変遷など、貴重な情報をプレゼン下さいました。

これは東京を離れ生活する我々にとり、毎年恒例の人気コーナーであり、後輩諸氏の元気な様子を拝聴し、一同新たな勇気が湧いて参りました。

また、転勤で宮城県を離れてもなお会員に名を連ねて下さり、会を支えて下さる方が多数いらっしゃるのも当会の特徴の一つです。今回も関東方面より、心の故郷・仙台へと、20清田啓夫さん、42齊藤毅人さんをご参加下さい



ました。毎年
本当にありが
とうございま
す。当会に
とって大切な
応援団、誠に
心強い限りで
す！

会員諸氏か
ら近況やご活
躍ぶりの報告
がなされた後、
シメは恒例の
「六中健児の

歌」。齊藤毅人さんの名指揮のもと、
全員で高歌放吟。「また元気に頑張ろ
う！」とお互いの肩を叩き合い散会い
たしました。

さて、東日本大震災の年以降、長ら
く会長を務めて下さった9青木恭規さ
んが今回をもって退任。新会長に10田
上八朗さんが就任しました。また、副
会長も4岩井鐵也さんと20米本行範さ
んの二名体制となり、ますます磐石の
体制となりました。新体制のもと、当
会は、新会員のお越しを心よりお待ち
いたしております！

(三八回 小田島 肇)

群馬朝陽会 支部便り

群馬朝陽会は偶数年に総会を開いて
おります。

群馬を冠しておりますが、北関東、
埼玉県北部、長野県軽井沢周辺に在住
の方も歓迎です。

今年（二〇一八年）は十一月第二週
の土曜日十一月十日を予定しておりま
す。

興味ある方は下記世話人までご連絡
願います。

顧問 荒井俊幸（七回）

世話人 浅原寛人（二五回）

連絡Eメール

kantol07@jcom.homenet.jp



第十五回多摩朝陽会総会 ご報告

二〇一七年七月八日（土）、恒例の
多摩朝陽会総会が多摩センター駅前、
京王プラザホテル多摩のたまつばきに
おいて開催されました。今年度の出席
者は旧師岩波先生を始め、総勢二二名。
今回初めて出席をいただいた方が五名
もいらつしゃつたので、フレッツシユな
宴となりました。

開会に先立ち、多摩朝陽会の設立に
尽力され、朝陽同窓会の支柱でもあり
ながら、一昨年残念にしてお亡くなり
になった佐藤喜一先生に黙祷を捧げま
した。次いで、会の世話人挨拶、朝陽
同窓会長十七回田中さんからのご挨拶
を受けて、岩波先生に佐藤先生との思
い出を語っていただきながら乾杯のご
発声をいただきました。その後は、大
きな円卓に大体六、七名ずつ座ってい
ただき、ビュッフェ形式で食事を摂つ
ていただきながら自由に歓談していた
だくのですが、今年は「新しい方もい
らつしゃるので、席を固定せず、どん
どんお喋りを楽しんでください」と申
し上げましたところ、皆さん積極的に
多くの方と席を入れ替わりながら歓談
され、結果的にはお料理が随分残って



しまうほどになりました。朝陽同窓会事務局長の十五回西出さんからは、昨今の新宿高校の状況の説明と資料（毎日新聞に連載された「母校をたずねる」の十二回分を小冊子にまとめたものや、

新入生に配布する朝陽同窓会参加のための冊子など）をいただき、場がひとしきり盛り上がります。今回初めてご参加いただいた方には自己紹介もいただきました。十六回北嶋さん、二十回鶴田さん、三四回大久保さん、三六回小野さん、そして、六十回！国府田さん。小野さんと国府田さんは実は同じ会社の上司・部下の関係でもいらっしやるとのこと、今回おふたりでご参加いただきました。

筆者からすると、私より後輩の皆さんが、三人も参加してくださるなんて夢のようでありました。お開きには健児の歌を斉唱。笑顔で散会となりました。

今年も七月七日（土）十八時〜同じ会場で多摩朝陽会は開催いたします。大変フレンドリーな会ですので、初めの方もどうぞ足をお運びください。特に、三十回代、四十回代、五十回代、六十回代、の皆さん、お待ちしております。



（三三三回 大内）

関西支部便り
平成二九年度総会（同窓会）報告

関西朝陽会総会は平成二九年十一月十九日（日）十三時三十分〜十五時三十分迄の二時間、大阪ガーデンパレス「松」で開催された。参加会員は十六名、本部から田中俊郎会長（17）がご出席されました。会は渡辺信久支部長（34）の司会で進行。田中会長の挨拶、黒岩明道氏（5）の挨拶に続き上田友之氏（5）の音頭による乾杯でスタート。歓談をはさんで、田中会長より母校の近況について、配布資料も使いながらご紹介していただきました。



その後、全員で校歌・健児の歌を斉唱し、渡辺支部長による閉会の挨拶、最後に集合写真撮影して散会しました。尚、過去数年は土曜日開催でしたが、今回は日曜日開

催とさせていただきます。

次年度（平成三十年度）についても現在のところ十一月下旬の日曜日開催を予定しております。決定しましたら朝陽同窓会のホームページにてお知らせいたします。

（西島 健太郎・44）



九州支部便り

九州朝陽会総会・懇親会報告

二九年度総会は、今年も福岡天神・福新楼にて、十一月十八日土曜日十一時半より開催。遠方会員や会員の高齢化（？）に配慮し、初の試みとして昼会と致しました。

参加者 十五名（3石井 7小泉・豊田 10寺田 14岡本・佐治 15野上 16佐藤 17芝原とご令室様 19諫山 23安武 28小林 29山下 52薄鍋）。

総会 三月東京に転居された高野幹事に代わって、野上・安武両氏が幹事として承認され、安武幹事のよく通る美声の司会で進行されました。

例年朝陽会本部よりご出席があり、母校の様子をご報告頂くお楽しみコーナーが、今年は母校「ホーム・カミング・デー」と重なりかねませんでした。

そこで、会員各位のご協力を仰ぎ「能ある鷹の爪」を隠さず披露して頂くことになりました。

豊田幹事七十からの手習いギター演奏で始まり、野上幹事のフルート演奏「ミスターロンリー」は懐かしい「ジェットストリーム」のナレーショ

ン付き。芝原氏による円熟のギター演奏に続き、福岡出身の奥様も歌声で花を添えてくださるサプライズもあり、ト리는小林幹事長（九州交響楽団）が



2017年 九州朝陽会総会 平成29年11月18日 於：中国菜館 福新楼

「ボレロ」「津軽海峡冬景色」のオーボエパートを演奏。一同心和む贅沢なひと時となりました。

懇親会 写真撮影の後は、小泉前幹事長の乾杯のご発声が続いて、円卓を囲み歓談しながらの近況報告です。

数年ぶりにご出席、寺田氏の健康体操に、石井会長が毎朝実践されているという体操も飛び出し、先輩方の若々しさの源は、やはり日々の積み重ねのようです。お互い、病気や介護の話もありますが、回復されて、元気でまた杯を重ねる時の喜びはひとしおです。回を重ね、奥様・お嬢様・お連れ合いなどにご同席頂ける会になっています。本部にお尋ねになれば、連絡がつきます。お仕事・観光・日本一ホークス観戦など：ご来福の際は、ご参会をお待ちしています。

(幹事 29山下 美智恵)



朝陽USA支部便り

朝陽USAは北・中央・南アメリカ大陸にお住まいの方を対象としており、現在会員数は四十名。以前アメリカ大陸に在住していた方も含め、ゲーゲルのメーリングリスト上を利用して情報交換をしています。母校の入学式・学園祭や恩師のことで盛り上がることもあれば、慣れない異国の地に引越してきたばかりの新会員にお役立ち情報を提供する場面もあって「新宿の間違ってどこにいてもやっぱり素晴らしい！」と朝陽USAを通して母校の絆の深さを強く感じることもしばしば。

総会・同窓会は二年に一度、偶数年開催のため、昨年は全米規模の集いはありませんでしたが、会員の多いロスで二月に新年会、七月に暑気払い、シカゴで八月に会員の送別会、ニューヨークで同窓会打ち合わせ会が行われました。

朝陽USA同窓会のユニークな点は、毎回開催地が違うことです。過去ロス、ラスベガス、サンフランシスコ、シカゴで同窓会が開催され、今年はいよいよニューヨークでの開催。現在、当地在住の皆さんが実行委員会を作っ

て開催に向けて企画を練っているところです。毎回場所を変えることでまさに大人の修学旅行！二年に一度の同窓会を楽しみにしている常連さんが沢山いらっしゃると思います。米大陸にお住まいの方はもとより、十月半ばにビジネス等でニューヨークにお越しの皆さん、是非ご参加ください。詳細が決まり次第、FACEBOOKにも情報を掲載しますので「いいね」もどうぞ宜しくお願い！

また随時新会員募集中です。アメリカ大陸に留学・在住の方、是非ご一報ください。お待ちしております。

代表幹事 横田 康子 (三四回)

第5回朝陽USA 総会・同窓会

日時：2018年10月20日(土)

午後4時(ソーシャルタイム)

午後6時総会・同窓会開始

- 会場：マンハッタン内(詳細は未定)
- 会費：\$60-\$70 前後
- 問合せ・申込先：
NY 幹事：コドナー裕子(44回)
E-mail: yuko.codner@gmail.com

朝陽かんらん会 獣医師の会

朝陽かんらん会は、府中六中、新宿高校を卒業した獣医関係者の集まりです。一九八五年に、故・杉浦邦紀先生（中8）、故・高橋威彦先生（中9）、故・竹内啓先生（3）のお声掛けで発足したと伺っております。かんらん会の名前の由来については、『かんらん』は月桂樹で、獣医学のシンボルであるからとのことです。

現在の会員は約三十名。会長は片江宏巳先生（10）。

獣医学関係者と言っても職種・職歴は様々で、元上野動物園園長、元大学教授、中央競馬会勤務、農薬または動物用医薬品の研究、大動物臨床（家畜の診療）、小動物臨床（ペットの診療）、新聞社勤務、製薬会社勤務の先生等々、多岐に渡っていますので、各専門分野からの意見をお聞きすることが出来て、とても勉強になります。

年一回の会合は、毎回十名前後の参加者があり、大いに盛り上がりがあります。平成二九年度のかんらん会は、会員

の大滝先生（43・奥様も同級生）が春に開業した動物病院（品川オーバル動物病院）の見学をさせて頂いた後、青物横丁駅近くのイタリアンレストランで食事会をしました。

過去には、家族同伴で東京競馬場VIPルームで観戦しながらの懇親会をしたこともありました。

まだご参加頂いていない獣医関係者の方がいらっしやいましたら、根本先生（37） nemotohr@jcom.home.ne.jp まで御連絡下さい。

（32回 鈴木 正美）

朝陽硬式テニス部会

朝陽硬式テニス部会は、二〇一六年九月二四日発足し、現役部員の支援、会員の親睦を主な活動としています。

練習用ボールの支給、夏季合宿の飲料の差し入れ、コーチの合宿費用の一部支援など、顧問の先生と相談しながら行ってきました。二〇一七年三月には、母校テニスコートにおいて、現役



部員との親睦テニス会、その後会員の懇親会、六月は戸山戦の応援、九月朝陽祭出展を行い、九月二三日五八名の会員と、佐元、幸田元教諭をお迎えし、第二回総会を開催いたしました。現在百五十名の会員と連絡が取れる状況になりましたが、四十回生代、五十回生代、六十回生代の会員の参加を募っていききたいと思います。

写真は、第二回総会のもので、時間の経つのも忘れ、和気あいあいと歓談致しました。(25回 吉安 俊介)



求む岳友 「朝陽山岳会デナリチャレンジ二〇二二」手始めは剣集中登山

二〇二二年が新宿高校の創立百周年ですが、その記念イベントの一つとして海外の高峰にチャレンジする事を考えています。目指すはデナリ(旧名・マッキンリー)です。あの世界的冒険家の植村直己さんが行方不明になったつぎりのあのデナリです。冗談でも嘘でもありません、本気です。とは言いきなりデナリは無理でしょう。もう四年しかありません。間に合うかどうかやや心配ですが、やれる事だけは

やって、とにかくチャレンジしようと思っております。

手始めとして、剣岳集中登山を計画しています。時期は今年の夏、天候が一番安定するであろう七月末〜八月初です(具体的には七月二八・二九・三十日が第一候補)。改めて剣の解説は要らないでしょう。深田久弥の百名山の中では最も登りづらい山とされています。

集中登山ですから、複数隊が違うルートから同時に登頂し、頂上で喜びを共有します。現時点では次の三ルートを考えています。

第一隊・室堂から別山尾根(最も一般的なルート)

第二隊・馬場島から早月尾根(とにかく体力勝負)

第三隊・黒部ダムから真砂沢経由で長治郎谷(映画「点の記」で有名になった)

求む岳友。一度は剣に登ってみたい方、今までと違ったルートで剣を目指したい方、「点の記」の映画に感化され長治郎を登りたい方、是非ご一報を。その先のデナリ希望の方も勿論です。

E-mail: PX115421@nifty.ne.jp

(25回 渡辺 康隆)

第二五回東京校歌祭

今年で第25回目となった東京校歌祭は、初めて「サンパール荒川」を会場に十月一日(日)十二時三十分から行われました。

今年も勉強合宿をものともせずに参加してくれた現役音楽部員九名の応援を得て、朝陽合唱団メンバーと六声会を中心としたOB・OG新旧メンバーが声を合わせて、旧制六中校歌、現新宿高校校歌、健児の歌の三曲を力いっぱい歌いました。(事務局)



『卒業三十年の会』 三九回生

トランプ大統領来日直前の厳戒体制の中、十一月四日(土)開催の『卒業三十年の会』(京王プラザホテル)、『虹の会』(武蔵野館・パラパ)に百人近くが集い、同様に再会や新たな出会いにあふれた賑やかなひとときを過ごしました。

同窓会会長直々にご出馬いただき、母校百周年(二〇二二年)に向けたバックアップ(行方不明者の掘り起こし・奨学金をはじめとする資金面の後押しなど)の呼びかけがありました。

三九回担任陣からは唯一、菅先生がご出席。また、前回に続いて私たちの先輩でもある西尾信子先生(英語科)に加え、美声とどろく船山恵子先生(体育科)がおいでくださいました。

今回はオーストラリアから初参加の山本君(A)のスピーチを皮切りにくじ引きでリレートークを展開。北海道から参加の宮越(小松)(B)北島(A)久保・妹尾・星野(B)下田(磯部)(C)富山(E)長谷川(H)のみなさんからの自己紹介を兼ねた近況報告がありました。また、たまたま開いた母校同窓会のページから三十年

ぶりの再会に至った友人もいました。初めての参加を大きな期待と緊張感をもって会場に乗り込んだ人もひとり二人ではなかったことと思います。

英語科の橋本先生(?)足助先生(?)の乱入、(冒頭の精気の欠けた)校歌と(大きくテンポをずらした)健児の歌斉唱に続いて、福島県在住なのに世話人(?)の吉田元の発声で三本締め。

多くが二次会会場の『パラパ』にだれ込み、こちらでも山崎(銀ちゃん)内藤(A)田中・昇(島田)(E)小池(F)の初参加組が合流。

タイムスケジュールに沿った規律ありすぎる行動が二次会のスタートを早めてしまったものの、三次会・四次会まで進んだらしい、と風の噂に聞きました(謎)

今回も新たなメンバーを加えて『準備会(幹事会、ではない)』スタッフの強力な協力のもと無事にかつ盛会にすすみました。

どんなに頭脳明晰でも眉目秀麗でも寄る年波は分け隔てなくやってくるものです。今回は『五十年の会』なのか?『五十歳の会』なのか?

次なる再会の日までみなさん、ごきげんよう! (吉田 元)

卒業四五周年記念イベント

「全員集合」 二五回

今年二〇一八年は我等二五回が新宿高校を卒業して四五年目になります。

このところ五年ごとに卒業記念のイベントを開催していますが、また四五周年の記念パーティーを開催します。いつもと違って秋に開催します。二次会およびそれ以降の事も配慮して今回は午前中から始めます。この二点が注視点です。

日時…二〇一八年十月六日十一時
場所…オペラシテイー東天紅
会費…一万二千元(調整中、二次会も含む)

案内…九月初旬には正式な案内を皆さんにお送りします

本件開催に向け、いつものように各クラスの幹事は気合いを入れて事に臨んでいますので、同期の皆様もその意を汲んで、記念パーティーに数多く参加いただくとよろしくお願いいたします。

と、通り一遍の開催予告の告知を書きました。でもこれだけは言っておき

「第24回 0（ゼロ）の会」のご案内

会期： 2018年12月10日(月)～12月16日(日)

時間： 午前11時～午後6時30分

(最終日は午後3時まで)

場所： ギャラリーくぼた (4F)

〒104-0031

東京都中央区京橋2-7-11

TEL： 03-3563-0005 (代表)

たいのが、四五年も経つと月日の流れは恐ろしいモノで、あの頃の先生方も半数以上お亡くなりになり、我々の仲間も何人も逝っちゃいました。どんな寂しくなります。この辺で本当に集まれる仲間が全員集まっておかないと、もう不可能になっちゃうかも知れません。ここでいつも通りの二五回のお約束を「今度こそは全員集合」です。

(代表幹事 渡辺 康隆)

卒寿を迎えた「朝陽十九会」

「朝陽十九会」は、一九四〇(昭和十五)年四月に旧制府立六中に入學、終戦の年の四五(同二十)年三月に府立六中を卒業した十九回生の同期会である。今年大部分の会員は卒寿を迎える。

毎年六中十九回を記念し、六月十九日に、在学中の昼食にパンを届けてくれた新宿中村屋で会を開催している。今年は昨年出欠の連絡があった四八名に連絡し、出席十四通、欠席二六の四十名から連絡があった。出席者は、会員十二名、亡くなった会員の夫人二名、付添の女性二名と、椎名代表の息女山本さんの計十七名であった。この山本さんが、出欠の通知や、会の資料作成等、事務処理を一手に引き受けてくれるので、この会が続けられているのである。

当日は、正午から、椎名世話人代表の挨拶、物故者全員(今年四名追加)追悼の黙祷、乾杯で、会食、懇談に入った。宴半ばから、全員の近況報告を受けた。特に印象深かったのは、元外交官伊達宗起の「最近の世界情勢」についての解説であった。同感することが

多かった。

出席者一同和気藹々の内に楽しい一時を過ごし、来年また会おうと誓い合って散会した。

(星野 順吉)



2017年6月19日 朝陽19会 於新宿中村屋レストラン グランナ

七回生の傘寿を祝う会開催

七回生の同期会は例年秋の開催という慣行でしたが、今回の「傘寿を祝う会」は全員満八十歳到達直後の春にということ、二〇一七年五月十七日（水）の午後一時から、クルーズクルーズ新宿で開催致しました。参加者は82名でした。物故者の紹介と黙祷、母校の現況と朝陽同窓会の活動報告に続き、参加者の益々の健康を祈念しての乾杯があり、その後は楽しい歓談となりました。今回はアトラクションをすべて省略し、ゆつくりと話をすることを重点とした結果、大変和やかに傘寿を祝うことが出来ました。

前々回まで立食パーティ方式だったのを、前回から歳を考えて全員着席としたのに続き、今回は参加者の偏りを防ぐため最初だけ席を抽選する方式にしました。そして無味乾燥な番号ではなく入り口で綺麗な花の絵柄のカードを引き、その花のパネルを置いてあるテーブルに座って貰いました。これまでは顔見知りの同期生としか話をしないことが多かったようですが、今回は話したこともない同期生と初めて話が出来たという声が多く聞かれ、成功

だったようです。

また七回生の同期会では恒例になっていますが、今回も往復葉書の返事から集めた近況を報告書として纏め、参加者全員に配布しました。

今度の「傘寿の会」はドタキャンも少なく、会計的にも収支トントンの結果となり、傘寿の会は成功であったと言えます。いつまで出来るかどうか分りませんが、今後とも同期の方々とお会いする会をなるべく長く継続したいものです。

（七回 吉村 悟）

追記…七回生の創立百周年記念事業募金への協力は順調で、また「傘寿の会」での呼びかけも一定の効果があり、19万円を上積みすることが出来ました。そして秋のホームカミングデイでは全卒業回期の内、ベスト五位に入ることが出来、感謝状を受けることになりました。



全寿記念同期会（六回生）

一七年九月二八日に六回生は八十二歳を記念して**全寿**記念の同期会を開催しました。

八十歳を傘寿で、八十一歳を半寿で祝うのに八十二歳には記念の言葉がありません。そこで八十二を漢字一字に纏めて「羊」と「全」の字を選び出し、世話焼き会合で「**全寿**」を多数決したのです。ですからこの言葉は私たち六回生だけにしか通じない「六回生用語」になります。

出席者は女性十二、男性四二の総勢五四名。会場は同窓会事務局肝煎りのクルーズクルーズ新宿店です。このビルの前身は「新宿文化」。課外授業で先生に引率されてここで映画を観ましたね。「ゾラの生涯」「偉人エーリッヒ博士」「明日では遅すぎる」そうそう「我が谷は緑なりき」。この記憶、正しい？

今回は事務局からここを紹介して頂いたのが大正解で大成功。

- ① 会費が千円値下げされてグッド。
- ② 部屋の広さがピッタリ。
- ③ テーブルが小振りで会話が弾む。
- ④ 料理のバラエティと味がこれま

でより段違いに良い。

これらが出席者のナマの声でした。

第一回から二、三年置きに開催していた同期会を、出席者の希望により一四年からは四年連続させましたが、出席者数は漸減して今回は最少でした。この次は二〇一九年、東京五輪の前年です。会場はもちろんこのクルーズクルーズ新宿店。

今回も遠隔地からの常連が元気に駆けつけてくれました。ただ悲しい事が一つ。毎回北海道から顔を見せてくれていたA君が開催日の数日前に病に倒れて、当日が通夜になったことです。謹んでご冥福をお祈りいたします。

私たちの最近の同期会には特徴があります。それは、同期生同士の談笑・おしゃべりの時間を多く取るということです。このことは初期の会でのハプニングに端を発しています。連綿と続く我が同期会の初回にお二方の先生をお招きしました。お喜び下さった先生方が三十分以上ものスピーチを続けられ、私たちの懇親の時間が大幅に減ってしまっただけです。出席者からの多くの声にに応じて、以来この同期会では懇談の時間の確保に努めてきました。

今回も開会の辞・乾杯・閉会の辞の



みで、世話焼きからの各種報告は省略し、同期生の三分スピーチも最少に絞っています。旧友の折角の話も談笑の声にかき消されがちです。次回からは、有志のスピーチも割愛するつもり。

「机を並べたクラスメイトたちと語り合う時間を増やして欲しい」という同期生たちの強い要望により、元々この会では校歌斉唱や手締めもなく、写真撮影のための全員集合もありません。出席した全員に「おしゃべり」を堪能してもらいたいことから生まれた時間節約のルールです。

これからも、旧友たちが久しぶりの邂逅をもっともっと楽しめるように、想い出に残る同期会の実現を目指して世話焼き一同汗を流して参ります。

目標はただ一つ「只管おしゃべり」。同期の皆さん、二年後にまたお目にかかりましょう。

世話焼き十人組（文責・山岸 哲男）

「六新会」 新二回生

我が同期会は二〇〇一年に第一回を催し、毎年回を重ね今年で十七回を数えます。

「六新会」の謂われは昭和十九年四月に府立第六中学校に入学し、昭和二五年三月に都立新宿高校を卒業した仲間との名称です。（旧制四修で旧制高校に行った方を含みます）

現在の登録会員九八名（86才と85才）に案内状を送付した結果、当日の出席者は二七名で前回と丁度同数となりました。

一年経つと体調不良等で顔ぶれが変わりますが、大阪、福島から駆けつけて来られたり、十年以上ご無沙汰の方が忘れずに顔を見せたり、会員の参加意欲と団結力の大きいことがわかり嬉しい限りです。

会場は新宿中村屋の改装中は新宿プリンスホテルに変えましたが、今年から再び中村屋に戻ってきました。

宴会に先立ちこの一年に鬼籍に入られた方々に黙祷を捧げました。ショートスピーチは遠方からの参加者と久し振りの参加者に絞りましたが、時間の延長をいただき結局全員がスピーチを

することができました。

最後に恒例の「旧校歌」と「健児の歌」を斉唱し散会しました。

次回第十八回は平成三十年（二〇一八年）九月二十九日（土）此處中村屋を予定していますのでメモしておいてください。
（幹事一同）



中村光男さん（4） 文化功労賞（インドネシア）受賞

千葉大学名誉教授 中村光男さん（4）がこの度、インドネシア教育文化省府から、日本の文化勲章に当たる「文化功労賞」を受賞されました。

同国教育文化省によると、中村さんの表彰理由は、インドネシアのイスラム社会近代化に大きな役割を果たしたムハマディアの研究に生涯の半生をささげ、千葉大学との留学生交流を始めなど日本・インドネシア間の文化・学术交流に貢献したこと、両国の異なる文化や宗教間の相互理解の進化に力を尽くした、ことによるものとのことです。
（事務局）

中村氏に文化功労賞

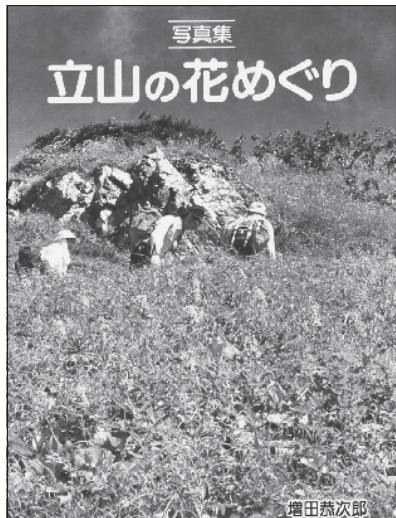
『じゃかるた研習』
2017年04月19日71面トップ

教育文化省
日本人研究者初
イスラム研究を評価

中村光男（なかむらみつお）さん、1934年生まれ、千葉大学名誉教授、東京大学大学院博士、コーネル大学客員博士、文化人奨励賞、インドネシアを中心に講演活動、イスラム社会進出のフィールドワーク、研究を続けている。



2017年11月19日の授賞式の様子。中村光男氏（前列左から2人目）が文化功労賞を受賞している。



写真集 立山の花めぐり 増田恭次郎著（12回）5000円（税込み）

37年間に渡る立山の自然観察会などで撮り集めた植物243種類の写真をA4版、282頁に収め、立山高山植物のほとんどを網羅している。植物の系統分類体系が遺伝子情報の解析に基づく分子系統分類体系に変わったので、これに準拠して配列されている。書店での販売が無いので直接増田恭次郎へ申し込む。
〒930-0886 富山市ひよどり南台13
メールアドレス: kyojiromasuda@gmail.com

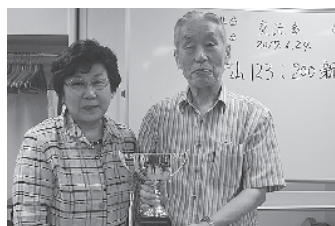
戸山交流戦

	第9回ゴルフ交流戦	第9回囲碁交流戦	第6回ブリッジ交流戦
日時	平成29年11月17日	平成29年6月18日	平成29年6月24日
場所	武蔵O G Mゴルフクラブ	初台囲碁クラブ	四谷ブリッジセンター
新宿	24名	7名	13名
戸山	19名	8名	12名
ルール	新ベリア方式の両校上位10名のネット スコア合計団体戦	2回対戦(各2名組) 持ち時間45分 オール互先コミ6目半	8ボード3ラウンドのチーム戦
勝敗	負け、通算1勝8敗	7勝7敗引き分け、通算で新宿の3勝2敗4分け	200対123で新宿が勝ち、通算新宿の5勝2敗



第9回ゴルフ交流戦スタート前記念撮影

左下：ブリッジ交流戦
新宿の優勝でカップ
を受賞
下：ブリッジ交流戦参加者
記念撮影



「吉江新二・吉江麗子二人展」のご案内

母校の美術教師として昭和22年から37年余りの長きに渡り教鞭を取られた吉江新二先生の遺作と、女子美術大学の講師等でご活躍された奥様の吉江麗子先生の最新作により、生前実現することのなかった二人展を開催いたします。

また隣接する小画廊では教え子の卒業生有志による小品展を同時に開催いたします。出品を希望される方は画廊(銀座K'sギャラリー)または担当へお申し出ください。

会期 2018年9月3日(月)～9月8日(土)

時間：月～木 12:00～19:00 金 12:00～20:00 土 11:30～17:00

担当 織田泰児(14回) 090-8492-0332 宮本圭子(30回) 03-3309-4993



銀座 **K's Gallery**
銀座 **K's Gallery-an**

TEL 03-5159-0809

〒104-0061

東京都中央区銀座1-13-4 大和銀座ビル6F

<http://ks-g.main.jp/>

E-mail: kgallery@eagle.ocn.ne.jp

webショップ: <http://artfile.jp/ks>

・会場の都合で、現花は辞退させていただきます。



- 有楽町線 銀座一丁目駅 3分
- 銀座線 京橋駅 5分
- 銀座線、日比谷線 銀座駅 5分
- 都営浅草線 宝町駅 5分
- JR 有楽町駅 9分

中央区銀座1-13-4 6F (1F 鈴木美術館)

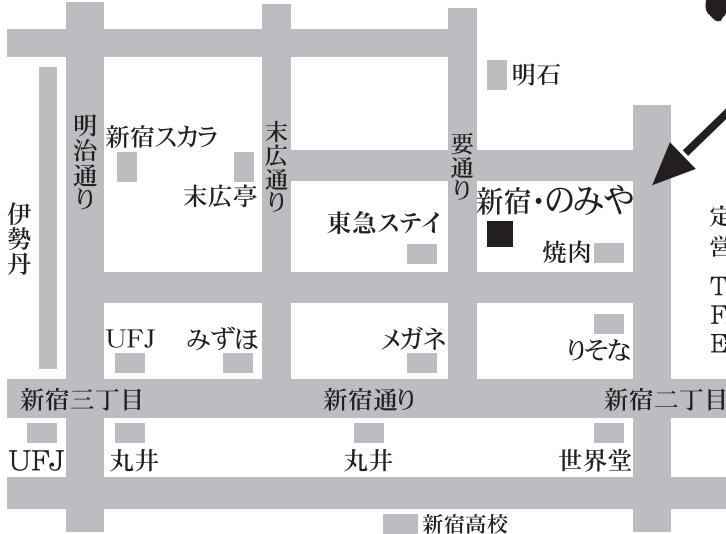
銀座 **K's Gallery**
銀座 **K's Gallery-an**

28回生、矢向と申します。
(3年F組、水泳部)

新宿高校から一番近いOBの店を経営しております。
カウンター10席とテーブル26席。
こぢんまりとした居心地のいい小店です。
お一人様で軽く一杯、またはクラス会等に
是非ご利用ください。

<http://nomiyanooyaji.cool.ne.jp>

新宿・のみや 呑



定休日 日曜・祝日
営業時間 17時～24時

TEL 03-3353-2101

FAX 03-3353-2102

E-MAIL shinjyukunomiya@aol.com



くつろぎ、味わい、楽しむ。

ホテルのあたたかさ
感じてください。



京王フラザホテル

〒160-8330 東京都新宿区西新宿2-2-1

TEL. (03) 3344-0111

<http://www.keioplaza.co.jp>

JR・私鉄・地下鉄「新宿駅(西口)」「西新宿駅」より徒歩5分
都営大江戸線「都庁前駅」B1出口すぐ

母校便り

学校長所感 校長 加藤 隆

進学指導特別推進校の指定が継続



ますます活発な同窓会の皆様の活動もあって、新宿高校は昨年度も丁寧な学習指導、生活指導、進路指導に取り組んで順調に教育活動を進めることができました。

一、進学指導特別推進校の指定について

東京都教育委員会から指定を受けている進学指導特別推進校について、同指定が昨年度末までであったことから今年度からの指定が注目されていたところですが、このことについて、昨年八月の教育委員会で本校は引き続き特別推進校の指定を平成三十五年度まで受けることとなりました。

同委員会では、本校が進学指導重点校に近い実績を上げていると評価され、今後重点校と同程度の実績が認められ

れば追加指定する考えも示されました。本校はこの度の再指定の過程で明確になったセンター試験5教科7科目受験者の確保を課題の一つとして、これまでに以上に進学に向けた指導の充実に取り組んでまいります。

二、浸透する創立百周年への認識

昨年度同窓会の皆様には、進路部通信への寄稿とまとめ冊子の作成・配布、キャリアアガイダンスや特別講演の講師推薦、臨海教室へのOB・OGの協力、多様な取材への協力など例年にも増して多方面にご支援をいただきました。

創立百周年記念事業が進んだこの一年を振り返れば、同窓生と現役生徒が触れ合う機会を増やすことができた一年であったと思っております。業間体操DVDへ生徒が出演、船倉等の改修が進む館山寮で臨海教室等を実施、また百周年ロゴマーク公募へ生徒が応募したり、朝陽奨学金も一層充実して支援を受ける生徒も増えました。この他にも昨年度2回目となったホームカミ

ングデーでは部活動が演奏や演技を披露して参加させていただいております。これら同窓会会員の皆様との活動やご支援を通して、現役生徒の百周年への認識も徐々に浸透してきているものと思えます。

現役生徒への愛情あふれるご支援に心から感謝申し上げますとともに、百周年に向け新宿高校がさらに発展するよう学校と同窓会の連携を一層深めてまいります。今年度もどうぞよろしくお願いいたします。

母校便り

副校長 中川 徹



同窓会の皆様には、日頃から多方面にわたりご支援いただきありがとうございます。

館山寮の環境整備、朝陽奨学金の充実により、新宿生は快適にそして充実した高校生活を送ることができました。

さて、平成二十九年年度で報告したいことは大きく二点、一つが戸山戦三年ぶりの総合優勝、そしてもう一つが

理数研究で取り上げている内藤とうがらしのことです。

ここ二年ほどの戸山戦は熱戦に次ぐ熱戦の末、惜しくも僅差(七勝八敗)で総合優勝を逃してきました。生徒たちも今年こそはと臨んだ今回は、シーソーゲームあり、pk戦あり、最後の一人まで結果がもつれる戦いあり、そして圧勝ありと、なんと、11勝4敗という大差で勝利しました。PTA会報では、一面を多く飾る、「祝！新宿！」3年ぶり、「ついに壁をぶち破った！」と喜びを爆発させる言葉が並び、保護者も大いに盛り上がりました。

各部活動、限られた時間を有効に活用し、そして限られた部活動予算をやりくりし、日々活動しています。そんな中、多くの部活動でOB会から支援をいただいている話を聞き、本当にありがたいがたく思っております。今後も引き続きご支援を賜りたく、よろしくお願ひいたします。

二点目の「内藤とうがらし」研究は、東京都から理数研究校の指定を受け、新宿高校の所在する内藤町でかつて栽培されていたとうがらしを栽培し、その成分を分析研究、とうがらしを用いた料理の研究を行うものです。生徒た

ちは暑い夏場にも水やりを怠らず、色も鮮やかな「内藤とうがらし」を栽培していました。今年はこの「内藤とうがらし」がブームとなって、テレビ取材を受けることや、雑誌で紹介されるなど話題になりました。平成三十年度は、同窓会とコラボし、新宿高校の特産品とし、栽培をしていこうと考えていますので、ぜひ応援をよろしくお願ひいたします。

新宿高校は近年進学実績も伸びてきていますが、学業だけでなく部活動も活発に、まさに「文武両道」を実践しています。今後は内藤とうがらし研究のように、学ぶだけでなく、自ら考え研究し行動していく取り組みにも力を入れていきたいと考えています。

新宿生は、日々進化し成長し続けていきます。同窓会の皆様にはぜひ温かい目で応援をよろしくお願ひいたします。



平成29年度主な行事

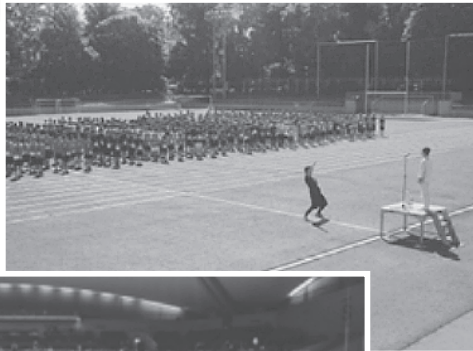
始業式	4月6日
入学式(72回生) 日取り	4月7日 男子155名 女子165名
セミナー合宿(1年次生)	4月10日~11日 箱根
運動会(駒沢公園)	5月11日
戸山戦	6月1日
臨海教室	7月24日~8月8日
宿泊防災訓練	7月25日、26日
朝陽祭	9月2日、3日
勉強合宿	9月30日~10月2日
修学旅行 日取りと場所	10月24日~27日 広島 神戸
合唱コンクール	12月21日
マラソン大会	2月1日
卒業式	3月15日 男子124名 女子192名
修了式	3月23日



4月 入学式



5月 運動会



平成29年度
母校行事アルバム

7、8月 臨海教室



6月 戸山戦



9月 朝陽祭



12月 合唱コンクール



10月 修学旅行



3月 卒業式

平成30年度 異動一覧 (非常勤および経営企画室を除く)

教職員

平成30年4月1日

氏名	転出先等	転入者氏名	転入前所属	教科等
中川 徹	府中 (全)	古溝 紀也	八王子桑志 (全)	副校長
村田 勇司	墨田川 (全)	池田 篤	日比谷(全)	国語
芝池 日女子	退職	宮本 雄亮	桜修館中等教育	国語
芝崎 正昭	退職			国語
松永 学	戸山 (全)	中根 聖司	光丘 (全)	数学
鯨島 央	武蔵丘 (全)	升田 佳佑	九段中等教育	数学
小竹 泰雄	退職	野島 潔貴	新規採用	理科 (化学)
奥山 峰志	江東商業(全)	新戸 政輝	小笠原(全)	保健体育
鎌谷 茂樹	町田総合 (全)	鈴木 久実	戸山 (全)	外国語 (英語)
菊地 愛	退職	春山 珠衣	新規採用	外国語 (英語)
割栢 健太	秋留台 (全)	吉川 彰規	八王子拓真 (定)	外国語 (英語)
稲本 茂	退職	近藤 剛	狛江 (全)	相談

2009年及び過去3年間の大学別合格者数 (現役+既卒)

国公立大	2009	2016	2017	2018
	61	68	69	70
北海道大	3	2	5	3
帯広畜産大	1	1		
秋田大				
岩手大			1	
東北大		3	2	2
山形大		1	1	2
群馬大		1		
茨城大	1	1	1	
筑波大		8	7	5
埼玉大		4	3	2
千葉大		14	14	9
お茶の水女子大	1	1	3	
電気通信大	2	4	4	1
東京大		4	2	2
東京医科歯科大		1	2	2
東京外国語大	3	2	8	2
東京海洋大	2	2	3	3
東京学芸大	3	8	7	8
東京芸術大		1	1	1
東京工業大		4	6	8
東京農工大	5	8	8	6
一橋大	2	2	9	6
横浜国立大	1	12	2	6
信州大		1	2	3
静岡大			1	1
金沢大				
名古屋大	1	1	2	
京都大		1	1	1
大阪大	1	2	2	
神戸大		2		
九州大		1	1	1
首都大東京	7	17	11	15
横浜国立大	1	2	2	2
他の国公立大学等	11	9	7	8
国公立大学等計	45	120	118	99
現役大学進学率	64.5%	78.0%	70.8%	72.5%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.97	2.09	1.92	1.86

私立大	2009	2016	2017	2018
	61	68	69	70
青山学院大	23	39	33	17
学習院大	10	21	12	13
北里大	5	10	8	9
慶應義塾大	15	29	30	28
工学院大	2	6	5	0
國學院大	10	8	4	7
国際基督教大		2	2	0
駒澤大	15	5	11	7
芝浦工業大	22	36	39	25
上智大	6	19	22	17
成蹊大	13	14	11	11
成城大	8	12	6	6
専修大	18	4	13	5
中央大	25	39	55	52
津田塾大	2	8	8	11
東海大	8	1	2	7
東京女子大	6	39	23	10
東京電機大	8	6	8	3
東京農業大	19	23	30	24
東京薬科大	2	8	3	5
東京理科大	26	50	60	45
同志社大	2	1		0
東洋大	23	28	34	22
獨協大	1	3	2	2
日本大	58	46	39	40
日本女子大	12	17	19	15
法政大	55	75	61	66
武蔵大	12	2	6	7
東京都市(武蔵工)大	11	8	3	3
明治大	56	132	122	104
明治学院大	16	15	21	11
立教大	31	71	70	70
早稲田大	49	98	69	63
以上の私立小計	569	875	831	707
他の私大短大	144	92	88	117
私大・短大計	713	967	919	824
大学・短大総計	772	1087	1037	923
卒業生の数	318	318	318	316
現役大学進学率	64.5%	78.0%	70.8%	72.5%
クラス数	8	8	8	8
入学時の倍率	1.97	2.09	1.92	1.86

部活動紹介

硬式テニス部

辻井 伸江

この三月卒業する三年生も含めると総勢76人という大所帯の部活動です。2面のコートソフトテニス部と分け合いながら練習に励んでいます。昨年あたりから公式戦の予選4回戦以上への進出、本戦への出場など、個人戦の戦績が上がりつつあります。今年度の戸山戦では、男女共に勝利を収めました。

一昨年春、22回生の角田智氏他数名のOBの方から、テニス部OB会の発足のお話を伺い、その発足にあたって現役生徒への支援の申し出をいただきました。テニスボールの提供や夏合宿の際のコーチ（卒業生）への宿泊援助など、多大なご支援を戴いております。また先日、OB会幹事の増田厚氏（25回生）・佐藤友則氏（22回生）・吉安俊介氏（23回生）から、来年度の支援についてのお話を戴いたおりに、昨年の総会に69回生の男女両キャプテンの二人が参加させていただいたことを伺い、OB会の方々との交流が始まってきていることを知り、顧問一同嬉しく思っ

ております。現役生徒の活躍はもちろん、OB会の活動が益々盛んになっていくことを心から願っております。



部活動紹介

華道部講師 岡理松先生

— 天地人の心で六十年 —

華道部創部から現在まで、六十年間ご指導下さっている華道部講師の岡理松先生をご紹介します。

* 朝陽祭の折、華道部展示室で生徒の作品を鑑賞している女性が岡先生に尋ねたお話です。

「このお教室に入ったら心が癒され、ほっとします。何故でしょうか。」

「それは、生徒一人一人が躍動する心で花材と向き合い、伸び伸びと生けているからでしょう。」

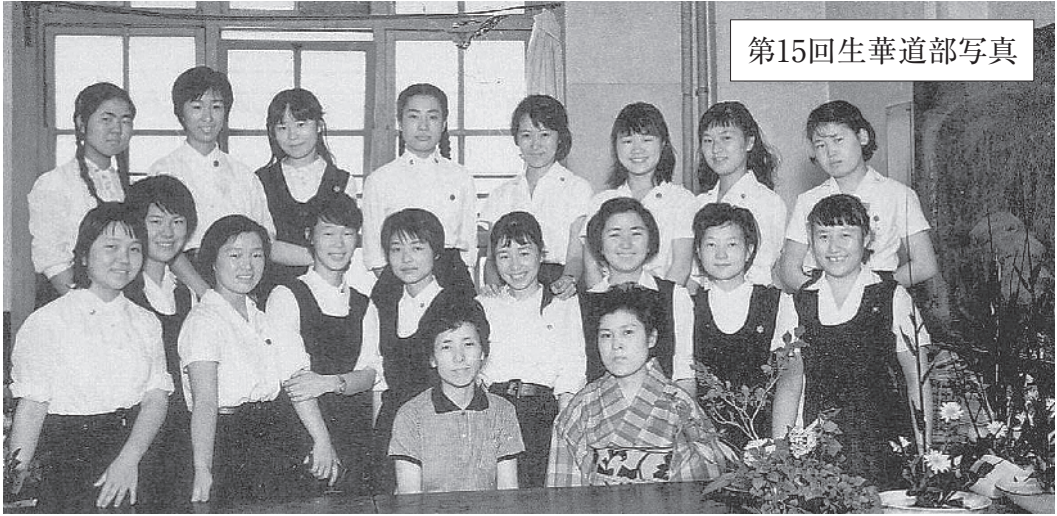
岡先生は即答され、更に古来の伝統様式について、一人一人の生徒作品を例に説明されました。

「宇宙の三原理、天地人三才を様式化して花を生けています。万物の調和を表現しているのです。」と。

* 岡先生が喜ばれた、朝陽に掲載された初代部員の卒業生の方の文章です。「華道部では、真剣に勉強する中でひととき、週一回の華道を楽しむ時間は最高で、華道の基本の基を身に付けてられて嬉しい。」

* 年月を重ね、生徒とのふれあいに

第15回生華道部写真



思いを寄せる岡先生のお話です。

『講師を受けた当初は、生徒との関係が「姉妹のように」「子どものように」今では「孫のように」愛おしく思え、彩り豊かな音色の如く華道を共に学ぶ場が蘇ります。振り返ると感慨深く日本古来の伝統文化「華道」を、新宿高校の生徒さんと学べることは何にもまして幸せなことに感謝しております。』と。

*岡先生の慈愛に満ちたお人柄に加え、雅やかなお姿を拝見していると、武者小路実篤のことは「天に星、地に花、人に愛」が思い浮かんできます。

「天（宇宙）の中で一番美しいのは花、この大地の中で一番美しいのは花、そして人の中で一番美しいのは愛の心」

まさに岡先生のお心です。生徒と共に華道を教えて頂く時間は副顧問の私にとっても心豊かです。

岡先生とのふれあいのひとときは、何にもまして心麗しく、人生百年時代とも言われている中で、「人としてどう生きるか」を学ばせて頂くかけがえない時間なのです。

華道部副顧問 菊地 愛

離任恩師ご挨拶

楽しい日々をありがとう！

松永 学（数学・在職九年）

新宿高校に赴任して九年間、本当に充実して楽しい日々を過ごすことができました。

僕が赴任したのは二〇〇九年、本校が進学重視型単位制高校になってから六年目で、このとき三年次だった六二回生からは何十年ぶりの東大合格者が出ました。国公立大合格者が五〇人を超え、現役進学率は七四％を超えた年です。

単位制になる前に卒業した五五回生のときは国公立大合格者が十六人、現役進学率が四十二％弱だったので、それから、マスコミが「名門高校奇跡の復活」などと騒いだのも無理はありません。

赴任の翌年に六五回生の担任となりましたが、仕事量が多くて夜遅くなったり時など、ネットで「都立新宿高校」をググるといくらでも出てくる「塾がおすすめる高校No.1」「新宿高校の快進撃が止まらない」といったページ

を読んで気合を入れ直したものです。

現在では国公立大合格者が毎年百人を超え、進学実績がさらに向上していることはご存知の通りですが、数字だけではありません。

「三年制予備校」と化すことなくそれを実現して来たのが新宿高校の凄いとどこだと思えます。

新宿生は、毎日の学習はもちろん、部活や行事にも全力で取り組むことを要求されます。

生徒諸君はその期待に応えて各部活で素晴らしい成績を上げているのみならず、行事等での生徒の笑顔は、皆がその取り組みを心から楽しんでくれていることを物語っています。

こうした日々の活動を通して絆を深めた「チーム新宿」で「補欠なき団体戦」を戦い抜いた結果が数字となり、卒業式の答辞で出た名言「受験は学校行事であった」に結実したのです。

素晴らしくエネルギーシユな生徒諸君とともに全力疾走で駆け抜けた九年間でした。

年老いた身には体力的に厳しい面もありましたが、担任として付き合った六十五、七十回生の諸君はもちろん、新宿生みんなからパワーを分けても

らって、最後まで務めることができませんでした。

教員としての現役キャリアの最後に新宿高校で過ごすことができたのは望外の幸せであり、生涯の誇りです。

みんな、本当にありがとう！



お世話になりました

小竹 泰雄（化学科・在職六年）

都立高校の教師になって三十九年の歳月が流れましたが、新宿高校は、私にとって五校目の学校でした。最後の二年間は定年退職後の「フルタイム再任用」という立場でしたが、担任として六十九回生を送り出すこともできて、幸せでした。

近年、東京における大学進学実績上位校として名を連ねてきたのは、都立よりも、主として私立や国立の高校であることは周知の事実です。しかし、都立高校も、そのような使命の一端を担うべきという思いを持つ者として、目の前にいる生徒たちの進路希望実現

を助ける仕事にエネルギーを注がせていただいたつもりです。新宿高校の生徒たちは、素直な心の持ち主が多く、目を輝かせながら授業を聞いてくれるので、こちらとしても非常にやりがいを感じました。そして、「文武両道」の理想を具現するべく、多方面に全力を尽くして青春している生徒たちの、まさしく生き生きとした表情を見て、ひそかに「これも捨てがたいな！」と思った私でした。

この度、私は三十九年間勤めた都立高校の職を辞し、四月からは、某私立高校の非常勤講師として再出発することになりました。新宿高校を去るのはとても寂しいですが、六十二歳の私にとっては、今までとはちよつと違う世界で、教員人生最後のチャレンジということになりました。六年間、本当にお世話になりました。新宿高校の発展をお祈りしています。



追悼文
・ 訃報

和田 彰男 先生（享年八四歳）

平成三十年二月三日ご逝去

教科・数学

在籍・昭和五三年四月

〜平成六年三月

（十六年間）



和田先生を偲ぶ

鎌田 邦広（三十五回）

二月四日早朝、ご子息の牧人様からのお電話。年末にご連絡をいただいた時から覚悟はしていたものの、あまりにも早い旅立ちに涙、涙。

小学生の頃からお世話になった我が息子を伴い先生に会いに行く。安らかなお顔を見てまた涙。告別式にて秋山先生と思ひ出話をしながらまた涙。その場でご依頼いただいたこの文を書きながらも涙。和田先生、本当にお世話になりました。

奥様、明子様（英語科教諭）によれば、先生は働く女性への理解が少ない昭和三十年代、協力して子育てにあたってくれたまさに初代イクメン、た

だ、お子様には厳しい父親だったとのこと。

牧人様からは、何でも一緒にやってくれた「優しい父」とのお話。職場での姿を見ることはなかったが、国立高校在学中に所属されていた卓球部の試合会場で、居合わせた新宿高校卓球部員から沢山の応援を得て発奮したこと。その応援の後ろに生徒たちから慕われる父の姿を垣間見た気がし、更に奮起したことを伺った。

私個人としては、先生が四十二回生一年E組担任時、教育実習の指導教官をしていただいた。温かみのあるE組は、先生の人となりそのもの。「一人からの質問も全体で共有」「テストは必ず次の時間に返却」「解答ではなく発想に至る思考の流れを重視」などの先生の言葉と共に、当時の生徒諸君との思い出は、今の私を支えてくれている。

ご著書には『職員室の話題に見る高校中退の教育的検討』などがあり、教育と法との結びつきを研究されていた。余りに増えたご蔵書の中から文学

書は新宿高校にご寄贈いただき、教育関連の蔵書は立派な本棚と共に我が家に頂戴した。圧倒的な質と量が、生徒を大切に思う気持ちだけでなく、そこに法的根拠を結び付けて生徒を支え、自分も共に成長するという信念の強さを表していた。生徒を上から見るのではなく、隣に並び同じ目線で、一人の同じ人として接するお姿は、お人柄に留まらず、幅広い研究に裏付けられたものであった。

語り尽くすことのできないご温情を頂戴したが、余白も少なくなってきた。告別式終了後、先生は東京医科歯科大学に旅立たれた。医学の将来に貢献されるために。本当に先生らしい旅立ちである。「最後」ではなく未来にまで想いを繋げようとするお姿を決して忘れることなく、引き継いだ大切なバトンを繋げていく勇気を頂戴した。本当にありがとうございます。これからも新宿高校を見守ってください。

（青山高校数学科教諭）

合掌



新宿高校旧教職員懇親会便り

二〇一八年新宿高校

旧教職員懇親会

今だから話せる 今思い出す

三月十一日、西新宿「ローズガーデン」に、二十回生から六十回生の頃に在職していた教職員三十名が集まって懇親会を開きました。

こうした会としては四回目。久しぶりに再会した方もいて、生徒の同期会と同様に「あの人は誰？」というささやきも聞かれましたが、時間が経つにつれて、あの頃に戻り、今だから話せる失敗談、今思い出すという秘話が次々と。

年代を問わず、赴任した直後の人間関係の複雑さ難しさは、その当時ではなかなか表には出しにくかったが、今なら笑って話せることも多いもので、「なるほど、そうだったのか」と楽しく思い出す出来事も少なからず。

厳しい指導も頂きましたが失敗があれば教職員が総がかりで援助をし、「責任は上が取る」、「付度」するのは

生徒に対してのみという気風に満ちていたあの頃を懐かしみながら、各分野でお互いに元気に活動している近況を語り合いました。

今年の会のサプライズ。会場に四十回卒業生が勤務していて、出席者にはその担任団が三名。世間は狭い、新宿は狭い。新宿高校の縁は深い。粋なお花をいただきました。

今回、演奏会・海外旅行・ボランティア活動などご多忙で参加できなかった方、また、体調がすぐれず参加いただけなかった方もおられ残念でした。

来年三月、元気でお会いできることを楽しみにしています。

(七十三年～八十九年在職)

社会科 菅 豊



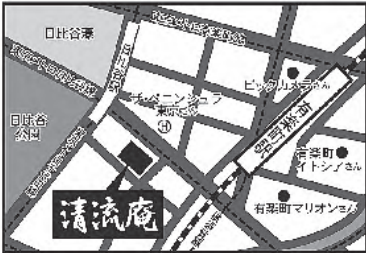
自然薯料理
さんやく
山薬

清流庵

万能の山の薬。滋養あふれる
自然薯を様々な料理でどうぞ

ランチも
ございます

山手の中で唯一の日本産産種である希少な自然薯。滋養強壮・美肌効果などに役立つ「山の薬」と呼ばれる自然薯の専門店です。



【銀座 山薬清流庵】

東京都千代田区有楽町1-5-2
(東宝ツインタワービル9F)
03-5510-2666

お座敷個室・BOX個室など
多数ご用意いたしております



【自然薯表とろと田舎蕎麦 山薬清流庵 新橋汐留店】
03-5537-5308 東京都港区東新橋1-5-2 汐留シティセンターB

【自然薯表とろ御膳 山薬清流庵 イオンモール幕張新都心店】
043-213-5300 千葉県千葉市美浜区豊砂1-1
イオンモール幕張新都心ランドモール2F

【自然薯表とろおぼんざい 山薬清流庵 新百合ヶ丘エルミロード店】
044-955-3163 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-4-1
新百合ヶ丘エルミロード5F

2018.3.20 閉店予定

【自然薯表とろおぼんざい 山薬清流庵 ココリア多摩センター店】
東京都多摩市落合1-46-1 ココリア多摩センター6F

新宿 丸港水産

北海道各地の新鮮魚貝
産地直送厳選素材を集めました

北海道直送の天然帆立の浜焼きや、根室産花咲ガニ・厚岸産の生牡蠣など厳選素材を、漁師街の海の家の様な活気あふれる店内で思う存分ご堪能下さい



東京都新宿区新宿3-12-12 吉田ビル1・2F
03-5367-2377

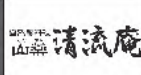
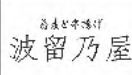
からあげ
鳥 とり多津

外はカリッと中身はジューシー。
秘伝だれに8時間以上漬け込んだ
専門店ならではの味わい

4年連続

金賞受賞

からあげグランプリ
東日本しょうゆだれ部門



東京都大田区東蒲田2-30-17(サンユー東蒲田ビル2階)
株式会社エフアンドビー・プロジェクト
代表取締役社長 織岡 陽一郎(24回卒)

創立百周年記念事業特集 集い を機に交流の輪を広げよう！

懐かしさ満載のホームカミングデーに参加
岩尾史生（九〇〜〇一公民科）

教員生活二十一年目を新宿高校で迎えたのは、ベルリンの壁が打ち砕かれた半年後のことでした。骨を埋めるつもりで赴任した新宿高校ですが、単位制への移行もあり、担任をしていた五十三回生を送り出して転勤（在職十一年）、それから早や十六年も過ぎたことに驚いています。

久々の新宿高校にホームカミング、といっても新校舎には初見参、懐かしいという思いが湧かない残念さの一方、校内ツアーに期待を抱いての参加でした。

あれえ、ツアー参加者は知らない顔ばかりと思つた直後、エレベーターに飛び込んできた男を見て、「アツ長井！」四十七回生で一年次に担任をした野球部員の長井正徳君でした。数年前から固有名詞、最近は普通名詞が出てこなくなり、アレヤソレを連発しているせいか、二十数年ぶりの再会で即座に名前が浮かんだことに歓喜を覚えた次第です。彼は一橋高校体育科教員で、四年後は母校に着任出来る可能性もあり、そうなれば今の監督（五十二回生の田

久保君）に替わって野球部の指導にあたれると、その喜びを隠しませんでした。

校内を回って最も印象深かったのは図書館でした。開架式で閲覧しやすく天井近くの高い棚の書籍も手にしやすいよう工夫が凝らされています。蔵書もおそらく都立高有数の充実ぶり、内外の古典から最先端の科学まで各分野の代表的な全集や講座が揃っているように感じました。また、日刊紙は朝日・毎日・読売・日経の四紙、月刊誌も文学・歴史・自然だけでなく映画・スポーツ・ファッション・料理・健康など多方面に及び、驚かされました。年々公費が削減されているなか、これらの購読料は同窓会の援助に支えられているのかもしれない。あらためて感謝です。

歓迎イベントは、管弦楽部とチアリーダーイング部によるアトラクションでした。

男女同数になった四十七回生以降、管弦楽部の男女比は一对三ぐらいになったと思うのですが、この日男子は僅か二名、全盛期に比べ部員も半減しているけれどレベルは高く、久々に生の演奏を味わいました。

チアリーダーイング部を見るのは初めてでしたが、見事の一言です。五十三回生では

男子の体操部・女子の応援部を朝陽祭や戸山戦で見た記憶はあるのですが、チアリーダーイングは創部から何年目なのでしょう？ 司会者の紹介によれば「都予選はほぼ毎年突破、関東レベルでも常に上位入賞」とか、その実績に恥じない演技だったと思います。パワフルな踊りの中でも笑顔をやさず、満場の拍手子にのってリズムカルな演技、最後は「やぐら」と言うのでしょうか、組体操もピツタリ息があってチームワークの良さを感じました。

恩師による懐かしの授業は数学と生物。

秋山小南先生は「数学が苦手で嫌いな生徒でも楽しい」という評判どおりの分かりやすい授業、ユーモア豊かな展開でした。その影響もあつたのか橋本健一先生も、高度な内容ながらシヤレやギャグを連発、締めな挨拶の時も含め会場のアチコチから「ワァー懐かしい」という声が漏れ聞こえました。また蝶々の舞う姿など、ボディー

アクションも青年教師時代を髣髴させる若々しさ：お二方の名授業を隣で一緒に受けたのは山岳部のOBで、五十一回生の内田ヘルムート貴大君と五十三回生の三ツ木秀聖君、思いがけない嬉しい再会でした。

つづいて業間体操、鈴木裕太先生は告白めいた想い出話（二十五回生当時のやんちゃくれ）も織り交ぜながらDVDを披露、

模範演技の映像を楽しみながら懐古にひたることが出来ました。

そして、校歌く健児の歌を全員で合唱、中締めは同窓会の小野副会長による「フレー フレー」のエアール交換。楽しさ懐かしさテンコ盛りのホームカミングデーでした。

「集いの場」から卒後のつながり新たに

佐元光子（六五〜八五 図書館）

昨秋十一月十八日（土）、第二回のホームカミングデーに出席した。前年の初回に参加した際、「校内見学」は終えていたので、その時間を勘案してゆっくりめに到着した。だが、顔出しするや、受付の女性陣から、「先生、先生と、たくさんの方がお待ちかねですよ」と歓声を浴びた。瞬間、電撃的に、しまった、遅れてはいけなかったのだと後悔し、貴重な自由歓談の時間を無にしたことに気づいて猛省したのだった。と同時に、同窓会主催者の今年の企画、すなわち「私の先生にお会いしたい」の主目標は、見事に成功したなと確認もしたのだった。

そこで、私が巡り合った当日の実例を、断片的だがいくつか披露して、主催者への賛辞の呈上に供したいと思う。

三階の視聴覚室で行われたアトラクションの途中、次のプログラムの準備のために

長めの休憩時間がとられたとき、用事があってこれから帰るといふ三人が駆け寄って来られた。

そのうちの一人、藤野裕司さん（三十九回）は、「案内」の中に私の名前を見つけて参加したのだという。そして後日、同期の主に図書委員たちと連絡が取られ、集まりが四月末に設定された。ちなみに三十九回生は、私の移動転出のため、一年生のときだけ一緒だった学年である。卒業以来すでに何回かの集まりをもっているが、毎回十人前後の出席者の中に、私と学校司書の更谷正子さんとの二人は、必ず同席をしている集いである。快なり、しばらくぶりにまた会える。

もう一人は、及能雅子さん（三十回）で、『アンネの日記』の読書感想文が東京都コンクールの上位入賞となり、全国コンクールに送付されて入選作品となったその筆者である。本人が実際にアウシユビッツに立った事例がユニークな作品だが、校内では、コンクール応募作品として、ある箇所の文章の書き直しを何度も繰り返した。その際逆向きの文章になったりするので、「ドイッに住んでいたから、日本語にハンディーがあるのか」と、しつた（叱咤）激励したのを思い出す。先日届いた便りには、「相変わらず文章は下手ですが、手紙やメー

ルを書くのは、おかげさまで好きです」とあり、うれしかった。

残るもう一人は、更田香葉子さん（三十回）で、わざわざ「図書委員ではなかったけど」と言いつつ、懐旧の情を伝えるべく、はせつけられたものである。

当日はそのあと、私も次の所用のために、後ろ髪を引かれる思いながらも、やむなく「合唱」の前の合間で中座をした。したがって、直接お話し合いのできない相手をつくってしまった。出席者に提示されていた約束事の期待を裏切り、主催者側の企画をも壊すようなことになってしまい、関係の方々におわびを申し上げたい。

その被害該当者の一人と分かったのが、後日お便りをいただいた中村嘉智さん（三十回）である。私の中座は見えていたが、階段教室の中のほうに座っていて、動きがとれなかったそうだ。大部な書面によって、私とつながる在学中からの真摯（しんし）な生き方を知らされ、今、驚嘆とそして感謝と感動を禁じ得ない思っているところである。

近年、卒業生の皆さんと接する機会が増えた。喜ばしいかぎりである。

ホームカミングデー プログラム 2017.11.18 (土)

時刻	時間	教科	時間(分)	内容	講師	場所
1300	0	社会	6 0	校内見学		自習室 (1F)
1410	1	HR	3	開会挨拶	田中俊郎会長 (17回)	視聴覚室 (3F)
	4		学校挨拶	加藤隆校長		
	1 0		恩師紹介			
	5		優良募金表彰 (Best 5)	授与 河合明博さん (5回)		
	3		DMマーク最優秀作品表彰	授与 田中俊郎会長 (17回)		
1435	2	音楽	1 5	現役生・管弦楽演奏	管弦楽部	視聴覚室 (3F)
1450	3	体育	1 5	現役生・チアリーディング	チアリーディング部	
1505	4	数学	2 0	懐かしの名授業 数学	秋山小南先生 (15回)	
1525	5	生物	2 0	懐かしの名授業 生物	橋本健一先生 (19回)	
1545	6	体育	1 0	業間体操	鈴木裕太先生 (25回)	
1555	7	音楽	2 0	合唱	朝陽合唱団 / 全員	
1615	8	HR	-	中締め	西出事務局長	

展示品 (自習室1階) : サッカー部/陸上部/放送部 部活歴史紹介、校史資料、記念誌 等

ホームカミングデーでお待ちしています！
創立百周年記念事業事務局
大池克幸 (二十四回)

昨年十一月、一六三名にご参加いただき「第二回ホームカミングデー」を盛大に開催することが出来ました。プログラム内容の充実を図り、二十二名の恩師の方々前に、現役の管弦楽部やチアリーディング部の披露、懐かしい「数学と生物の名授業」

を再現。「アツ」と驚いたり、「こうだったな」と振り返ったり、それぞれの思いの中でひと時を過ごしていただきました。今年十一月二十四日(土)に行う予定です。是非、同期の方々やクラブの先輩後輩とともにご参加ください。会場でお待ちしています。

心をひとつに！ ロゴマークが決定
創立百周年記念事業事務局 大池克幸(二十四回)

創立百周年記念事業の準備を始めて四年が過ぎ、記念募金事業の開始、朝陽合唱団の創設やホームカミングデーの開催、更に業間体操のDVD制作など幾つかの事業を具体化することができました。しかし、こうしたことを約三万人いる卒業生にどれだけ知られているのか、関心を持っていただけなのか気がかりでした。本事業をもっと盛上げ、より多くの卒業生とともに祝い、成功させるためには更に周知が必要と考え、公募でシンボルとしての「ロゴマーク」を決めることにしました。

応募は、卒業生はもとより、現役生にもお願いしました。各担任の先生に応募の説明や応募要領書の掲示をしていただきました。選考方法は各学年の代表幹事による多数決とし、採用作品は十一月のホームカミングデーで表彰することにしました。

応募作品は、総数九組十名二十点で、中には卒業生と現役生の親子による合作もあり、全体にバラエティに富んだ作品が集まりました。そして、採用となった作品は、緑を基調に新宿高校と百周年の文字をアレンジした百周年事業を広めるに相応しい秀作でした。

今後は、ポスターや各種案内などに広く活用していきます。また、皆様方の同期会の案内書面などにも是非ご活用ください。創立百周年を印象づけるとてもよいアクセントになります。ロゴマークは朝陽同窓会ホームページからダウンロード出来ます。

●受賞者の草川衛さん(十八回)の声
『私の案を選んでいただき光栄です。宿の文字の中に百が含まれていることに気が付かれた人も多いようで、応募案の中にも同様の発想のものがありません。ロゴは青緑基調になっていますが、他に赤基調のものもあってこちらの方がお祝いには相応しいかもしれません』



集おう！ 創立百周年記念音楽会へ
管弦楽部第十二回卒業生
記念音楽会準備委員会委員

杉浦 純（二十五回）

既にこの会報でも情報が満載されているとおり、我々の母校である府立六中（都立新宿高校は二〇二二年（その時はきつと新しい素敵な元号になってますね）に創立百周年を迎えます。そこで同窓会事務局の皆さんの方からご発案があり、記念行事の一つとして「百周年記念音楽会」（仮称）を企画することになりました。既に昨年、準備委員会を立ち上げ関係者が集まり何回かの話し合いの機会を持ちました。ご存知のとおり、音楽といっても楽器演奏や合唱など幾つかの分野に分かれますが、今回の準備委員会は、これまで現役当時のクラブ活動や卒業後の懇親活動を通じ音楽に親しんできた幾つかのグループ、即ち六声会、朝陽合唱団、音楽部、管弦楽部（いずれもOB、OGの方々）から代表の皆さんに参加いただき、それに朝陽同窓会事務局の皆さんを加えたメンバーにより構成されています。

昨年十一月に行われた準備委員会には、管弦楽部の創立メンバーであり現在も作曲を中心に広く音楽活動を行っておられる池

辺晋一郎さんにも参加していただき貴重なアドバイスをいただきました。準備といってもまだ初期の段階で、「ともかく百周年音楽会を出来るだけ多くの音楽関係者の参加のもとに、二〇二二年にやろう」ということが決まっただけでしたが、今年に入り具体的な準備作業が始まりました。

そこでこれをお読みの同窓生の皆さんにお願いです。今回は記念すべき百周年行事であり、一部の音楽グループによる限られたメンバーの集まりではなく、出来るだけ多くの同窓生の皆さんに「プレーヤー」として参加していただきたいと考えています。勿論音楽の形態は多様なので、必ずしも同じ会場で同時に演奏を行うことには無理があるかもしれませんが、その辺りを是非工夫してより多くのミュージシャンにご参加いただけるようにしたいと考えています。つきましては参加のご意思のあるグループは今年九月頃を目途に是非朝陽同窓会事務局までご一報ください。お待ちしております。

同窓会活動の見える化「活動マップの作成」
朝陽同窓会幹事長 吉村 悟（七回）

数え方にも依りますが、朝陽同窓会は現在百近くの活動を行っております。然し具体的にはどのような活動をしているか、一般の同窓会員には、殆ど知られていないこと

に気が付きました。

そこで朝陽同窓会の活動を目に見える形で書き表し、会員の方の理解を深めるとともに、積極的に参加して頂こうと思ひ、この活動マップの作成を開始しました。

分かりやすさを目指すため、活動マップは次の項目に分類してあります。

◆経緯

何日何故この活動を始めたのか

◆目的

この活動が目指す目的は

◆実績

この活動の今日までの実績を写真や表などを交えて紹介

◆事務局の役割

同窓会事務局の役割

◆今後

これからの活動方針や計画

この活動マップは百周年記念誌の基礎資料となりますので、内容の正確さには十分注意を払います。また完成には一年以上掛るものと思われませんが、逐次ホームページ上で発表して皆様に公開して行くつもりです。

この活動マップをご覧になり、一緒にやってみたい活動があれば、ぜひご参加ください。

<p>坪井・岡部法律事務所</p> <p>弁護士 坪井 昌造 (26回)</p> <p>〒107-0062 港区南青山1-10-4 南青山NKビル 4階 TEL : 03-5771-8041, FAX : 03-5771-8042 e-mail:tsuboi-lawoffice@muh.biglobe.ne.jp</p>	<p>やまぶき法律事務所</p> <p>弁護士 佐藤 貴則 (27回)</p> <p>〒101-0052 千代田区神田小川町2-1 シンコー・ミュージック・プラザ 5階イーストウイング TEL : 03-5577-6901, FAX : 03-5577-6902 e-mail : sato@yamabuki-law.jp</p>
<p>(医) 社団 赤坂まつの矯正歯科</p> <p>院長 松野 功 (27回)</p> <p>〒107-6102 港区赤坂5-2-20 赤坂パークビル 2F TEL : 03-5573-8893, FAX : 03-5573-8892 http://www.ak-matsuno.com/</p>	<p>税理士法人 アドヴァンス会計</p> <p>副代表社員税理士 松野 (平田) 淳子 (27回)</p> <p>〒154-0004 世田谷区太子堂1-12-39-7F TEL : 03-5787-3255, FAX : 03-3413-6255 e-mail: j-matsuno@advance-tax.com</p>
<p>山本会計事務所</p> <p>税理士 山本 展也 (27回)</p> <p>〒150-0042 渋谷区宇田川町2-1 渋谷ホームズ508 TEL : 03-5459-3411, FAX : 03-5459-3413 e-mail: LDZ00547@nifty.com</p>	<p>いわさき眼科 都立新宿高等学校校医 (眼科)</p> <p>医学博士・眼科専門医 岩崎 寿子 (35回)</p> <p>〒160-0022 東京都新宿区新宿3-32-5 日原ビル 3階 TEL : 03-5367-5455 http://www.iwasakieyeclinic.com/</p>
<p>島崎会計事務所</p> <p>公認会計士・税理士 島崎 主税 (28回)</p> <p>〒160-0023 新宿区西新宿7-1-7 A310 TEL : 03-3361-4793 e-mail:cpashima@ace.ocn.ne.jp</p>	<p>登坂法律事務所</p> <p>弁護士 登坂 真人 (29回)</p> <p>〒153-0044 東京都目黒区大橋1丁目2番10号 ライオンズプラザ池尻大橋706号室 TEL : 03-6712-7773, FAX : 03-6712-7774 E-mail: cxn02345@nifty.com</p>
<p>矢島税務会計事務所</p> <p>税理士 矢島 守 (34回)</p> <p>〒190-0002 (平成28年8月10日以降) 東京都立川市幸町1-14-12 SHOEIビル401 TEL : 042-537-9660, FAX : 042-537-9661 e-mail : yajimal15417@jcom.zaq.ne.jp</p>	<p>鈴木綜合法律事務所</p> <p>弁護士 中村 悦朗 (35回)</p> <p>〒160-0022 新宿区新宿3-17-7 紀伊國屋ビル9階 TEL : 03-3352-8539, FAX : 03-3354-3764 e-mail: e-nakal449s.w.k-law@mbr.nifty.com</p>

<p>医療法人社団恵比寿会 淳クリニック ・内科（呼吸器内科・消化器内科・気管食道内科） ・小児科・放射線科</p> <p>理事長 院長 内藤 淳 (28回)</p> <p>〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西1-14-2 ツムラビル2F TEL・FAX：03-5489-0463 http://www.ebisukai.server-shared.com/</p>	<p>ジユク！ファイト！！</p> <p>弁護士 木村 眞一 (16回)</p> <p>〒100-0004 東京都千代田区丸の内3-4-2 新日石ビルディング9階 高橋法律事務所 電話：03-3213-5771, FAX：03-3213-5774 e-mail: s-kimura@abox3.so-net.ne.jp</p>
<p>包装資材販売会社 株式会社 エムエイティ</p> <p>代表取締役 冨田 裕夫 (15回)</p> <p>〒158-0097 東京都世田谷区用賀3-4-7 TEL：03-3707-4768, FAX：03-3707-3589 http://www.m-a-t.co.jp</p>	<p>有限会社 ナカ薬局</p> <p>中 千 鶴 (15回) 中 眞知子 (18回)</p> <p>〒160-0004 東京都新宿区四谷1-9 TEL 03-3351-3011, FAX 03-3359-9991</p>
<p>石東 (いしづか) クリニック 精神科・心療内科 (もの忘れ外来・睡眠外来)</p> <p>院長 石東 嘉和 (24回)</p> <p>〒157-0067 世田谷区喜多見8-18-12 コーポ真木4階 小田急線喜多見駅徒歩30秒 TEL：03-6411-8739 e-mail：ishizukaclinic@yahoo.co.jp http://ishizuka-cli.byoinnavi.jp/</p>	<p>篠原法律会計事務所</p> <p>弁護士 篠原 由宏 (15回)</p> <p>〒105-0001 港区虎ノ門1丁目16番2号岩尾ビル3階 TEL：03-3502-2086, FAX：03-3502-2069</p>
<p>公益財団法人音楽鑑賞振興財団</p> <p>松本記念音楽迎賓館 (二子玉川) 090-8497-5129</p> <p>50名様までの会合 音楽会に！</p> <p>館長 横田 堯 (15回)</p>	
<p>朝陽合唱団団員募集</p> <p>創立百周年記念事業の第一弾として2015年1月より活動を開始しました。約50名の団員が母校の音楽の先生である小峰先生のご指導を受け、原則月2回(第2、第4土曜日)音楽室で練習を重ねています。年齢層も20代から80代までと幅広く、また合唱の経験や音楽経験も様々な方々が参加しています。同窓会総会、ホームカミングデーに加え、昨年からは新宿区合唱連盟に加盟し、新宿合唱祭他外部の演奏会にも参加しています。ご一緒に歌ってみませんか。初心者の方も大歓迎です。朝陽同窓会までご連絡下さい。</p> <p>(チーフマネージャー 24回 稲見一政)</p>	

六声会合唱団 団員募集

♪「一緒に歌いましょう」♪

歌いませんか？ 大きな声で！

歌いませんか？ 素敵なハーモニーを！

歌って心身ともに爽快。一緒に歌って、

男声合唱の魅力を一身に感じませんか。

私達は新宿高校のOBを中心に結成された男声合唱団「六声会合唱団」です。一緒に歌いませんか？ 只今、団員大募集中です。経験は問いません。また高校OGのご主人も大歓迎です。

男声合唱の魅力

- ・ 男声合唱ならではの深みのある、ダイナミックなハーモニー
- ・ 腹式呼吸と発声、リズムと音程と、歌詞、頭と体のリフレッシェ、健康維持に最適です。
- ・ 週に一度顔見知りのメンバーと集まって趣味を共にする。素晴らしくありませんか？ 練習後有志で近くの飲み屋に行き乾いた喉を潤しながら、がやがやと。これも楽しいものです。

六声会合唱団のご紹介

「六声」は御察しの通り新宿高校の前身、都立六中に由来します。やっっているのは男

声四部合唱ですが。数回前の演奏会のプログラムには「大声会」との誤植がありました。しかし、これもあながち間違いとも言えない程声量が豊かで、滑舌も良いので、歌詞がちゃんと聴衆に届くのは大きな特徴でしょう。毎年初夏に収容1800人超の新宿文化センター大ホールで催される新宿合唱祭でも20名弱のメンバーの澁淵とした声が大ホールの隅々まで響き渡ります。

メンバーは設立当初からの方から、昨年参加された60代前半の方まで多彩です。

なお今まで歌ってきた歌のジャンルは、日本の合唱曲、ロシア民謡、カンツォーネ、ポピュラーソングなど多岐に亘ります。

また、練習の成果は新宿合唱祭、合唱団の演奏会などで披露しますが、更に今、母校の創立100周年記念行事として2022年に記念音楽会が企画されており、こちらへの参加も大いに期待されています。

このような時期でもあり、是非皆様の趣味に合唱を加えて頂きますよう宜しくお願いします。

練習場所

サール・ムジカ（新大久保駅 徒歩2分 皆中稲荷神社斜前）

練習日時

毎週月曜日 18時30分～ 20時30分

会費

月5000円（3か月免除）

六声会合唱団のホームページ

<http://www.5d.biglobe.ne.jp/~rokusei/>

過去の演奏会のプログラムや一部音声をご確認頂けます。

ご興味をお持ちの方は、まずはお気軽に左記までご連絡下さい。

小沢明

ozawa@ozawatelier.co.jp

昨年盛会の裡に第30回演奏会を催しました。その節は皆様有難うございました。



六声会合唱団第30回演奏会
2017年4月2日 新宿明治安田生命ホール

心から皆様のご連絡をお待ち致します。

◆————— 総 会 報 告 —————◆

平成29年度朝陽同窓会総会議事は以下の通りでした。

1. 平成28年度活動報告と決算

- 平成29年3月末募金実績 2,919万円 1,398名
- 全国7支部で総会開催(東海支部非開催)、戸山交流戦、東京校歌祭、朝陽クラブなど同窓会活動を展開。
- 100周年記念事業：館山寮厨房及び食堂大改修(衛生管理強化、熱中症予防)
第1回朝陽奨学金支給：学年奨学金9名、就学援助金2名
- 母校キャリア教育支援：進路部通信への寄稿、キャリアガイダンス講師派遣、特別授業へのゲストティーチャー派遣
- 毎日新聞連載企画「母校をたずねるー新宿高校」企画・取材に学校と連携対応

2. 平成29年度活動計画と予算

- 役員人事 副会長：濱名正二さん(24回)退任 渡邊信久さん(34回)新任
- 100周年記念募金第二期4月 目標7,000万円 29年度目標3,500万円
- 100周年記念事業：業間体操DVD化、館山寮第二期改修、記念音楽会企画立案開始、100年史編纂開始、100周年記念ロゴ募集等
- 母校キャリア教育を引き続き支援：進路部通信への寄稿、キャリアガイダンス講師派遣、特別講義
- 全国8支部で総会開催、戸山交流戦、東京校歌祭、朝陽クラブなど同窓会活動を展開。
- 第2回ホームカミングデー開催

上記活動には概算16,991千円の出費を想定。

各議案とも吉村幹事長より報告・提案があり、異議なく承認。

3. 総会記念講演

講演者： 芥川喜好さん(19回、読売新聞編集委員)

講演タイトル：「わが愛憎の画家たち……美術記者の四十年」

詳しくは75ページをご覧ください。

母 校 支 援

平成29年度母校キャリア教育支援

母校は平成27年度からキャリア教育充実のため新たな取り組みを始めました。同窓会では母校の要望に応え、各界で活躍する同窓生の協力を得て、講師の派遣、体験談の寄稿など全面的に協力してきました。

(1) キャリアガイダンスへの講師派遣

キャリアガイダンスとは、1年生が文理選択を行う際の参考として、母校が開催する先輩による体験談講演会です。平成29年度キャリアガイダンスは2月14日(水)の午後、1年次教室等12教室を使って実施され、下記の12名の方々が講師を務められました。

卒業回	氏名	職業・肩書等
19	橋本 健一	元・千葉県立保健医療大学教授
19	根津 昭義	バイオリニスト N 響顧問
20	佐藤 重和	外務省、オーストラリア、タイ大使
24	酒井 邦彦	弁護士・元広島高検検事長
25	篠原 厚子	清泉女子大人文学研究所教授
31	中越 一統	公認会計士
33	国沢 真弓	「発達障がいファミリーサポート Marble」代表理事
34	細矢 剛	国立科学博物館植物研究部
34	本間 謙	JICA 長期派遣専門員（コートジボアール 動物水産資源）
34	濱口 建	博報堂ディレクター兼ドバイ政府観光局日本代表
43	西村 雄一	日本サッカー協会プロフェッショナルレフェリー
48	原田 将史	一級建築士・設計事務所代表・大学非常勤講師

(2) 月刊紙『進路部通信—新宿折をり』“先輩からの言葉”寄稿

母校進路指導室が平成27年度に創刊した月刊紙『進路部通信—新宿折をり』（A4サイズ4ページ）に毎号1ページ、各界第一線で活躍する同窓生が、現役生の進路選択の参考となり、励みとなる原稿を寄稿しています。平成29年度発行の23～33号（8月は休み）で下記の方々が執筆者されました。

発行号	氏名	卒回	職業・肩書等
23 (H29.4)	福田 妙美	38	臨床検査技師・世田谷区議会議員
24 (H29.5)	原田 将史	48	一級建築事務所代表・大学非常勤講師
25 (H29.6)	杉尾 邦江	7	環境コンサルティング会社代表取締役社長
26 (H29.7)	三矢 恵子	26	NHK 放送文化研究所メディア研究部
27 (H29.9)	竹田 幸夫	26	駒澤大学総合教育研究部スポーツ・健康科学部門教授
28 (H29.10)	大原 悦子	29	元朝日新聞記者・津田塾大学ライティングセンター客員教授
29 (H29.11)	酒井 邦彦	24	元広島高検検事長・弁護士
30 (H29.12)	塚越 吾郎	29	シンガポール国籍取得・シンガポール法人経営 成城大学経済学部非常勤講師
31 (H30.1)	寺尾 和子	20	薬剤師・メディカルパースペクティブ(株)代表
32 (H30.2)	橋本 祐造	48	ユニファ(株)人事部
33 (H30.3)	松井 徳子	49	(株)オーディオテクニカ マーケティング本部

(3) 同窓会員による講演会・特別授業

12月8日午後、15回金築誠志さん（元最高裁判事）が1、2年生20名を前に「知的財産権」について特別授業を行いました。

(4) 進学支援

学校からの依頼に基づき、きめ細かい進学支援を行いました。

- 進学希望者に見学案内と進学ガイダンス
電気通信大学（15回本多武教授）、埼玉医科大学（32回辻美隆教授）
- 声優学校志望者に見学案内とガイダンス

甲斐田ゆきさんガイダンス(声優47回)、瀬澤巖さん声優学校紹介・案内(東北新社15回)、梅澤博さん(23回 声優関係者紹介)

(5) その他の母校支援

この他にも、①各部活 OBOG 会による現役支援、②奨学金支給(別項)、③定期健康診断への医師応援、④財団法人朝陽会による臨海教室支援ほか、様々な場面で母校への熱い思いを持った様々な組織、同窓会員が母校支援を繰り広げています。

朝陽同窓会会員諸氏の寄贈著書紹介

平成29年度にも多くの卒業生から以下の著書の寄贈をいただきました。

著者名	卒回	書名	発行社	本体価格
吉松 富彌	中19	昭和のあしあと		非売品
佐藤 喜一(遺稿)	1	歌ひながら汽車旅		非売品
福田陽一郎	3	渥美清の肘突き	岩波書店	¥2,400
間野 暢興	10	アルプスの麓の国々を巡る 手造りの旅の味	ブイツーソリューション	¥1,600
遠藤 誉	13	習金平 VS. トランプ	飛鳥新社	¥1,400
岩田 誠	13	ホモ ピクトル ムジカーリス	中山書店	¥2,800
		上手な脳の使いかた	岩波書店	¥820
		認知症と生きるということ	日本評論社	¥1,400
		しびれ、頭痛から認知症まで	日本評論社	¥1,700
		脳のすべてがわかる	ナツメ社	¥1,500
		神経内科医の文学診断	白水社	¥1,900
		鼻の先から尻尾まで	中山書店	¥2,800
		脳を守ろう 岩波ブックレット No. 967	岩波書店	¥3,600
和田 勝	15	比較内分泌学入門	裳華房	¥2,800
		基礎から学ぶ生物学・細胞生物学	羊土社	¥3,200
小川 肇(編著)	15	日本の気候景観	古今書店	¥2,800
		日本の風土	平凡社	¥3,800
高橋 進	20	生物多様性と保護地域の国際関係	明石書店	¥2,800
二木 直巳	24	絵画の行方—現代美術の美しさって何?	府中市美術館	非売品
		美術手帳 2008年7月号	美術出版社	—
		二木直巳眺望を求めて—小杉放菴とともに	小杉放菴記念日光美術館	非売品
中條 克俊	27	君たちに伝えたい③	梨の木舎	¥1,800
		朝霞、校内暴力の嵐から生まれたボクらの平和学習		
絲山 秋子	37	離陸	文藝春秋	¥1,750
		不愉快な本の続編	新潮社	¥1,200
阿部 浩一	38	東北近世の胎動	吉川弘文館	¥2,400
		東北史を開く(史学会125周年リレーシンポジウム)	山川出版社	¥2,000

平成二九年度 朝陽同窓会 総会 記念講演

わが愛憎の画家たち

芥川 喜好（一九回）



新聞記者を四十五年、そのうち三十八年を美術担当として過ごしてきました。まだ現役です。

何でそんなことになったのか、自分でも不思議に思いますが、他の分野に比べれば自分なりのやり方が許される、自分の価値観で仕事ができる、といったあたりが、長続した理由かもしれません。

一年ほど前のことですが、上野公園の美術館周辺に、あきれほどの長蛇の列が出現しました。最後尾で五、六時間待ち、しかも炎天下です。ようやく入場しても作品の前は大混雑で、鑑賞どころではない。

若冲展ですね。なぜ人々はそんなにまでして若冲到群がるのか。仕事柄、若冲ブームについて聞かれることも多いのですが、ブームというのは、流行りものだからさらに流行る、話題のものだからさらに人が群がる、それをメディアがさらに煽る、とで答えるしかない。ただ、若冲の場合は、

もう少し個別的な要因があるような気がします。

ご承知のように、日本の美術にはあまり類のない一種狂熱的な造形です。激しくうねる曲線、おそろしく細密な描き込み、徹底した濃彩。きらびやかで、執拗で、マニアックな、刺激の強い世界です。つまり、そういう「すごいもの」を見たい、「強烈な体験」をしたいという願望が、現代人の一見平穏な日常の底にひそんでいる。若冲の絵画はそこにデザイン性とスピード感が加わりますから、まさに現代的な価値そのものといってもいいわけです。

お配りした図版をご覧いただくと、若冲の隣に蕪村の作品が二点あります。二人は全く同時代の人間で、同じ京都市中の目と鼻の先に住んでいた。顔見知りだったかもしれない。作風は好対照ですね。蕪村は強烈さや技巧性とは無縁、ゆるやかに息のつける、人心地のつく空間です。

実は、若冲展の一年前に都内で「若冲と蕪村」という展覧会が開かれていて、ここでも若冲人気が高かったのですが、私にとっては圧倒的に蕪村の良さを再認識する機会になった。かつて比較文化史の芳賀徹

氏は、蕪村の絵画を「漢方薬のような鎮痛鎮静の効能」と評しました。この時も現代美術批評の峯村敏明氏が、「蕪村は遅いのである」と喝破された。いいですね、こういう感覚。それだけ世界との接触が濃密ということでもある。私もまた、スピード感からも熱狂からも遠い、むしろ身体の自然に近い絵画空間に身を浸していたい。

ブームとか流行とかいうものは、所詮、人為的に作り出されるものです。コマースヤリズムも絡んでいます。美術の世界は多彩であり、一人一人の速度にかなう良きものが必ずあるはずですよ。

図版に掲げた浦上玉堂は江戸時代後期の武士で、五十歳のとき琴を片手に男の子二人を連れて脱藩し、全国を放浪します。そして六十歳をこえてから、途方もないエネルギーに満ちた水墨山水を描き出すのです。私の考える本邦随一の絵かきです。

図の下段、木田金次郎は有島武郎の「生れ出づる悩み」のモデルですが、六十一歳のとき洞爺丸台風下の岩内大火で一切を失い、人生の残り八年で代表作のすべてを描いた男です。大火後の作品群は日本油彩画の一点でもある。夭折画家がもてはやされる風土ですが、いい絵は還暦後だぜ、と言いたいですね。皆さんもどうぞお元気で。

（読売新聞編集委員）

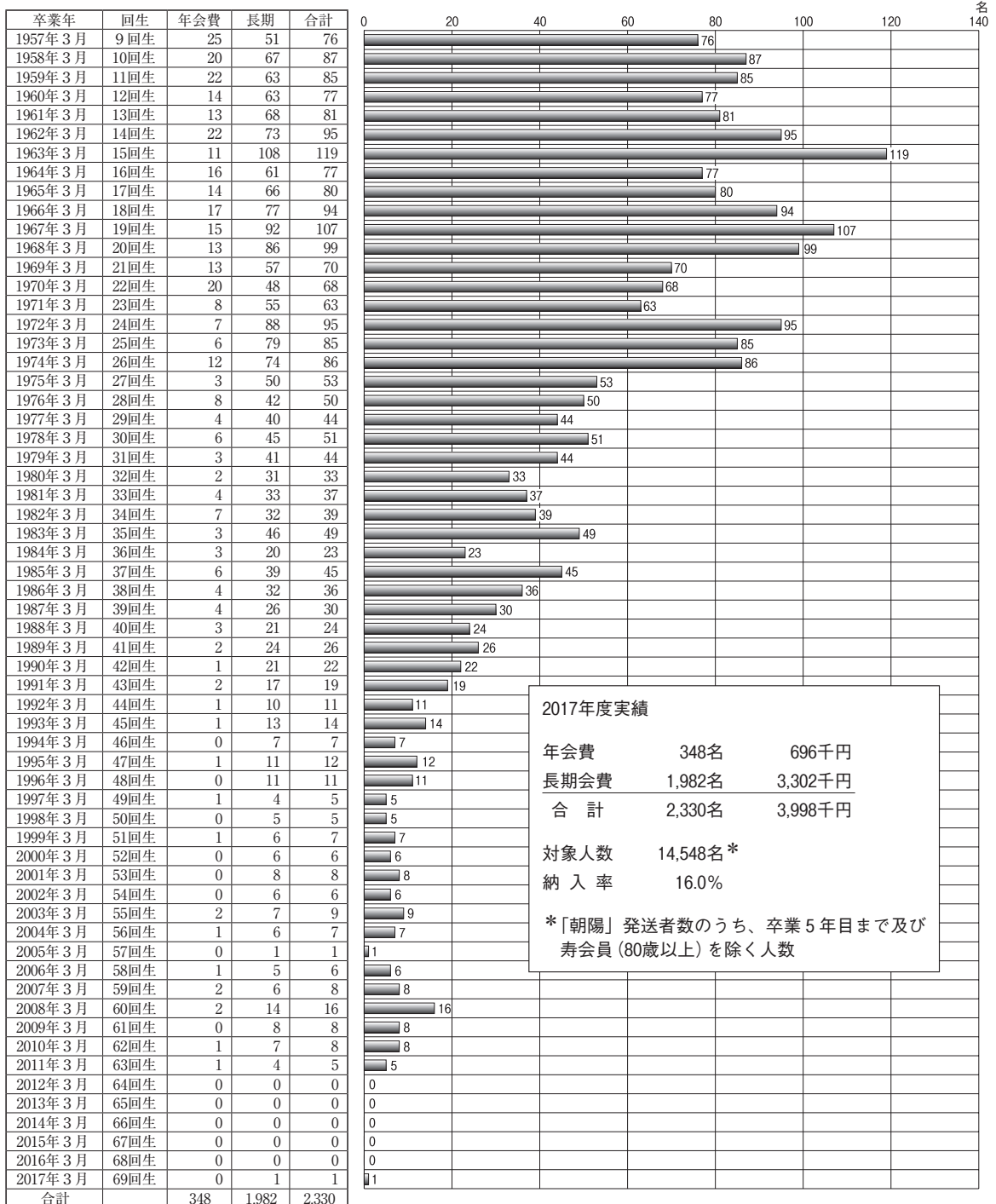
卒業回別同窓会費納入状況—会費納入にご協力をお願いします—

同窓会活動は皆さまからの会費が、唯一の収入源です。同窓会報「朝陽」の発行を始め、母校支援、ホームカミングデーなど、同窓会活動はすべて皆さまからの会費で運営しています。

2017年度の会費納入状況は下表のとおり11月10日時点で16.0%の低率にとどまっており、このままでは今後の運営に支障が出かねません。

年会費は2,000円です。同窓会維持・発展のために、一層のご協力をよろしくお願いします。

会費卒業年次別納入者分布表 2,330名(内長期1,982名) 2017年11月



昨2017年度は創立100周年記念事業を更に一步前進させた年です。1億円を目標とした募金活動は、昨年度末で約4千500万円に達し、目標達成に希望が持てる成果を挙げました。また朝陽奨学金の給付や館山寮の改修など様々な100周年記念事業を展開し、母校からも多大な感謝の意を受けております。

- 前年に続く朝陽奨学金の給付
- 館山寮船倉改築・竹藪伐採
- ホームカミングデー2年目の開催
- 記念音楽会と100周年誌編纂の準備開始

また100周年記念事業以外のものでも、例年以上の催しがあり、大勢の同窓生が参加しました。

- 「朝陽」66号発行
- 総会と19回生の記念講演開催
- 母校の「進路部通信」への寄稿
- 戸山新宿交流戦の開催
- 5朝陽支部総会の開催
- キャリアガイダンスで卒業生講演12名
- 朝陽祭出展
- 第25回校歌祭参加
- 朝陽クラブ開催3回
- 同窓生母校講演開催1回

今年度は軌道に乗り始めた100周年記念事業を更に展開する年です。まず為すべきは募金活動の加速化です。今年度は募金第Ⅱ期の最後の年であり、1年間で2千万円を集めたいと計画しております。

集めた募金はまず先に朝陽奨学金の増額に使用します。経済格差の波は母校の生徒へも押し寄せております。何とか支給額を増やし、他都立高校同窓会並みとしたいと考えております。

集いの場の創設に関し、今年は母校に

近い所で小規模な賃貸事務所を借り、100周年記念事業準備室を開設し、100周年誌の編纂を始めると共に、100周年記念事業の打ち合わせ、各同期会の幹事会の会合、ブリッジなどの趣味の会の利用などにお使い頂くことを考えております。

しかし一方ではより便利な集いの場を確保するとの望みは捨てていません。国や都などのあらゆる施設を探し、或は同窓会生のご厚意に甘えて施設を確保するなど、最大限の努力をしてゆくつもりです。

100周年記念事業に関しては既に記念音楽会の開催準備や100周年史編纂委員会は発足しましたが、それ以外に今年は記念祝賀会のための準備委員会を設立します。

我々の先輩校である小石川高校が今年100周年を迎え、京王プラザホテルで800名参加の祝賀会を開催するとのこと。我々の90周年記念の時には300名規模の祝賀会を開催しておりますので、更にそれを倍増する参加者を集め、盛大に創立100周年を祝いたいと思っております。

その他今年もホームカミングデー開催や総会、朝陽クラブや戸山新宿交流戦、東京校歌祭など盛りだくさんなイベントを開催します。皆様方の大勢のご参加をお待ち申し上げます。

尚年会費の増収も喫緊の課題であります。朝陽記念募金に目を捉われがちですが、年会費の増収を行い、朝陽同窓会の財務基盤を確固たるものにする必要があります。今年度は会費集金の方法の再検討や同窓会員への意識付けを行い、皆様方と共にこの問題に取り組んでゆきたいと思っております。

2017年度決算(案)

期間 2017年4月1日より2018年3月31日まで

△印は予算に対して実績が少なかったことを示す

勘定科目	予算	実績	差異	差異理由(予算→実績)
<収益の部>				
入会金	3,975,000	3,885,000	△ 90,000	
年会費	1,014,000	722,000	△ 292,000	507名⇒361名
長期会費	5,018,000	4,714,242	△ 303,758	3,012名⇒2,830名
名簿売上	0	48,500	48,500	
朝陽広告料収入	727,000	737,000	10,000	
100周年記念募金	35,000,000	16,357,407	△ 18,642,593	期待過多
預金受取利息	8,000	8,349	349	
經常収益合計	45,742,000	26,472,498	△ 19,269,502	
<費用の部>				
事務局手当	6,312,000	5,522,000	△ 790,000	事務局員交代延期
通勤交通費	469,000	457,788	△ 11,212	
会議費	420,000	276,997	△ 143,003	学校との懇談会費をポイントで支払い
通信費	390,000	454,935	64,935	
光熱費	170,000	168,062	△ 1,938	
備品費	50,000	156,060	106,060	ノートパソコン購入
消耗品費	839,000	977,445	138,445	プリンター緊急保守実施
記念品・慶弔費	116,000	117,400	1,400	
銀行郵貯手数料	198,000	134,834	△ 63,166	
出張旅費	187,000	83,278	△ 103,722	九州朝陽会へ役員参加できず
寄付金	100,000	0	△ 100,000	財団法人朝陽会への図書寄贈中止
名簿印刷発送費	104,000	151,740	47,740	
朝陽発行費	3,784,000	3,557,445	△ 226,555	発送単価節減68円⇒62円
総会費	781,000	772,990	△ 8,010	
支部助成金	200,000	200,000	0	
校歌祭費用	75,000	60,000	△ 15,000	
朝陽クラブ運営費用	225,000	282,760	57,760	
朝陽祭参加費用	50,000	7,900	△ 42,100	
活動助成金	188,000	20,000	△ 168,000	初回同期会補助発生せず
キャリアガイダンス費用	113,000	216,413	103,413	進路部通信小冊子作成
100周年記念-募金対象	10,500,000	10,400,000	△ 100,000	朝陽奨学金15名⇒14名
100周年記念-その他	2,900,000	1,019,455	△ 1,880,545	秋季広報誌発行見送り
予備費	600,000	0	△ 600,000	
經常費用合計	28,751,000	25,037,502	△ 3,713,498	
当期經常増減額	16,991,000	1,434,996	△ 15,556,004	

財産目録

2018年3月31日現在

科目	金額	摘要	科目	金額
<資産の部>			<負債の部>	
現金	17,270		源泉徴収所得税預かり	26,010
(募金引当預金)			予納会費-71回生、72回生	4,065,000
定期預金	30,000,000	三井住友信託他	長期会費未経過引当金	11,415,436
(その他預金)			計	15,506,446
定額貯金	10,049,437	ゆうちょ銀行	<繰越金>	
郵便貯金	11,023,894	東京貯蓄センター他	100周年記念募金繰越金(註)	26,552,280
普通預金	5,083,409	三菱東京UFJ、りそな他	一般繰越金	14,095,284
			計	40,647,564
合計	56,154,010		合計	56,154,010

(註) 100周年記念募金繰越金

剰余金処分案		2015年度募金	17,341,200
1.前年度繰越金	39,212,568	2016年度募金	11,853,673
当期經常増減額による積み増し	1,434,996	2017年度募金	16,357,407
計	40,647,564	募金累計	45,552,280
2.これを次の通り処分します		2016年度奨学金給付	△ 1,100,000
次期繰越金	40,647,564	2017年度奨学金給付	△ 1,400,000
		2016年度館山茶改修	△ 7,500,000
		2017年度館山茶改修	△ 9,000,000
		募金からの支出累計	△ 19,000,000
		差引募金繰越高	26,552,280

会計監査報告

2017年度朝陽同窓会の会計監査を行いましたところ、会計帳簿、および証憑書類との照合結果については、いずれも一致していることを確認いたしました。

2018年4月11日

監事 山本展也・島崎主税

2018年度予算(案)

期間 2018年4月1日より2019年3月31日まで

△印は前年実績に対して予算が少なくなったことを示す

勘定科目	前年実績	予算	差異	差異理由(実績→予算)
<収益の部>				
入会金	3,885,000	4,200,000	315,000	259名⇒280名
年会費	722,000	866,000	144,000	361名⇒433名 前年の2割増
長期会費	4,714,242	5,658,000	943,758	2,830名⇒3,396名 前年の2割増
寄付金	0	0	0	
名簿売上	48,500	0	△ 48,500	
朝陽広告料収入	737,000	657,000	△ 80,000	
100周年記念募金	16,357,407	20,000,000	3,642,593	前年の2割増
預金受取利息	8,349	8,400	51	
雑収入	0	0	0	
経常収益合計	26,472,498	31,389,400	4,916,902	
<費用の部>				
事務局手当	5,522,000	6,434,000	912,000	事務局員1名交代
通勤交通費	457,788	459,000	1,212	
会議費	276,997	340,000	63,003	
通信費	454,935	472,000	17,065	
光熱費	168,062	170,000	1,938	
備品費	156,060	25,000	△ 131,060	今年はノートパソコン購入なし
消耗品費	977,445	825,000	△ 152,445	今年はプリンター緊急保守なし
記念品・慶弔費	117,400	125,000	7,600	
銀行郵貯手数料	134,834	135,000	166	
出張旅費	83,278	170,000	86,722	
寄付金	0	0	0	
名簿発行費	151,740	125,000	△ 26,740	
朝陽発行費	3,557,445	3,201,000	△ 356,445	募金趣意書印刷代の仕訳変更
総会費	772,990	859,000	86,010	
支部助成金	200,000	260,000	60,000	
校歌祭費用	60,000	60,000	0	
朝陽クラブ運営費	282,760	300,000	17,240	
朝陽祭参加費	7,900	10,000	2,100	
活動助成金	20,000	85,000	65,000	
キャリアガイダンス	216,413	268,000	51,587	
100周年記念-募金対象	10,400,000	5,500,000	△ 4,900,000	今年は館山寮改修なし
100周年記念-その他	1,019,455	1,700,000	680,545	募金趣意書を含む
予備費		600,000	600,000	
経常費用合計	25,037,502	22,123,000	△ 2,914,502	
当期経常増減額	1,434,996	9,266,400	7,831,404	

正誤表

前号（朝陽六六号）掲載の以下の記事に誤りがありました。編集の不手際をお詫びすると共に、ここに訂正いたします。

☆目次 1頁1段左から1行目

誤…7森田亨

正…7森田亨

☆運動会と思い出すあの時代 27頁3段5行目

誤…朝陽同窓会で

正…朝陽同窓会で

☆同前 28頁2段11行目

『運動会は当時から「体育祭」の』とありますが、これは筆者の思い違いで、正しくは「運動会」でした。筆者への確認もれ、見過ごしをお詫びいたします。

☆卒業六十周年 30頁2段目12行目

誤…御苑側…ばつが悪かったな。

正…御苑側に飛び降りたら、目の前に若いカップルが…ばつが悪かったな。

☆五輪、会場の整備と選手強化も 31頁2段左から4行目

誤…漕ぐ機会は学部対校

正…漕ぐ機会は学部対抗

☆有能な同期たちと楽しんだ「いちご会」41頁1段目13行目

誤…②母校一、二年生六四十名に講演

正…②母校一、二年生六百四十名に講演

☆半寿記念同期会 45頁3段目7行目

誤…十羽田市のS君

正…十和田市のS君

☆九州支部便り 49頁2段目4行目

誤…ランプのベンチャー企業の立ち上げ、原子力したが、先輩・後輩諸氏の澆刺

正…ランプのベンチャー企業の立ち上げ、原子力発電に寄せる思い等々、全会員が報告しましたが、先輩・後輩諸氏の澆刺

☆お世話になりました 59頁2段目左から4行目

誤…朝陽同窓

正…朝陽同窓

☆初代校舎時代に思いをよせて 67頁2段目8行目

誤…数社の新聞を比較

正…数社の新聞を比較

☆同前 67頁3段目1行目

誤…カメラやライト続き東京大や

正…カメラやライトを持ち込んでいる。当時は大学紛争が続き東京大や

☆同前 67頁3段目7行目

誤…もなかった。

正…もなかった。

☆同前 67頁3段目10行目

誤…光カメラが回り始めた。

正…光りカメラが回り始めた。

☆池辺晋一郎さんが母校合唱コンクール課題曲を作曲 69頁3段目2行目

誤…（一七回）池辺晋一郎

正…（一五回）池辺晋一郎

以上

編集後記

今号では、より読みやすくするために、活字を一ポイント大きくしました。一方、想定以上に多くの方々からご寄稿頂き、一部記事は従来の小さな活字とせざるを得ませんでした。編集の不手際をお詫び申し上げます。

今後一層、読みやすく、読んで楽しい紙面作りに努力してまいります。紙面構成や掲載記事につきご意見・ご要望をよせていただければありがたいと存じます。

（朝陽編集委員長 一八回 林 慶治郎）

東京都立新宿高等学校朝陽同窓会
同窓会会報 朝陽 67号

発行日：平成30年5月1日
発行人：東京都新宿区内藤町11番4
東京都立新宿高校内
朝陽同窓会長 田中 俊郎
表紙デザイン：草川 衛 (18回)

非売品

本文（写真、文章）の無断転用転載はお断りいたします



ゼンショー社員の説明を真剣に聞く子どもたち

ルワンダの小学校に家庭科教室を建設・完成

ゼンショーグループは、アフリカに位置するルワンダで、現地コーヒー生産者組合をパートナーにフェアトレードを行っています。そして、この活動によって生まれる社会開発資金を活用した取り組みの一つとして、生産者組合に加盟する生産者の子どもたちが通っている小学校に家庭科教室を建設することにし、2017年5月に教室が竣工しました。

この家庭科教室は、子どもたちが裁縫や料理を学ぶため、備え付けのかまどが設置された調理室や、グループワークが行いやすい様に大きな机が設置された教室、そして、ガールズルームと呼ばれる女子生徒専用の部屋などで構成されています。

竣工当日には、ゼンショー社員が先生役となって裁縫授業のデモンストレーションが行われ、約50人の子どもたちが参加しました。慣れない手つきながら一生懸命、糸通し、布切り、そして、並縫いをして

かわいい袋を縫い上げ、生活に役立つ裁縫の重要性を学びました。

駐日ルワンダ共和国大使のベネティア・セブダンディ氏は、「家庭科教室には大きな期待をしています。子どもたちの未来に対するこのような取り組みは、ゼンショーと心と心の関係を深めることになり、将来においてもいい関係が築けると考えています」と話しています。

ゼンショーグループは、ルワンダに住む人々の良きパートナーとして、今後も様々な取り組みを行っていきます。



完成した
家庭科教室の外観

世界に広がる“ゼンショーフェアトレード”

現在、世界18か国でコーヒー、紅茶、ココアのフェアトレードを行っています。(取引国18か国/2017年12月末時点)



コンゴ ウガンダ ケニア ネパール インド スリランカ メキシコ ニカラガ キューバ コスタリカ



ルワンダ ブルンジ マラウイ タンザニア 影イモール ハブアニューニア エクアドル ベルギー

ゼンショーフェアトレード商品の
お買い求めはこちら

ゼンショーネットストア 検索



株式会社 ゼンショーホールディングス
代表取締役社長 小川 賢太郎 (19回卒)

〒108-0075 東京都港区港南2-18-1 JR品川イーストビル Tel : 03-6833-1600



事務局だより

●平成30年度同窓会総会・懇親会のご案内

今年の朝陽同窓会総会は以下のとおり執り行います。皆様のご出席をお待ちしています。懇親会は4時から、参加無料です。お気軽にご参加ください。

日時： 5月26日（土）午後2時～6時

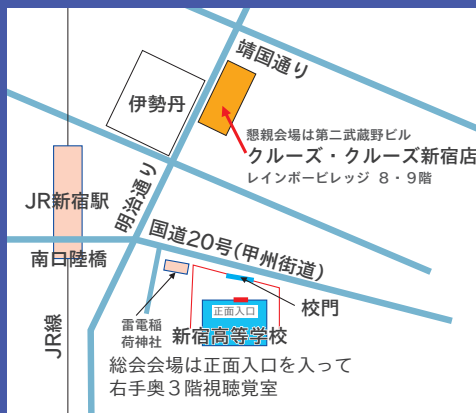
場所： 総会 新宿高校3階視聴覚室 2時～
懇親会 クルーズ・クルーズ新宿店 4時～

総会議事：

- 29年度活動報告・決算
- 30年度活動計画・予算
- 100周年記念事業、その他

記念講演：

「最期まで自分らしく生きる
—高齢社会をいかに生きるか—」
高林克日己氏（千葉大学名誉教授・20回）



●“朝陽同窓会集いの場”を再び

同窓会員が時間にとらわれず夜間や休日でも集える常設のスペースを都区内で探しています。「同期会の準備会合を仕事帰りに行いたい」、「趣味のブリッジをゆっくり楽しみたい」といったニーズに応えられる場所が手に入らないものか。こんな願いを叶える情報を求めています。できれば長期無償借用が可能なオフィスの一部、マンションの一室などの物件情報、またそういった資産のご提供者に関する情報など、集いの場の確保に結び付く情報を朝陽同窓会事務局にお寄せください。

●募金のお願い

皆様のご協力により、100周年記念募金は、第Ⅰ期2年で2919万円、第Ⅱ期1年で1634万円のご寄付が集まりました。引き続き第Ⅱ期2年目の目標を2000万円とし、募金活動を継続します。百周年まであと4年で1億円達成の道筋が見えてきました。今後ともご支援のほどよろしくお願いいたします。詳しくは同封の「創立100周年記念募金にご協力いただいた同窓生の皆様に感謝を込めて」をご覧ください。

●第3回ホームカミングデーの開催

「第2回ホームカミングデー」は163名のご参加をいただき盛大に開催することが出来ました。22名の恩師を前に現役の管弦楽部やチアリーディング部の技の披露、懐かしい“数学と生物の名授業”の再現など、ご参加の皆様には思い出深い一日を過ごしていただきました。

第3回ホームカミングデーの開催日は11月24日（土）。さあ母校に集合です。

今年も、校内見学その他、皆様に喜んでいただける企画を準備してお待ちします。どうぞお誘い合わせの上奮ってご参加ください。



●会費納入のお願い

朝陽同窓会のさまざまな事業は、すべて皆様からの会費によってまかなわれています。同窓会活動をさらに充実させるためにも、一層のご支援ご協力をお願いいたします。

●年会費2,000円、長期会費10,000円（6年間有効）のいずれか。

会費納入のご相談は、お気軽に同窓会事務局までどうぞ。

百周年ロゴタイプはホームページからダウンロードできます



朝陽同窓会フェイスブック・ホームページをご活用ください

<https://facebook.com/jchouyou>

<http://www.nchouyou.net>